Canon

ネットワークカメラ

操作ガイド

VB-H47/VB-M46

VB-S32VE/VB-S32D

VB-S820D/VB-S920F

ご使用の前に必ずこの使用説明書をお読みください。

日本語

目次

はじめに 8
この製品の使用に関するご注意 (免責事項) 8
ソフトウェアの使用許諾契約 9
商標 9
第三者のソフトウェア 9
輸出規制 10
使用説明書について 11
使用説明書の種類 11
本書の使いかた 11
本書で使用している記号 12

1章 ご使用の前に
ネットワークカメラでできること 14
カメラのソフトウェア 15
カメラの操作と設定 15
PCにインストールするソフトウェア 15
オプションのライセンス 16
動作環境 17
PC環境詳細 17
動作確認済モバイル環境 (設定ページ、カメラビューワー、モバイルカメラビューワー)
– 2022年1月時点 17
カメラを使用するまでの流れ 18
Step 1 設置前の準備 18
Step 2 カメラを設置する 18
Step 3 カメラアングルを設定する 18
Step 4 カメラビューワーを使う 18
Step 5 運用に合わせて詳細設定する 18
困ったときは 18

2章 カメラのセットアップ
ソフトウェアをインストールする 20
必要なソフトウェア 20
インストール 20
Windowsの設定を確認する 21
ファイアウォールの設定 21
Windows Server使用時の設定 21
プロキシサーバーを使用する環境での設定 22
カメラを初期設定する 23
カメラマネジメントツールでの設定の流れ 23
Webブラウザーで直接カメラの初期設定画面を開く 23
カメラアングルを設定する 25

3章 カメラビューワー
カメラビューワーで映像を見る 27
カメラビューワーを起動する 27

カメラビューワーのアクセス制限 28
カメラビューワーの画面構成 29
受信映像サイズや表示画面サイズを変更する 32
受信映像サイズ/フォーマット、表示画面サイズを変更する 32
全画面表示にする 33
カメラを操作する 35
カメラ制御権を取得する 35
パン・チルト・ズームを操作する 36
映像を調整する 40
逆光補正を使用する 41
プリセット/ホームポジションを使用する 41
ビューワー PTZとデジタルPTZ 42
映像の一部を拡大して表示する (ビューワー PTZ) 42
映像の一部を切り出して表示する (デジタルPTZ) 44
スナップショットを保存する 46
メモリーカードに映像を記録する 47
映像を手動録画する 47
録画した映像を確認する 47
音声を受信・送信する 48
音声を受信する 48
音声を送信する 48
外部デバイス出力の操作・イベント検知状態の確認を行う 50
外部デバイス出力を操作する 50
イベント検知の状態を確認する 50

4章 設定ページ

設定ページの使いかた 53
設定ページにアクセスする 53
設定ページ共通の操作 54
映像表示部の操作について 55
各設定ページについて 57
[映像] > [映像] 59
ストリーム1、ストリーム2 59
ストリーム3、ストリーム4 60
デジタルPTZ 61
[映像] > [カメラアングル] 62
[映像] > [プリセット] 63
カメラ位置 63
簡単カメラ設定 64
露出・補正 64
フォーカス 68
ホワイトバランス 69
画質調整 70
プリセット登録 71
[映像] > [プリセット巡回] 74
画面構成について 74
巡回ルートの設定 76

[映像] > [ピクチャー (オプション)] 78
カメラ制御 78
デイナイト 79
[映像] > [ADSR] 80
ADSR、ADSR領域 80
ADSR全般 81
[映像] > [オンスクリーン表示] 82
日付表示 82
時刻表示 82
テキスト表示 82
共通設定 83
[映像] > [プライバシーマスク] 84
プライバシーマスクを登録する 84
プライバシーマスクを変更/削除する 86
[映像] > [可視範囲] 87
可視範囲を設定する 88
[映像] > [パノラマ] 91
パノラマ画像を作成する 91
パノラマ画像を画像ファイルとして保存する/画像ファイルを開く 93
[音声] > [音声] 94
音声全般 94
AAC-LC 95
音声サーバー 95
再生音ファイル登録1～3 96
[映像記録] > [アップロード] 97
映像記録設定 97
アップロード全般 97
FTPアップロード 98
HTTPアップロード 99
[映像記録] > [メモリーカード記録] 101
映像記録設定 101
メモリーカードの操作 102
メモリーカードの情報 103
[映像記録] > [メール通報] 104
メール通報 104
[検知] > [音声検知] 106
音量検知 106
[検知] > [インテリジェント機能] －概要－ 108
インテリジェント機能とは 108
インテリジェント機能の設定・運用上の注意 111
設定画面 112
映像検知設定の流れ 114
[検知] > [インテリジェント機能] －検知設定－ 116
[検知条件] タブ 116
領域やラインの設定 117
検知状態の表示について 118
[イベント] タブ 120

[イベント] > [外部デバイス] 122
外部デバイス出力 122
外部デバイス入力 122
外部デバイス入力1、2 123
[イベント] > [タイマー] 125
タイマー 1～4 125
[イベント] > [デイナイト切り換え] 127
デイナイト切り換え 127
[イベント] > [連結イベント] 128
連結イベント1～4 128
連結イベントの動作例 130
[サーバー] > [サーバー] 132
HTTPサーバー 132
SNMPサーバー 132
SNMPv1, v2cサーバー 133
SNMPv3サーバー 133
[サーバー] > [映像サーバー] 134
映像サーバー 134
[サーバー] > [RTPサーバー] 135
RTPサーバー 135
音声設定 1、2 135
RTPストリーム1～5 136
[ONVIF] > [ONVIF] 137
WS-Security 137
Media Profile設定 137
[セキュリティ] > [証明書管理] 138
サーバー /クライアント証明書の管理 138
証明書の作成 138
CA証明書の管理 139
CRLの管理 139
[セキュリティ] > [SSL/TLS] 140
暗号化通信 140
サーバー証明書 140
[セキュリティ] > [802.1X] 141
802.1X認証 141
認証方式 141
クライアント証明書 141
[セキュリティ] > [ユーザー管理] 142
管理者アカウント 142
登録ユーザーアカウント 142
ユーザー権限 143
[セキュリティ] > [ホストアクセス制限] 144
IPv4ホストアクセス制限 144
IPv6ホストアクセス制限 144
[システム] > [システム] 146
カメラ名 146
設置条件 146
カメラ位置制御 146

外部入力デバイス 147
外部出力デバイス 147
[システム] > [ビューワー] 148
全般 148
ビューワー設定 148
[システム] > [日付と時刻] 149
現在の日付と時刻 149
設定 149
[システム] > [メモリーカード] 151
メモリーカードの操作 151
メモリーカードの情報 151
[システム] > [ネットワーク] 152
LAN 152
IPv4 152
IPv6 153
DNS 154
mDNS 154
[メンテナンス] > [全般] 155
機器情報 155
表示と実行 155
初期化 155
[メンテナンス] > [バックアップ/リストア] 157
バックアップ/リストア 157
[メンテナンス] > [ファームウェア更新] 158
機器情報 158
ファームウェア更新 158
[メンテナンス] > [環境] 159
環境 159
[メンテナンス] > [ログ] 160
ログ表示 160
ログ通知 160

5章 付録

修飾子について 163
トラブルシューティング 165
ログメッセージ一覧 168
カメラのログメッセージ 168
エラーログ 168
警告ログ 172
通知ログ 176
ビューワーメッセージ一覧 180
インフォメーション表示に表示されるメッセージ 180
工場出荷設定に戻す 182
Web ブラウザーから初期設定に戻す 182
本体リセットスイッチで工場出荷設定に戻す 182
工場出荷設定一覧 184
日常のお手入れ 190
映像の確認 190

清掃方法 190
カメラの廃棄 191
索引 192

はじめに

キヤノンネットワークカメラ (以下、カメラ) をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます*。
この『操作ガイド』は、カメラの設定や操作方法について説明しています。ご使用前によくお読みになり、カメラを正しく利用してください。

* 本書に記載しているカメラには、国または地域によって販売していない機種もあります。

製品に関する最新情報 (ファームウェアやソフトウェア、使用説明書、動作環境など) は、ホームページをご確認ください。

この製品の使用に関するご注意 (免責事項)

■ ネットワークセキュリティ

ネットワークのセキュリティ対策に関しては、お客様ご自身の責任で行ってください。
不正アクセスなどネットワークのセキュリティ上の問題により発生した直接、間接の損害については、弊社は一切の責任を負いかねます。

＜対策例＞

- 管理者パスワードは第三者に推測されにくいパスワードを設定する。
- カメラのHTTP、HTTPSポート番号を変更する。
- 通信機器でカメラへのアクセス制限を行う。

その他、対策のポイントについては、次のホームページでも紹介しています。合わせてご確認ください。
http://cweb.canon.jp/e-support/information/security/index.html

■ ラジオやテレビなどへの電波障害

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

■ CMOSセンサーについて

ネットワークカメラで動きの速い被写体を撮影したときや、撮影中に画角が変化したときに被写体が斜めに曲がって見えることがあります。
これはCMOS撮像素子を使用した場合に発生する現象であり、ネットワークカメラの異常ではありません。

■ カメラ搭載の機能およびソフトウェアの使用上の注意

カメラに搭載されている次の機能およびソフトウェアは、常に高い信頼性が要求される用途では使用しないでください。

- インテリジェント機能
- ブレ補正機能 HM4x

これらの機能は高精度の撮影を保証するものではなく、一定範囲を超えると対応できません。これらの機能を使用した結果生じた事故や損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。

ソフトウェアの使用許諾契約

ソフトウェアの使用許諾契約については、インストーラーとともに提供されるテキストファイルをご確認ください。

商標

- Microsoft、Windows、Windows ServerおよびMicrosoft Edgeは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Safariは、Apple Inc. の商標です。
- IOSは、米国および他の国々で登録されたCiscoの商標であり、ライセンスに基づいて使用しています。
- ONVIF®は、ONVIF, Inc. の商標です。
- その他、本書に記載された商品名、社名などは各社の商標または登録商標です。

第三者のソフトウェア

このカメラには、第三者のソフトウェアモジュールが含まれています。各モジュールのライセンス条件につきましては、設定ページの [メンテナンス] > [全般] > [表示と実行] > [第三者のソフトウェアライセンス条件を見る] からご確認ください。

GPLおよびLGPLで許諾されるソフトウェアについて

GPLおよびLGPLに基づき、ソースコードの入手をご希望の方は、下記のいずれかでご連絡ください。

(1) ソースコードをダウンロードできるURLのメール通知をご希望の方
以下のURLへアクセスし必要事項を記入ください。
https://global.canon/ja/oss/scd/index.html

(2) ソースコードの郵送提供をご希望の方
下記【郵送提供時の項目】を明記の上、以下の住所まで日本語または英語で、郵便でご連絡ください。
〒146-8501 東京都大田区下丸子3-30-2 キヤノン株式会社 オープンソース推進室
ソースコードを郵送で提供するにあたり、弊社からご提供に要した実費をご請求させていただく場合もございますので、その旨ご了承ください。
【個人情報の取り扱い】
個人情報の取り扱いにつきましては、キヤノングローバルサイトの以下のページをご確認ください。
https://global.canon/ja/oss/scd/privacy-notice.html
【郵送提供時の項目】
(1) 郵送先 (必須) : 国、郵便番号、住所、氏名を記入してください。
(2) メールアドレス (任意) : ソースコード提供時、確認が必要な場合に利用します。
(3) 機種名/アプリケーション名 (必須)
(4) バージョン (任意)
未指定の場合は、最新バージョンに対応するソースコードをお渡しします。

This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE HTTP://WWW.MPEGLA.COM

本製品には、Microsoft社より使用を許諾されたexFATファイルシステムの技術が組み込まれています。

輸出規制

本製品は、安全保障輸出規制貨物に該当します。そのため、輸出または海外に持ち出す場合は、関係当局の許可が必要となることがあります。

使用説明書について

使用説明書の種類

カメラの使用説明書には、次のものがあります。各使用説明書を参照していただきたい部分には、その使用説明書名を記しています。

「はじめにお読みください」(同梱)
カメラを安全にお使いいただくための注意事項やホームページからのダウンロード情報などについて説明しています。

「設置ガイド」
カメラ設置上の注意、設置手順を説明しています。

「操作ガイド」(本書)
カメラの初期設定、カメラビューワーの操作、設定ページでの各種設定、トラブルシューティングなどを説明しています。

「モバイルカメラビューワー 操作ガイド」
モバイルカメラビューワーの詳しい使いかたについて説明しています。

「主な仕様」
カメラの仕様一覧です。

「カメラマネジメントツール 使用説明書」
カメラマネジメントツールの詳しい使いかたについて説明しています。

「録画映像ユーティリティ 使用説明書」
録画映像ユーティリティの詳しい使いかたについて説明しています。

■ ご注意

1 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
2 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
3 本書の内容については万全を期して作成しましたが、お気づきの点がございましたら、裏表紙に記載のお問い合わせ先までご連絡ください。
4 運用した結果の影響につきましては、上記2項、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

本書の使いかた

本書はPCの画面上に表示して読むことを想定しています。

■ ソフトウェアの画面例

本書に記載されているソフトウェアの画面は、説明のためのサンプルです。実際の画面とは異なることがありますので、ご了承ください。
説明には、OSはWindows 10、WebブラウザーはGoogle Chromeを使用して、VB-H47を接続した画面例を基本的に使用しています。

本書で使用している記号

■ カメラ機種を示す記号

機種ごとに異なる機能の説明については、機種名や次の記号を記載しています。

記号	カメラ機種
HM4x	VB-H47、VB-M46
S32VE	VB-S32VE
S32D	VB-S32D
S820D/S920F	VB-S820D、VB-S920F

■ 安全上の注意を示す記号

この『操作ガイド』で使用している記号について説明します。製品を安全にお使いいただくための注意事項や、使用に際しての重要事項/補足説明などには次のような記号を使用しています。表示の内容を十分理解して作業してください。

記号	意味
⚠警告	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの警告事項をお守りください。
⚠注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、傷害や物的損害が発生する可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
重要	重要事項や制限事項が書かれています。必ずお読みください。
メモ	操作の参考になることや補足説明が書かれています。

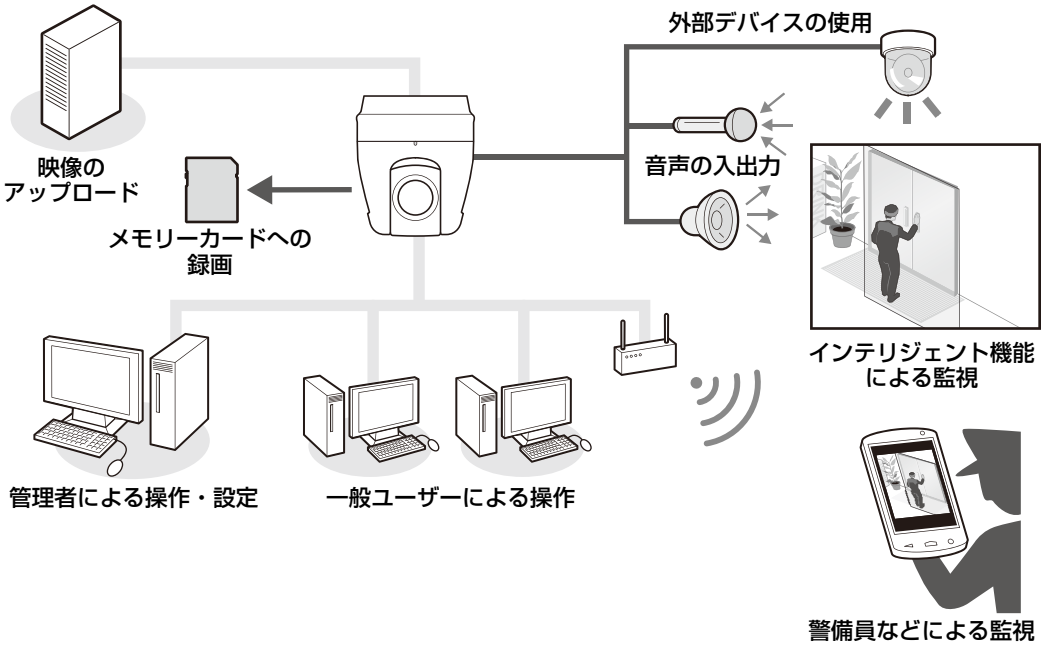
1章

ご使用の前に

カメラの機能や使用するソフトウェア、カメラの動作環境について記載しています。
また、実際に運用するまでの準備・設定についての流れも説明します。

ネットワークカメラでできること

ネットワークカメラでは、カメラ操作だけでなく、映像の録画やアップロード、また、各種インテリジェント機能を使用した監視が可能です。
ただし、機種によって使用できる機能は異なります。機種による機能の違いについては、下表を参照してください。



■ 機種別機能対応表

機種によって搭載・非搭載の差分がある機能は、次のとおりです。

	HM4x	S32VE	S32D	S820D/S920F
パン・チルト・ズーム	○	○	○	-
音声出力端子	○	○	-	-
外部デバイス入力端子	2	1	1	1
外部デバイス出力端子	2	1	1	1
映像表示の回転	-	-	-	○
フォーカス	○	○	○	-
絞り	○	-	-	-
拡張デジタルズーム	○	-	-	-
ブレ補正	○	-	-	-
デイナイトフォーカス	○	-	-	-
パノラマ作成	○	○	○	-
可視範囲設定	○	○	○	-
プリセット最大登録数	64	64	64	20
プリセット巡回	○	-	-	○
イベントによるプリセット移動	○	○	○	-
microSD/microSDHC/microSDXC メモリーカード*対応	-	○	○	○
SD/SDHC/SDXCメモリーカード*対応	○	-	-	-
最大解像度 1920 x 1080	VB-H47、VB-S32VE、VB-S32D、VB-S820D、VB-S920F			
最大解像度 1280 x 960	VB-M46			

* 本書では、カメラで使用できる各種メモリーカードのことを「メモリーカード」と表記します。

カメラのソフトウェア

カメラの設定や操作を効率よく行うソフトウェアには次のものがあります。

カメラの操作と設定

カメラの操作は、カメラビューワー /モバイルカメラビューワーを使います。
カメラの設定は、設定ページから各種設定をします。

■ カメラビューワー (P. 26) /モバイルカメラビューワー

カメラの制御や、映像・各種イベントをモニターします。
カメラビューワー (主にPC用) 、モバイルカメラビューワー (主に、画面サイズが7インチ以下のデバイス用) があります。
ビューワーは、ユーザーの権限によって使用できる機能が異なります (P. 28)。

メ モ

- モバイルカメラビューワーの詳しい使いかたは、『モバイルカメラビューワー 操作ガイド』を参照してください。

■ 設定ページ (P. 52)

管理者がカメラの設定や管理に使用します。

PCにインストールするソフトウェア

PCにインストールして使用するソフトウェアには、次のものがあります。

■ カメラマネジメントツール

カメラの初期設定からメンテナンスまで、複数台のカメラを一括管理するためのツールです。カメラマネジメントツールを使うと、カメラに対し次の設定・操作が可能です。

- カメラの検出
- カメラの各種設定
- ビューワーおよび設定ページの呼び出し
- ファームウェアの更新や設定値のバックアップ/リストア、メモリーカードの操作など、カメラの各種メンテナンス

使用方法や各種機能など、詳細情報は、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

カメラマネジメントツールは、インストーラーからインストールできます。
インストーラー名 : VBToolsInstall.exe

■ 録画映像ユーティリティ

カメラにマウントされているメモリーカードに記録された映像を、閲覧・管理するユーティリティです。録画映像ユーティリティを使うと、記録されている映像に対し次の設定・操作が可能です。

- 映像一覧の表示
- 映像の再生や削除
- 映像のPCへのダウンロード

使用方法や各種機能など、詳細情報は、『録画映像ユーティリティ 使用説明書』を参照してください。

録画映像ユーティリティは、インストーラーからインストールできます。
インストーラー名：VBToolsInstall.exe

オプションのライセンス

必要に応じて別途お買い求めください。

■ H.264/H.265 追加ユーザーライセンス AUL-VB 2

複数のPCで、ビューワーおよび録画映像ユーティリティからH.264/H.265映像を見るための追加ライセンスです。カメラ1台につき、1ライセンスは付いています。1台のカメラのH.264/H.265映像を複数のPCから見る場合に、追加で必要になります。

動作環境

製品に関する最新情報 (ファームウェアやソフトウェア、使用説明書、動作環境など) は、ホームページをご確認ください。

PC環境詳細

CPU(推奨)	Intel Core i7-2600 以上	
グラフィックボード (推奨)	指定なし	
メモリー (推奨)	2 GB 以上	
ビューワー用ディスプレイ (推奨)	1920 x 1080 以上	
OSとWebブラウザー	Windows 10 64-bit Windows 11 Windows Server 2019 Standard 64-bit Windows Server 2022 Standard 64-bit	Microsoft Edge Chrome
	– JavaScript、IFRAME (HTMLタグ)、Web Storage を使用できる設定とすること – カメラビューワーのみCookieが必要	
OS言語	設定ページ、カメラビューワー、モバイルカメラビューワー : ドイツ語/英語/スペイン語/フランス語/イタリア語/ロシア語/タイ語/韓国語/ 中国語 (簡体字)/日本語	

メ モ

- カメラマネジメントツールの動作環境については、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。
- 録画映像ユーティリティの動作環境については、『録画映像ユーティリティ 使用説明書』を参照してください。

動作確認済モバイル環境 (設定ページ、カメラビューワー、モバイルカメラビューワー)
– 2022年1月時点

OS	Web ブラウザー
Windows 10 Pro、Windows 11	Microsoft Edge 97
iOS 14.8、iOS 15.2	Safari 15.2*
iPadOS 14.8、iPadOS 15.2	
Android 12	Chrome 97
– JavaScript、Web Storageを使用できる設定とすること – カメラビューワーのみCookieが必要	

* 設定ページ、カメラビューワーは、iPhone非対応

カメラを使用するまでの流れ

Step 1 設置前の準備

カメラをネットワーク経由で操作できるように準備します。

必要なソフトウェアをPCにインストールする

→「ソフトウェアをインストールする」(P. 20)

PCとWebブラウザーのセキュリティを確認/設定する

→「Windowsの設定を確認する」(P. 21)

カメラマネジメントツールを使用して、カメラを初期設定する

→「カメラを初期設定する」(P. 23)

Step 2 カメラを設置する

使用する環境に合わせてカメラを設置します。

→『設置ガイド』

Step 3 カメラアングルを設定する

S820D/S920F

設定ページで、映像をPCで確認しながらカメラアングルを設定します。

→「カメラアングルを設定する」(P. 25)

Step 4 カメラビューワーを使う

ビューワーで映像を見ながらカメラを操作します。

→「カメラビューワー」(P. 26)

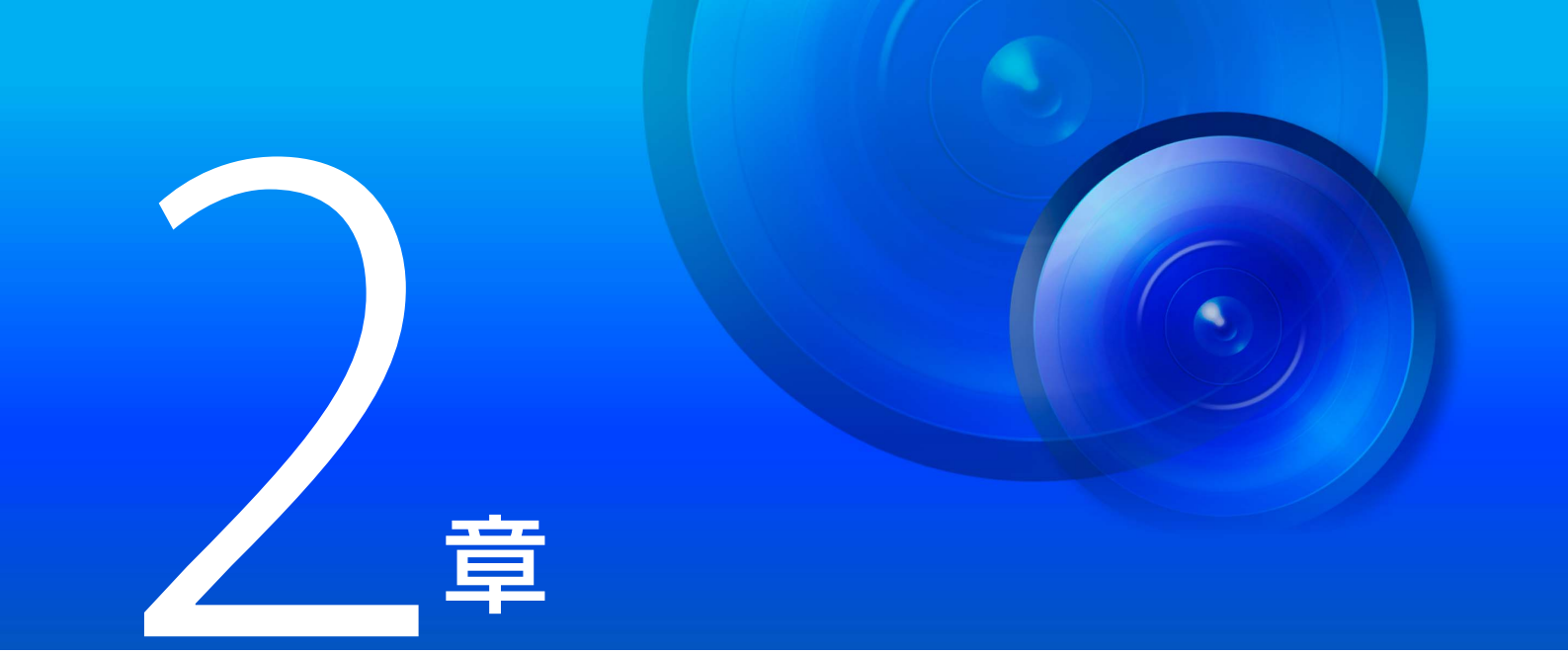
Step 5 運用に合わせて詳細設定する

設定ページで、カメラの運用に合わせて、カメラの制御やセキュリティなどを詳細に設定します。
なお、カメラマネジメントツールを使用して設定することもできます (『カメラマネジメントツール 使用説明書』参照)。

→「設定ページ」(P. 52)

困ったときは

運用時のエラーメッセージやトラブルについては、「付録」(P. 162) を参照してください。



カメラのセットアップ

カメラを使用できる状態にするため、必要なソフトウェアをPCにインストールし、Webブラウザーのセキュリティとカメラの初期設定を行います。

ソフトウェアをインストールする

必要なソフトウェアをインストールします。

必要なソフトウェア

必要なソフトウェアは、次のとおりです。

- カメラマネジメントツール
- 録画映像ユーティリティ

インストール

■ インストール方法について

ソフトウェアのインストール方法には、ソフトウェアをまとめてインストールする [おまかせインストール] と、ソフトウェアを選択できる [選んでインストール] があります。

■ ソフトウェアのインストール

1 他のすべてのアプリケーションが終了していることを確認する

2 [VBToolsInstall.exe] をダブルクリックする

インストール画面が表示されます。

メ モ

- [ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] (または [続行]) をクリックしてください。

3 インストール方法を選択する

[おまかせインストール] を選択すると、すべての付属ソフトウェア (カメラマネジメントツールおよび録画映像ユーティリティ) をインストールします。
[選んでインストール] を選択すると、インストールするソフトウェアやインストール方法を個別に設定しながらインストールします。

4 画面に従い、インストールを進め、インストール完了の画面で [終了] または [再起動] をクリックする

デスクトップに、カメラマネジメントツール、録画映像ユーティリティのアイコンが表示されます。

Windowsの設定を確認する

OSのセキュリティ機能によって、カメラへの設定・操作がブロックされる場合があります。
事前にOSの設定を変更・確認してください。

ファイアウォールの設定

Windowsファイアウォールが有効になっているPCでソフトウェアを使用するには、ファイアウォール経由での通信を許可するアプリケーションとして、各ソフトウェアを追加しておく必要があります。

メ モ

- この手順で追加しなかった場合でも、ソフトウェアの起動時に表示される [Windowsセキュリティの重要な警告] ダイアログで、許可するアプリケーションとして追加できます。

1 **[コントロール パネル] の [システムとセキュリティ] > [Windows Defender ファイアウォール] をクリックする**

2 **[Windowsファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可] をクリックする**

3 **[設定の変更] > [別のアプリの許可] の順にクリックする**

4 **[カメラマネジメントツール] など、使用するソフトウェアを選択し、[追加] をクリックする**

Windows Server使用時の設定

■ カメラのIPアドレスを信頼済みサイトとして追加する

インターネットサイトとイントラネットサイトのセキュリティレベルが、[高] に設定されている場合、カメラのIPアドレスを信頼済みサイトに追加しておく必要があります。

メ モ

- カメラのIPアドレスは、カメラマネジメントツールで設定します (『カメラマネジメントツール 使用説明書』参照)。

1 **[コントロール パネル] の [ネットワークとインターネット] > [インターネット オプション] をクリックする**

2 **[セキュリティ] タブをクリックする**

3 **[信頼済みサイト] を選択し、[サイト] をクリックする**

[信頼済みサイト] ダイアログが表示されます。

4 **[このWebサイトをゾーンに追加する] にカメラのIPアドレスを入力し、[追加] をクリックする**

メ モ

- [このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする] にチェックがついている場合は、外してください。
  [Web サイト] の一覧にカメラのIPアドレスが追加されます。
- IPアドレスの入力にワイルドカード (*) を使用することで、複数のカメラのIPアドレスを追加できます。
  たとえば、「192.160.1.*」と入力すると、「192.160.1」部分が共通のカメラが、すべて信頼済みサイトに追加されます。

■ 音声機能を使用するためのサウンドの設定

Windows Serverの初期設定では、サウンド機能が無効に設定されています。
ビューワーで音声機能を使用するには、次の手順でサウンド機能を有効にしてください。

1 [コントロール パネル] の [ハードウェアとサウンド] をクリックする

2 [サウンド] をクリックする

[オーディオ サービスが実行されていません] というメッセージが表示されます。

3 [はい] をクリックする

[サウンド] ダイアログが表示されます。

4 [再生] タブで、オーディオデバイスがインストールされていることを確認する

オーディオデバイスがインストールされていない場合はご使用のPCの使用説明書をご確認ください。

プロキシサーバーを使用する環境での設定

プロキシサーバーを使用する環境では、カメラのIPアドレスを例外に指定する必要があります。

1 [コントロール パネル] の [ネットワークとインターネット] > [インターネット オプション] をクリックする

2 [接続] タブ > [LANの設定] をクリックする

3 [詳細設定] をクリックして、[例外] にIPアドレスを入力する

カメラを初期設定する

カメラを使用するには、最初にカメラの管理者アカウントの設定を行い、次にネットワークの設定をして、PCとカメラをネットワーク経由で接続する必要があります。この設定には、カメラマネジメントツールを使用します。カメラマネジメントツールでは、複数のカメラの設定をまとめてすることもできます。
なお、カメラマネジメントツールの使いかたは、『カメラマネジメントツール 使用説明書』をお読みください。

カメラマネジメントツールでの設定の流れ

カメラマネジメントツールを起動する

↓

カメラを検出する

カメラマネジメントツールがインストールされているPCと同じネットワークに接続されているカメラを検出できます。

↓

管理者アカウント (管理者名と管理者パスワード) を登録する

↓

カメラを初期設定する

ネットワークの設定やカメラ名など、カメラの基本設定をします。

Webブラウザーで直接カメラの初期設定画面を開く

WebブラウザーからIPアドレスを直接指定してカメラにアクセスすることができます。
DHCPサーバーによって割り当てられたIPアドレスがあればそれを、なければ「192.168.100.1」を指定してください。

重 要

- 192.168.100.1のIPアドレスでアクセスできるのは、ネットワーク環境にカメラを接続してから30秒後です。
- DHCP サーバーから IPv4 アドレスが割り当てられた場合は、そのアドレスに切り換わり、192.168.100.1 ではアクセスできなくなります。
- 同じネットワーク上に192.168.100.1の機器がある場合、同一のIPアドレスが割り当てられるため、192.168.100.1ではカメラにアクセスできません。

1 192.168.100.1でアクセスする場合は、PCのIPアドレスを設定する

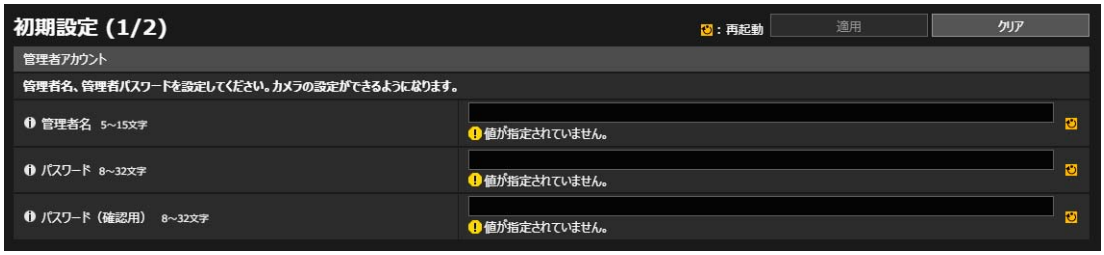
PCを192.168.100.1と同じネットワークのIPアドレス (192.168.100.xxx) に設定してください。

2 Webブラウザーを起動する

3 Webブラウザーのアドレス欄にカメラのIPアドレスを入力し、Enterキーを押す

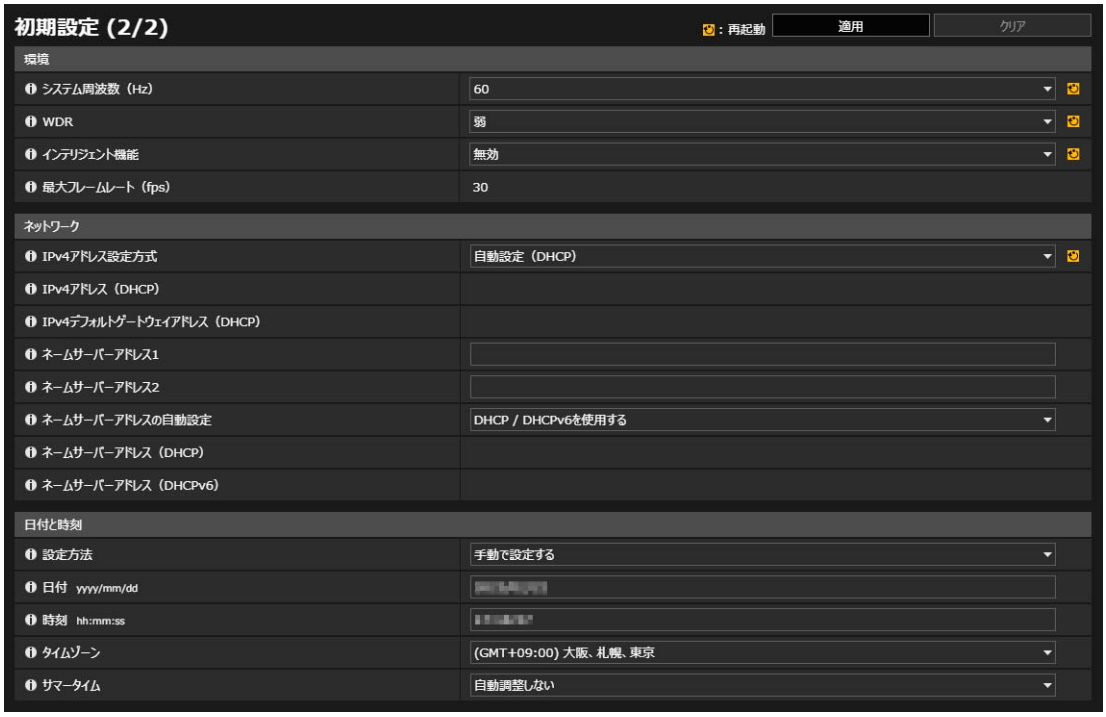
カメラの [初期設定 (1/2)] 画面が表示されます。

4 管理者名と管理者パスワードを入力し、[適用] をクリックする



カメラの再起動後、[初期設定 (2/2)] 画面が表示されます。

5 [環境]、[ネットワーク]、[日付と時刻] の各項目を設定し、[適用] または [適用して再起動] をクリックする



設定内容の詳細については、設定ページの次の項目を参照してください。

- [メンテナンス] > [環境] (P. 159)
- [システム] > [ネットワーク] (P. 152)
- [システム] > [日付と時刻] (P. 149)

カメラの再起動後、設定ページが表示され、各種設定が可能になります。

カメラアングルを設定する

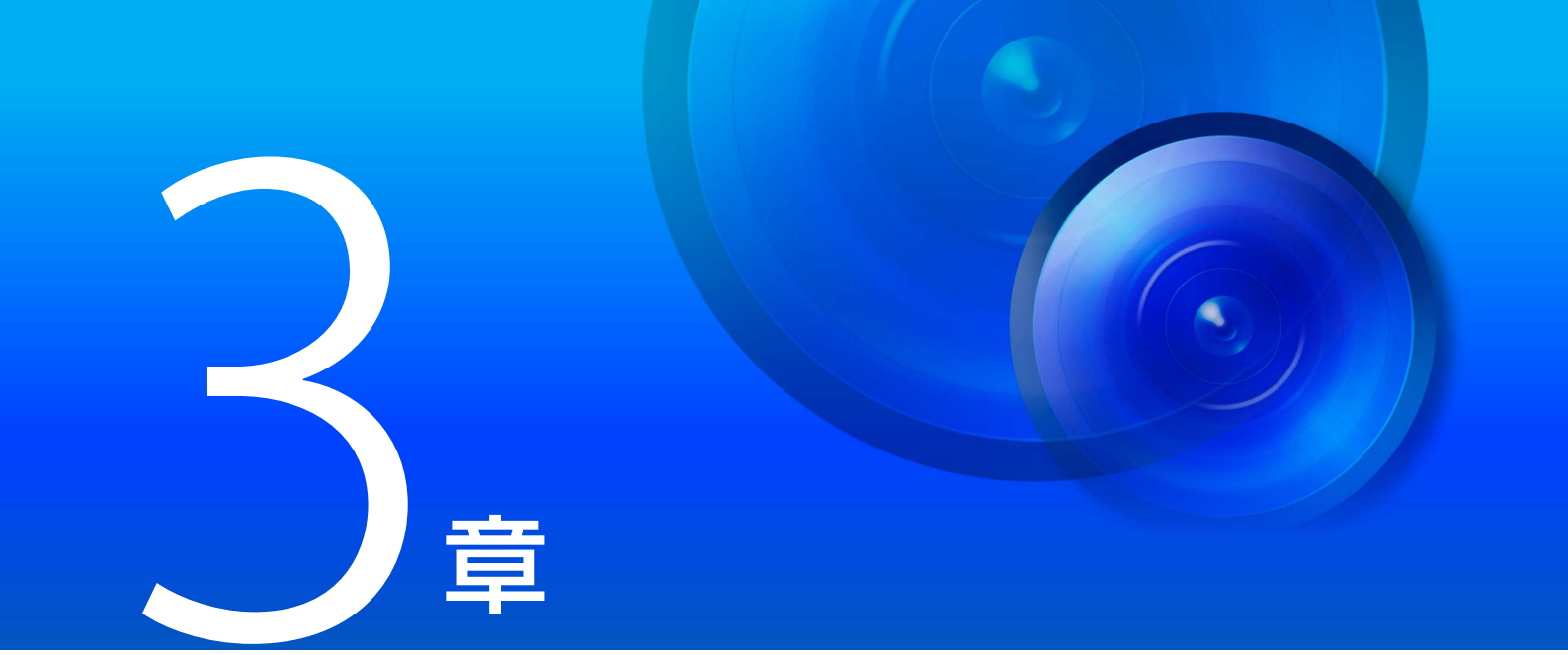
S820D/S920F

カメラを設置した後、設定ページで表示される映像を見ながらカメラアングルを設定します。
カメラアングルの設定は、次の設定ページにアクセスして行います。

- [映像] > [カメラアングル] (P. 62)
- [システム] > [システム] > [設置条件] > [映像反転] (P. 146)

重 要

- インテリジェント機能の設定後にカメラアングルを変更した場合は、再設定する必要があります。
- プリセット、ADSR、プライバシーマスク、インテリジェント機能の設定後に [映像反転] の設定を変更した場合は、これらを再設定する必要があります。



カメラビューワー

Webブラウザーを使用してカメラに搭載されているビューワーにアクセスすることで、カメラ操作やライブ映像の表示、イベントの状態が確認できます。

カメラビューワーで映像を見る

カメラビューワーを起動して、ユーザーを切り替えたり、カメラの状態や映像の表示を確認・設定します。

メ モ

- 認証済みのWebページを表示したまま、別のウィンドウやタブを開いてカメラにアクセスすると、表示中のWebページの認証情報が破棄される場合があります。
  その場合は、再度認証情報を入力してください。

カメラビューワーを起動する

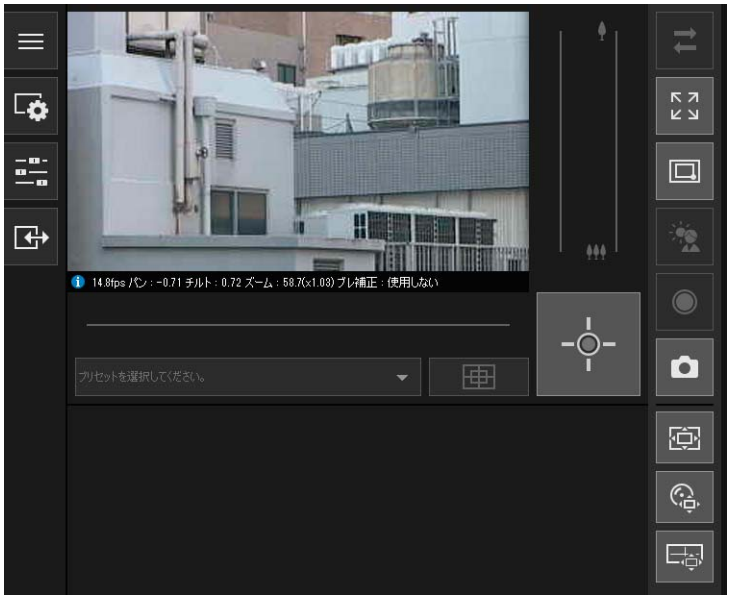
■ 設定ページからカメラビューワーを起動する

管理者は設定ページからカメラビューワーを起動できます。

1 **設定ページを開く** **(P. 53)**

2 **[ビューワー] をクリックする**

カメラビューワーが表示されます。



■ 直接カメラビューワーを起動する

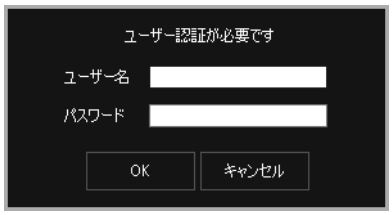
設定ページの [システム] > [ビューワー] > [全般] > [デフォルトページ] を [ビューワーを表示] にすることで、デフォルトページをビューワーに設定できます (P. 148)。

1 Webブラウザーを起動する

2 IPアドレスを入力し、Enterキーを押す

ビューワーの認証画面が表示されます。

3 管理者名と管理者パスワードを入力し、[OK] をクリックする



カメラビューワーが表示されます。

カメラビューワーのアクセス制限

ビューワーには、ユーザー認証が必要な登録ユーザーとユーザー認証が不要な一般ユーザーを設定できます。
各ユーザーがカメラビューワーで使用できる機能は、付与される権限によって決まります (P. 143)。

重 要

- 1台のカメラに対して、同時に複数の管理者アカウントで接続はできません。
  登録ユーザーや一般ユーザーアカウントでは同時に複数のPC からカメラに接続できます。ただし、カメラを制御する場合、登録ユーザーは、後から取得する制御権が優先になります。一方、一般ユーザーは順番待ちになります。

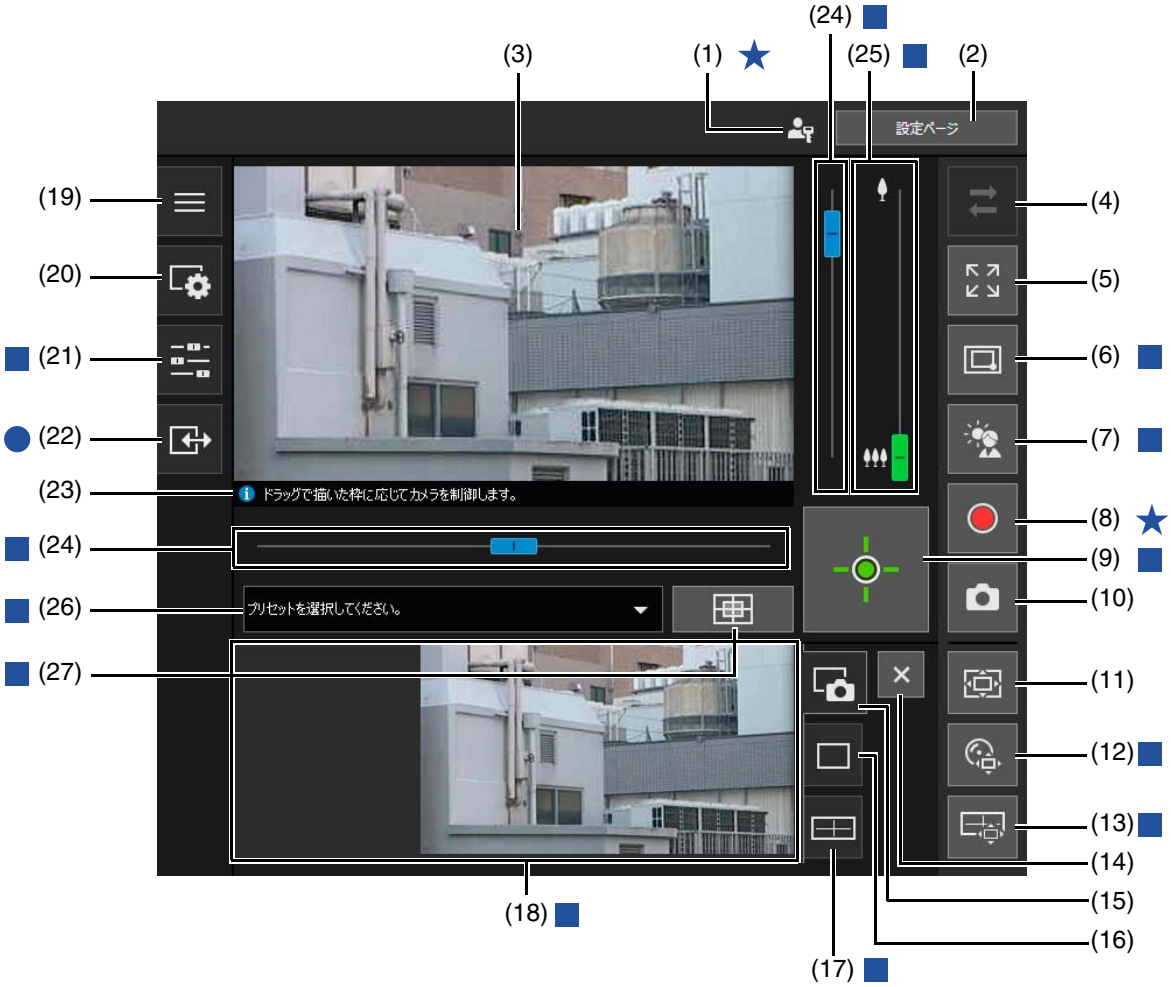
メ モ

- 設定ページの [システム] > [ビューワー] > [ビューワー設定] > [ユーザー認証] が [認証しない] に設定されている場合は、ビューワー接続時に認証画面が表示されず、一般ユーザーとして接続します。一般ユーザーの場合、ビューワーの一部の操作しかできませんが、あとからユーザーを切り替えて、管理者や登録ユーザーとしてビューワーを使用することもできます。管理者や登録ユーザーとしてビューワーにログインし直すには [ユーザー切り替え] をクリックしてください。

カメラビューワーの画面構成

ビューワーの操作に必要な権限を次のマークで示しています。

★	管理者権限
●	特権カメラ制御以上の権限
■	一般カメラ制御以上の権限
無印	映像配信以上の権限



(1) **管理者アイコン**
管理者でログインした場合に表示されます。

(2) **[設定ページ]**
設定ページへ移動します (P. 53)。

(3) **映像表示部**
カメラから受信した映像を表示します。

(4) **[再接続] ボタン**
カメラに接続し直します。ビューワーがカメラに接続していない場合に操作できます。

(5) **[全画面表示] ボタン**
映像表示部を全画面で表示します (P. 33)。

(6) / **[エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え] ボタン** HM4x S32VE S32D
映像表示部でのドラッグ操作を、エリアズームまたはドラッグムーブに切り換えます (P. 37)。

(7) **[逆光補正] ボタン**
逆光補正の入/切を選択します。映像が逆光で暗い場合に使用すると効果があります (P. 41)。

(8) **[メモリーカード録画] ボタン**
メモリーカードへの録画を開始/停止します (P. 47)。

(9) **[カメラ制御権取得/解放] ボタン**
カメラ制御権を取得または解放します (P. 35)。

(10) **[スナップショット] ボタン**
クリックした瞬間の静止画を、コントロール表示部にスナップショットパネルを開いて表示します (P. 46)。

(11) **[ビューワー PTZ] ボタン**
ビューワー PTZを開始/終了します。開始すると、コントロール表示部にビューワー PTZパネルが表示されます (P. 42)。

(12) **[デジタルPTZ] ボタン**
デジタルPTZを開始/終了します。開始すると、コントロール表示部にデジタルPTZパネルが表示されます (P. 44)。

(13) **[パノラマ表示] ボタン** HM4x S32VE S32D
コントロール表示部にパノラマ表示パネルを表示します (P. 39)。

(14) **[閉じる] ボタン**
コントロール表示部に表示された各種パネルを閉じます。

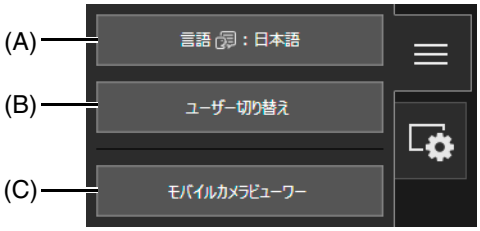
(15) **スナップショットタブ**
スナップショットタブのクリックで、コントロール表示部を、スナップショットパネルに切り替えます (P. 46)。

(16) **ビューワー PTZ/デジタルPTZタブ**
ビューワー PTZ/デジタルPTZタブのクリックで、コントロール表示部を、ビューワー PTZ/デジタルPTZパネルに切り替えます (P. 42)。

(17) **パノラマ表示タブ** HM4x S32VE S32D
パノラマ表示タブのクリックで、コントロール表示部を、パノラマ表示パネルに切り替えます (P. 39)。

(18) **コントロール表示部**
(15)、(16)、(17) をクリックすると、それぞれスナップショットパネル、ビューワー PTZ/デジタルPTZパネル、パノラマ表示パネルを表示します。

(19) **[メイン] メニュー**
言語やユーザーの切り替え、設定ページやモバイルカメラビューワーへ移動します。



(A) **言語切り替えボタン**
表示言語を切り替えます。

(B) **[ユーザー切り替え]**
管理者や登録ユーザーでログインしたい場合に使います。

(C) **[モバイルカメラビューワー]**
モバイルカメラビューワーへ接続を切り替えます。モバイルカメラビューワーの詳しい使いかたは、『モバイルカメラビューワー 操作ガイド』を参照してください。

(20) **[映像と音声メニュー]**
ビューワーの映像表示サイズや音声の送受信を設定します。機能によって操作できる権限は異なります。詳細は「受信映像サイズや表示画面サイズを変更する」(P. 32) および「音声を受信・送信する」(P. 48) を参照してください。

(21) [カメラ操作メニュー]

ボタン操作により、カメラのパン・チルト・ズームを行います (P. 39)。また、フォーカス、露出、デイナイト切り換えの映像調整も行えます (P. 40)。

(22) [イベントと入出力メニュー]

外部デバイスの出力操作や入力状態の確認、インテリジェント機能の検知状態の確認、連結イベントの発生状況の確認ができます (P. 50)。

(23) **インフォメーション表示**

フレームレートや、カメラのパン・チルト・ズーム値、各部の説明などが表示されます。
また、カメラの動作やシステムに問題が発生した場合は、警告またはエラーメッセージが表示されます。
表示されるインフォメーションの内容については、「ビューワーメッセージ一覧」(P. 180) を参照してください。

重 要 HM4x

- 設定ページの [映像] > [ピクチャー (オプション)] > [カメラ制御] > [ブレ補正] をOnにした場合 (P. 78)、実際の映像表示画角はインフォメーション表示のズーム値より小さくなります。

(24) **パン・チルトスライダー**

つまみを動かして、カメラのパン (左右) 、チルト (上下) を操作します (P. 36)。

(25) **ズームスライダー**

つまみを動かして、カメラのズームイン (望遠) /ズームアウト (広角) を操作します (P. 36)。

(26) **プリセット選択ボックス**

カメラにあらかじめ登録したプリセットを選択します (P. 41)。

(27) **[ホームポジション] ボタン**

カメラのアングルをホームポジションに移動します (P. 41)。

メ モ

- (4) [再接続] ボタン、(19) [メイン] メニューおよび (23) インフォメーション表示は、設定ページで登録ユーザーおよび一般ユーザーのすべての権限を無効にされていても、使用できます。

受信映像サイズや表示画面サイズを変更する

カメラから受信する映像サイズや映像フォーマット、PC上の表示画面サイズを設定できます。

受信映像サイズ/フォーマット、表示画面サイズを変更する

[映像と音声メニュー] を開いて、カメラから受信する映像について設定します。映像配信以上の権限が必要です。

(1) **映像サイズ設定**

カメラからの受信映像サイズおよび映像フォーマットを選択します。
設定ページの [映像] > [映像] (P. 59) で設定した映像ストリームのどれを受信するかを選択します。
1～4は映像ストリーム1～4、5はデジタルPTZです。

重 要

- 複数のPCでH.264/H.265映像を受信する場合は、追加ユーザーライセンスが必要です (P. 16)。
- HTTP接続では、H.265映像は表示できません。
- H.264/H.265映像を表示できないWebブラウザーを使用している場合、1、2の映像ストリームでは映像を表示できません。

(2) **表示サイズ設定**

画面上の映像表示サイズを選択します。
設定できるサイズは、設定ページの [映像] > [映像] の各映像ストリームの設定によって変わります (P. 59)。

メ モ

- [等倍表示] は、映像サイズの大きさのままで表示します。
- [自動調整] は、Webブラウザーのウィンドウサイズに合わせて、最大のサイズで表示します。

(3) **最大フレームレート(JPEG)**

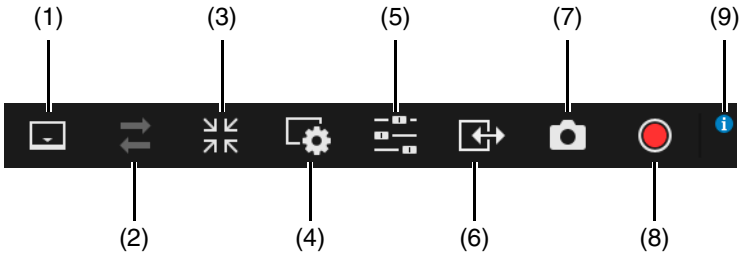
JPEG映像の最大フレームレートを選択できます。一般カメラ制御以上の権限が必要です。
映像表示部にH.264/H.265映像を表示している場合は選択できません。

全画面表示にする

ビューワー右上の [全画面表示] ボタンをクリックすると、映像表示部がディスプレイ全体に表示されます。

メニューについて

全画面表示時は、カメラビューワー画面と同様にカメラの制御に必要なメニューパネルが画面下部に表示されます。



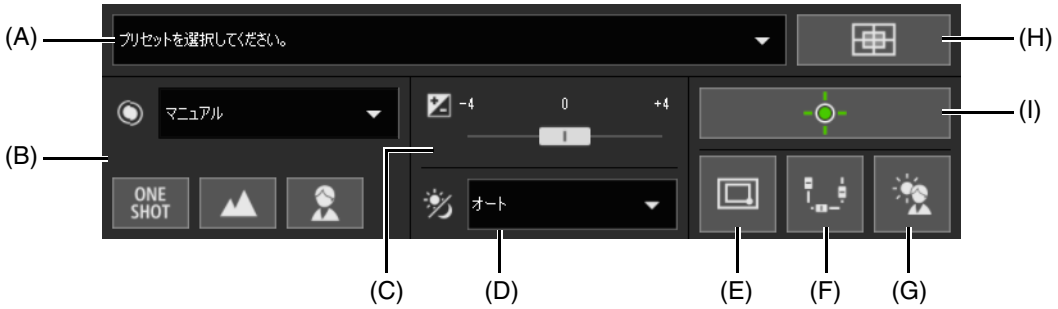
(1) **[メニューバー] ボタン**
メニューバーの表示/非表示を切り替えます。

(2) **[再接続] ボタン** (P. 29)

(3) **[全画面表示終了] ボタン**
映像表示部を通常表示に戻します。

(4) **[映像と音声メニュー] ボタン** (P. 32、P. 48)

(5) **[カメラ操作メニュー] ボタン**
カメラ操作メニューの表示/非表示を切り換えます。[デイナイト] は特権カメラ制御以上の権限が必要です。それ以外の項目は一般カメラ制御以上の権限が必要です。



(A) **プリセット選択ボックス** (P. 41)

(B) **フォーカス** HM4x S32VE S32D (P. 40)

(C) **露出補正** (P. 41)

(D) **デイナイト** (P. 41)

(E) / **エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え** HM4x S32VE S32D (P. 37)

(F) **パン/チルト/ズーム**
ボタンをオン (紫) にすると、パン/チルト/ズームスライダーが画面に表示され操作できます。
パンスライダーは画面下部に、チルトスライダーは画面左端に、ズームスライダーは画面右端に、それぞれ表示されます。

(G) **[逆光補正]** (P. 41)

(H) **[ホームポジション]** (P. 41)

(I) **カメラ制御権取得/解放** (P. 35)

メ モ

- (B) フォーカス、(C) 露出補正、(D) デイナイトの項目は、設定ページの [システム] > [ビューワー] > [ビューワーでのピクチャー調整] (P. 148) が [許可する] に設定されているときに表示されます。

(6) **[イベントと入出力メニュー] ボタン**
イベントと入出力メニューの表示/非表示を切り換えます (P. 50)。

(7) **[スナップショット]** (P. 46)

(8) **[メモリーカード録画]** (P. 47)

(9) **インフォメーション表示** (P. 31)

カメラを操作する

カメラ制御権の取得やカメラアングル、フォーカスの設定など、カメラを使用するのに必要な操作や設定について説明します。

重 要

- この節で説明するカメラの操作や設定をするには、一般カメラ制御以上の権限が必要です。また、最初に説明するカメラ制御権の取得が必要になります。

カメラ制御権を取得する

カメラを操作するには、ビューワーで制御権を取得する必要があります。
制御権を取得していない状態で、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックします。
制御権が取得され、ビューワー各部のボタンが使用できるようになります。

■ カメラ制御権表示について

カメラ制御権の状態により、[カメラ制御権取得/解放] ボタンの表示は次のように変わります。

表示	制御権の状態	説明
	制御権解放中	カメラ制御権を取得していない状態です。
9	制御権取得待ち	一般ユーザーが制御権の取得待ち状態に入った場合、残り待機時間がカウントダウンされます。
	制御権取得中	カメラ制御権を取得している状態です。
17	制御権取得中 (制御時間カウント中)	一般ユーザーが制御権を取得後、他の一般ユーザーより優先的に制御権を保持できる時間がカウントダウンされます。

重 要

- 制御権を複数のユーザーで同時に取得することはできません。
- 登録ユーザーおよび一般ユーザーは、設定ページの [システム] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限] の設定において、[一般カメラ制御] がチェックされている場合に、[カメラ制御権取得/解放] ボタンが表示されます。
- 管理者は、登録ユーザーまたは一般ユーザーが制御権取得中でも制御権を奪うことができます。同様に登録ユーザーは、一般ユーザーが制御権取得中でも制御権を奪うことができます。
  より上位の権限を持ったユーザーがカメラ制御権を保持できますが、その間、下位のユーザーはカメラ制御権を取得できません。閲覧が終わった後は必ず終了するか、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして制御権を解放してください。

パン・チルト・ズームを操作する

カメラのパン・チルト・ズームを操作して、カメラアングルを設定します。

重 要 S32VE S32D

- パン・チルト動作の耐久目安は、往復5万回です。
  たとえば、1日25往復の利用で6年程度です。
  パン・チルト動作が耐久目安を超えると、フォーカス、ズームも正常に動作しなくなる場合があります。

メ モ

- クリックやドラッグによるカメラ制御は、厳密な精度で制御されるものではありません。
- 管理者でビューワーを使用すると、可視範囲制限を無視してカメラを操作できます。登録ユーザーまたは一般ユーザーでビューワーを使用した場合は、可視範囲制限内のみで操作できます。HM4x S32VE S32D

■ 映像表示部上のクリック、またはスライダーで操作する

クリックの操作

映像表示部上をクリックすると、クリックしたときのマウスポインターの位置が中心となるように、カメラアングルが移動します。1回のクリックで希望の位置が中心にならない場合は、繰り返し操作してください。

メ モ

- ビューワー PTZまたはデジタルPTZ使用中は、映像表示部のクリック操作はできません。HM4x S32VE S32D
- ビューワー PTZまたはデジタルPTZを開始すると、映像表示部のクリック操作ができるようになります。S820D/S920F

スライダーでの操作

パンスライダーおよびチルトスライダーのつまみをドラッグすると、パン・チルトが移動します。
ズームスライダーのつまみをドラッグすると、ズームが変化します。
スライダーのつまみのない部分をクリックしても、つまみが移動します。

ズームスライダー
上方向に移動するとズームイン (望遠)、下方向に移動するとズームアウト (広角) します。

チルトスライダー
カメラを上下に動かします。

パンスライダー
カメラを左右に動かします。

メ モ S820D/S920F

- ビューワー PTZまたはデジタルPTZを開始しないと、スライダーは操作できません。

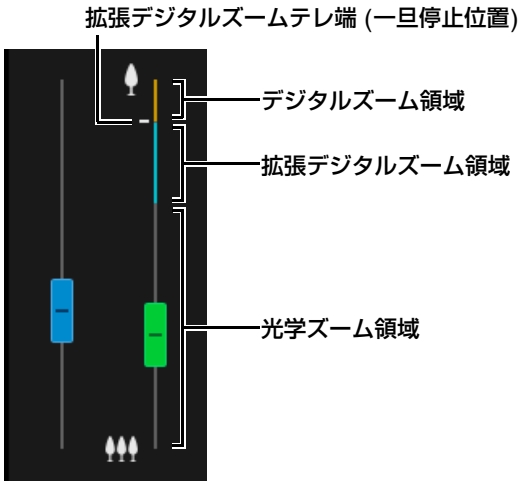
デジタルズーム、拡張デジタルズーム使用時のスライダー HM4x S32VE S32D

設定ページの [映像] > [ピクチャー (オプション)] > [カメラ制御] > [デジタルズーム] を [使用する] (P. 78) に設定すると、ズームスライダーにデジタルズーム領域 (橙色) が表示され、デジタルズーム操作が可能となります。
同様に、設定ページの [映像] > [ピクチャー (オプション)] > [カメラ制御] > [拡張デジタルズーム] を [使用する] (P. 78) に設定すると、ズームスライダーに拡張デジタルズーム領域 (青) が表示され、拡張デジタルズーム操作が可能となります。
拡張デジタルズームは、受信映像サイズに応じて、画質の粗さが目立たない範囲でデジタルズームします。
デジタルズーム、拡張デジタルズームを使用できる機種は次のとおりです。

- デジタルズーム HM4x S32VE S32D
- 拡張デジタルズーム HM4x

メ モ

- 拡張デジタルズームの倍率は、カメラ制御権を持っているユーザーが設定した映像サイズに制限されます。
  他のユーザーでも同倍率でデジタルズームされるため、受信映像サイズによっては映像劣化が発生することがあります。
- デジタルズーム領域と拡張デジタルズーム領域が存在する場合に、拡張デジタルズーム領域のテレ端を通過するズームイン操作を行う際は、拡張デジタルズーム領域のテレ端でいったん停止します。
- ズーム倍率 (デジタルズーム倍率) は、インフォメーション表示に表示されます。
- デジタルズームは、ズーム倍率が高くなるに従い画質が低下します。



エリアズーム/ドラッグムーブで操作する HM4x S32VE S32D

映像表示部上のドラッグ操作で、ズームイン/アウトやアングル移動ができます。

メ モ

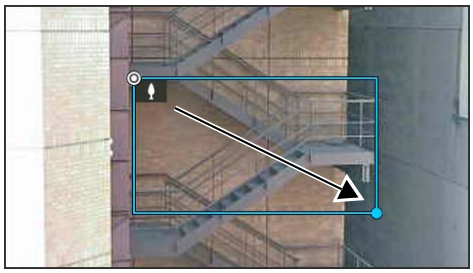
- エリアズーム/ドラッグムーブともに、ビューワー PTZまたはデジタルPTZ使用中は操作できません。

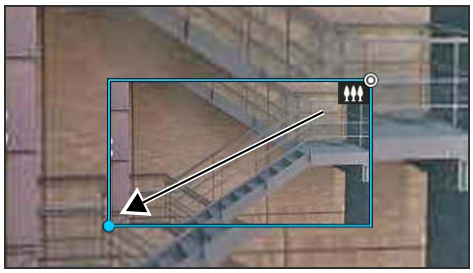
エリアズームでのズームイン/アウト

1 **/ [エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え] ボタンをクリックして、 (エリアズーム) にする**

2 映像表示部で、ドラッグする

ズームインの場合は、左から右方向にズームインするエリアを枠線で指定します。
ズームアウトの場合は、右から左方向に映像表示部の中心に表示させたいエリアを枠線で囲みます。





エリアズーム操作中は、枠線内にアイコン (ズームイン : 、ズームアウト :) が表示されます。
枠線表示中にマウスの左ボタンを押したまま右ボタンをクリックすることで、エリアズームを中止できます。

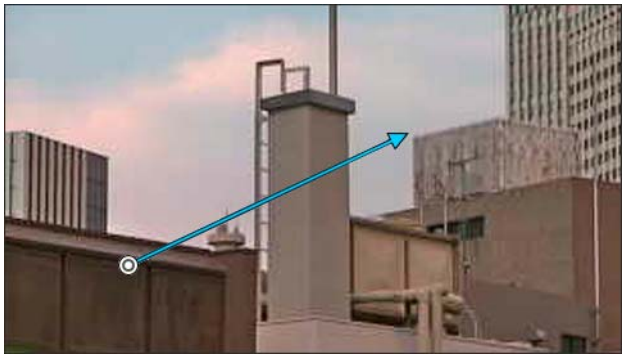
3 マウスボタンを放す

左から右方向の場合、枠線で囲んだ部分が映像表示部全域に表示されます。
右から左方向の場合、枠線の中心が映像表示部の中心となるようにズームアウトします。

ドラッグムーブでのアングル移動

1 / [エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え] ボタンをクリックして、 (ドラッグムーブ) にする

2 映像表示部で、カメラアングルを移動したい方向にドラッグして矢印を表示する



矢印の方向にカメラアングルが移動します。
矢印の最大長は映像表示部の幅・高さの半分で、矢印を長くすると、移動速度が速くなります。

メ モ

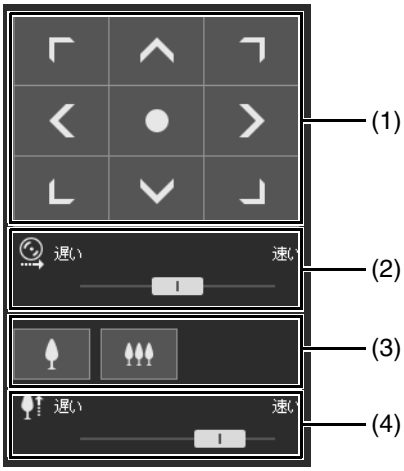
- ドラッグムーブ中は、パン・チルトスライダーのつまみは移動しません。

3 マウスボタンを放す

カメラが停止します。

■ [カメラ操作メニュー] の [パン/チルト/ズーム] で操作する HM4x S32VE S32D

[カメラ操作メニュー] を開いて、カメラのパン・チルト・ズームを操作します。



(1) **[パン/チルト]**
各矢印の方向にアングルを移動します。押し続けると動作し、放すと停止します。
中心のボタンをクリックすると、カメラはパン/チルトそれぞれの可動範囲の中間位置に移動します。ただし、可視範囲制限が設定されていて (P. 88)、中間位置が可視範囲外になる場合は、可視範囲の端にカメラアングルが移動します。

(2) **[パン/チルト速度]**
[パン/チルト] のボタン操作による動作速度を設定します。

(3) **[ズーム]**
(ズームイン) または (ズームアウト) ボタンを押してズーム操作をします。押し続けると動作し、放すと停止します。

(4) **[ズーム速度]**
[ズーム] のボタン操作による動作速度を設定します。

メ モ

- [パン/チルト速度]、[ズーム速度] の設定を変更しても、スライダーおよびパノラマ上でのパン・チルト・ズーム操作の速度は変更されません。

■ パノラマ表示パネルで操作する HM4x S32VE S32D

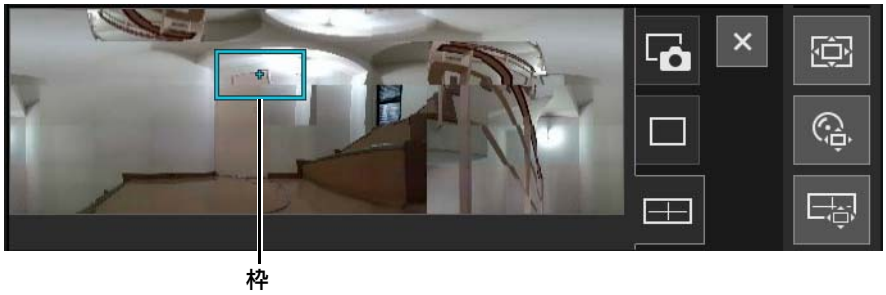
パノラマ表示パネルの枠を操作することにより、カメラを操作できます。
パノラマ表示パネルにパノラマ画像を表示するには、パノラマ画像を作成してカメラに保存しておく必要があります (P. 91)。

1 [パノラマ表示] ボタンをクリックする

コントロール表示部にパノラマ表示パネルが表示されます。

2 **パノラマ表示パネル上の枠を操作して、パン・チルト・ズームする**

表示される枠は、現在カメラが撮影している範囲を示しています。



ドラッグで移動/ズーム変更

枠内でマウスボタンを押してドラッグすると、パン・チルトが移動します。
枠外でマウスボタンを押してドラッグすると、新しい枠が描けます。その枠内を撮影するようにパン・チルト・ズームが移動します。
枠線をドラッグして枠のサイズを変更すると、枠内が撮影されるようにズーム倍率が変わります。

クリックで移動

枠の外側をクリックすると、クリックした場所が中心となるように枠が移動し、パン・チルトが移動します。

映像を調整する

[カメラ操作メニュー] を開いて、フォーカス、露出補正、デイナイトを操作します。

メ モ

- フォーカス、露出補正、デイナイトの項目は、設定ページの [システム] > [ビューワー] > [ビューワーでのピクチャー調整] (P. 148) が [許可する] に設定されているときに表示されます。

■ フォーカスを合わせる

HM4x S32VE S32D

被写体に焦点を合わせます。

[オート]

自動的にフォーカスを合わせます。

[マニュアル]

(遠) (近) ボタンを押し続けることで、それぞれ遠距離側、近距離側にフォーカス位置を調整します。
[ワンショットAF] ボタンをクリックすると、いったんオートでフォーカスを合わせます。

[無限遠固定]

無限遠近傍にフォーカス位置を移動します。
より厳密にフォーカスを合わせたい場合は、[マニュアル] を選択してフォーカスを調整します。

メ モ

- フォーカス使用についての注意事項は、P. 68 の「重要」をご確認ください。

■ 露出補正を設定する

映像の明暗を調節します。
映像を暗くしたい場合はマイナスの値へ、明るくしたい場合はプラスの値へスライダーを動かします。

重 要

- 設定ページの [露出] (P. 65) が [マニュアル] のときは設定できません。

■ デイナイトを切り換える

カメラの設置環境の明るさに応じて、撮影モードを設定します。

機能の詳細は、設定ページの [デイナイト] (P. 67) を参照してください。

重 要

- 特権カメラ制御以上の権限が必要です。
- デイナイト使用についての注意事項は、P. 68 の「重要」をご確認ください。

逆光補正を使用する

映像が逆光で暗い場合、[逆光補正] ボタンをクリックすると、暗かった映像が明るくなります。
逆光補正中は、[逆光補正] ボタンがアクティブ (紫) に変わります。
もう一度ボタンをクリックすると解除されます。

重 要

- 設定ページの [露出] が [マニュアル] の場合、[逆光補正] ボタンは使用できません。

メ モ

- 明るい部分の白飛びが気になる場合は、設定ページの [WDRの使用] を [使用する] にしてください (P. 64)。

プリセット/ホームポジションを使用する

カメラにあらかじめ登録したプリセットやホームポジションにより、カメラを制御できます。
プリセット選択ボックスをクリックし、表示されたリストからプリセットを選択すると、選択したプリセットの登録内容に切り替わります。
また、[ホームポジション] ボタンのクリックで、カメラアングルがホームポジションの登録内容に切り替わります。

重 要

- ビューワーをHTTP接続しているときはH.265映像を表示できないため、デジタルPTZの映像圧縮方式にH.265を指定していると、デジタルPTZ位置を登録したプリセットは選択できません。

メ モ

- プリセットやホームポジションは、あらかじめ設定ページの [映像] > [プリセット] > [プリセット登録] (P. 71) で登録してください。登録したプリセットが、プリセット選択ボックスに表示されます。

ビューワー PTZとデジタルPTZ

ビューワー PTZとデジタルPTZは、どちらもデジタルズーム機能を利用した簡易的なパン・チルト・ズーム機能です。
下記の相違点があります。

ビューワー PTZ	デジタルPTZ
カメラから配信された映像のうち、指定した部分をビューワー上で拡大して表示	撮影可能な全体画像のうち、切り出した映像のみを配信
受信データサイズ大	受信データサイズ小
カメラ制御権が不要	カメラ制御権が必要
ビューワーごとに独立してPTZ操作が可能	ビューワーごとの独立したPTZ操作が不可能 (複数のビューワーが接続されている場合、他のビューワーでも同じ表示が適用される)

映像の一部を拡大して表示する (ビューワー PTZ)

カメラ位置を固定したまま映像の一部を拡大 (デジタルズーム) するには、ビューワー PTZを使用します。
カメラのパン・チルト・ズーム機能を使用しないため、インテリジェント機能の使用時など、カメラ位置を変更したくないときに活用できます。

重 要 HM4x S32VE S32D

- ビューワー PTZの使用中は、映像表示部のクリック/ドラッグによるカメラ操作は行えません。

メ モ

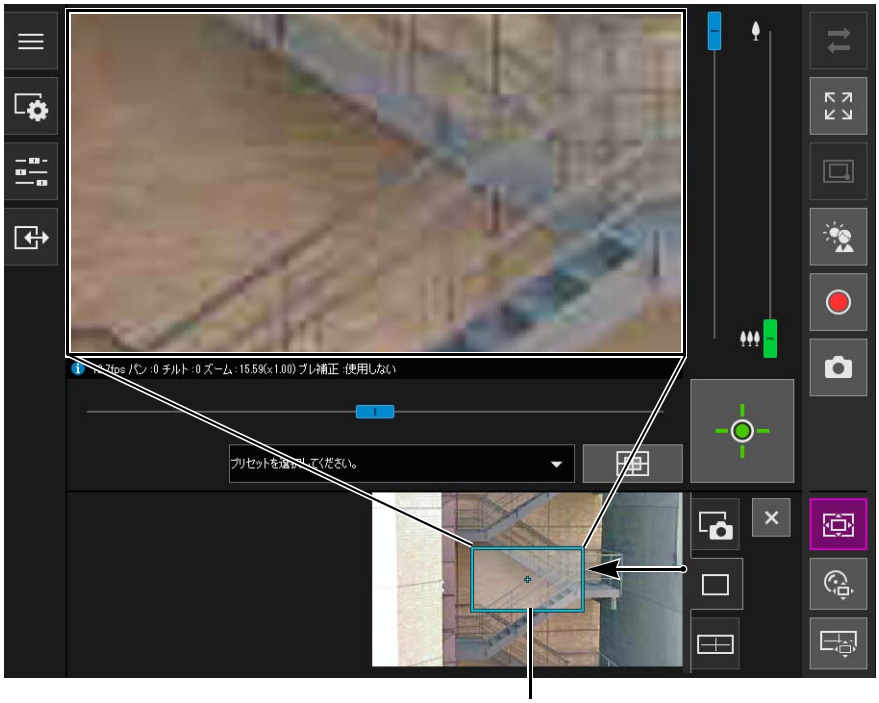
- ビューワー PTZによる拡大映像は、録画できません。
- ビューワー PTZ使用時は、全画面表示でも拡大映像が表示されます。

1 [ビューワー PTZ] ボタンをクリックする

[ビューワーPTZ]ボタンがアクティブ (紫) に変わり、コントロール表示部にビューワーPTZパネルが表示されます。
初期状態では、映像全体をプレビュー枠 (水色) が囲んでいます。

2 ビューワー PTZパネルで、プレビュー枠の枠線をドラッグして縮小する

縮小したプレビュー枠内の映像が映像表示部に拡大表示されます。



3 拡大したい部分にプレビュー枠を移動、リサイズする

ドラッグで移動/サイズ変更

枠内でマウスボタンを押してドラッグすると、プレビュー枠が移動します。
枠外でマウスボタンを押してドラッグすると、新しいプレビュー枠が描けます。
枠線をドラッグしてプレビュー枠のサイズを変更すると、拡大または縮小します。

クリックで移動

枠外をクリックすると、クリックした場所が中心となるようにプレビュー枠が移動します。

スライダーで移動/サイズ変更 S820D/S920F

映像表示部のパン・チルトスライダー操作で、プレビュー枠を移動できます。ズームスライダー操作で、プレビュー枠を拡大または縮小できます。

メ モ

- ビューワー PTZはデジタルズーム機能を使用しているため、拡大倍率が高くなるに従い画質が低下します。

ビューワー PTZを終了するには

以下の操作をすると、ビューワー PTZが終了します。

- [ビューワー PTZ] ボタンをクリックして、[ビューワー PTZ] ボタンをOFFにする
- [デジタルPTZ] ボタンをクリックして、デジタルPTZを起動する

メ モ

- 以下の操作をしても、[ビューワー PTZ] ボタンがアクティブ (紫) の間はビューワー PTZは終了せずに映像表示部の拡大表示が保持されます。
  - コントロール表示部の [閉じる] ボタンをクリックして、ビューワー PTZパネルを閉じる
  - スナップショットタブまたはパノラマ表示タブ (HM4x S32VE S32D) をクリックして、コントロール表示部のパネルを切り替える

映像の一部を切り出して表示する (デジタルPTZ)

デジタルPTZパネルを使用すると、カメラ映像の一部を映像表示部に切り出して表示できます。

重 要

- 設定ページの [映像] > [映像] > [デジタルPTZ] > [映像圧縮方式] およびビューワーの環境によっては [デジタルPTZ] はクリックできません。
  - [映像圧縮方式] がH.265で、ビューワーをHTTP接続しているとき
  - [映像圧縮方式] がH.264またはH.265で、H.264/H.265映像を表示できないWebブラウザーを使用しているとき

デジタルPTZパネルで映像を切り出す

1 [デジタルPTZ] ボタンをクリックする

[デジタルPTZ] ボタンがアクティブ (紫) に変わり、コントロール表示部にデジタルPTZパネルが表示されます。

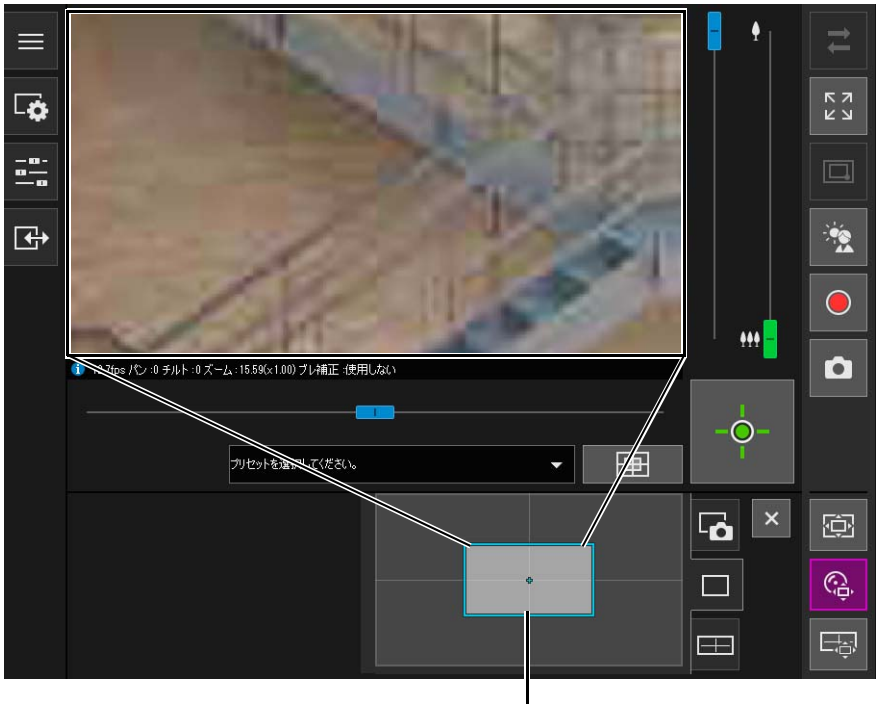
2 デジタルPTZパネル上のプレビュー枠を移動、サイズ変更する

プレビュー枠の操作方法はビューワー PTZと同じです (P. 43)。

メ モ

- デジタルPTZパネルに表示されるグレーの枠全体が撮影可能な全体画像に対応しています。
- プレビュー枠は段階的に移動します。細かい位置合わせはできません。

操作したプレビュー枠内の映像が映像表示部に拡大表示されます。



重 要 HM4x S32VE S32D

- スライダー操作やプリセットにより、カメラのアングルが変わっても、デジタルPTZパネル上のプレビュー枠位置は固定です。

メ モ

- デジタルPTZはデジタルズーム機能を使用しているため、拡大倍率が高くなるに従い画質が低下します。

プリセット/ホームポジションを使用する S820D/S920F

登録されているプリセットやホームポジションを使用して、デジタルPTZの範囲を指定できます。
プリセットを選択すると、デジタルPTZパネル上のプレビュー枠がプリセット位置に移動し、枠内の映像が映像表示部に表示されます。

メ モ

- プリセットは、あらかじめ設定ページの [映像] > [プリセット] > [プリセット登録] (P. 71) で登録してください。

デジタルPTZを終了するには

以下の操作をすると、デジタルPTZが終了します。

- [デジタルPTZ] ボタンをクリックして、[デジタルPTZ] ボタンをOFFにする
- [ビューワー PTZ] ボタンをクリックして、ビューワー PTZを起動する

メ モ

- 以下の操作をしても、[デジタルPTZ] ボタンがアクティブ (紫) の間はデジタルPTZは終了せずに継続されます。
  - コントロール表示部の [閉じる] ボタンをクリックして、デジタルPTZパネルを閉じる
  - スナップショットタブまたはパノラマ表示タブ (HM4x S32VE S32D) をクリックして、コントロール表示部のパネルを切り替える

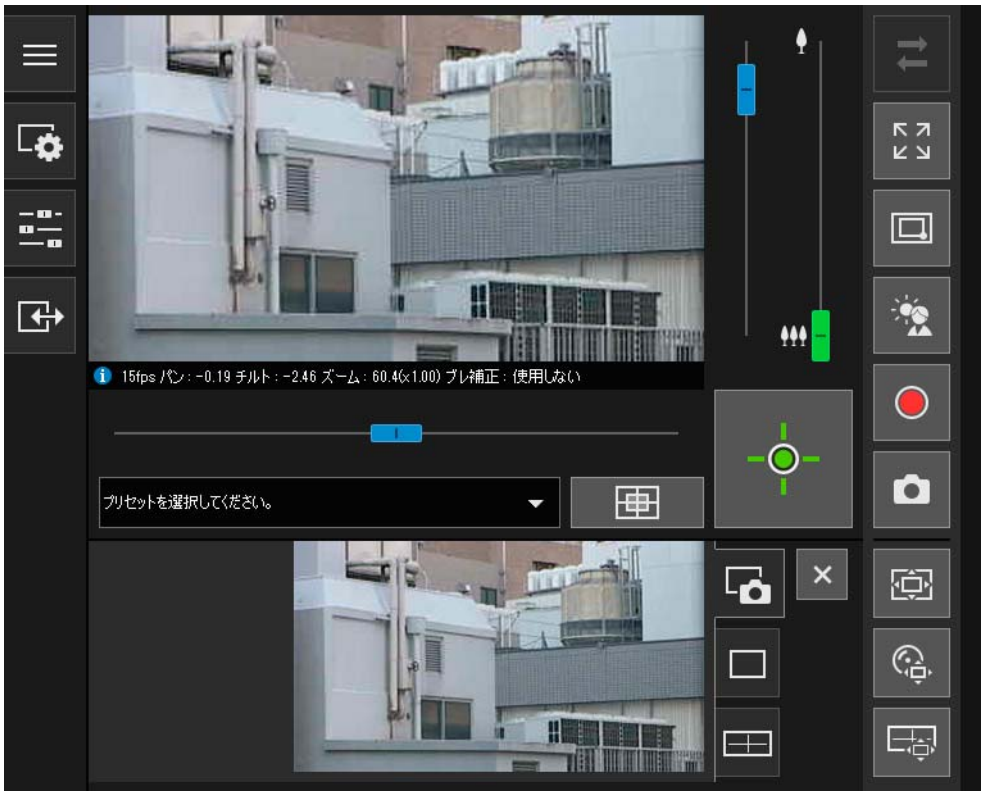
スナップショットを保存する

映像表示部で映像を確認しながら、スナップショットを取得します。

1 **静止画を撮りたいタイミングで、[スナップショット] ボタンをクリックする**

コントロール表示部にスナップショットパネルが開き、クリックした瞬間の静止画が表示されます。
この状態で [スナップショット] ボタンをクリックすると、スナップショットパネルに表示される映像が更新されます。

2 **静止画を保存する場合は、スナップショットパネル上でマウスを右クリックする**



3 **メニューの [名前を付けて画像を保存] をクリックする**

4 **任意のファイル名を付けて保存する**

メ モ

- スナップショットの保存形式は、使用するWebブラウザーによって異なります。
- 保存されるスナップショットのサイズは、受信映像サイズです。

メモリーカードに映像を記録する

映像表示部に表示中の映像を、カメラにセットしたメモリーカードに手動で録画します。

メ モ

- 次の条件を満たしている場合に、手動録画できます。
  - カメラにセットしたメモリーカードがマウントされている
  - 設定ページの [映像記録] > [メモリーカード記録] > [メモリーカードの操作] (P. 102) で、[動作設定] を [ログと映像を保存する] に設定している
- メモリーカードに録画される各映像ストリームは、設定ページの [映像記録] > [メモリーカード記録] > [映像記録設定] > [映像種別] (P. 102) で設定します。

映像を手動録画する

1 カメラの制御権を取得していない場合は、 [カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして制御権を取得する

2 [メモリーカード録画] ボタンをクリックする

録画中は、[メモリーカード録画] ボタンの表示が変わります。

録画中

録画中 (カメラ制御権解放中)

録画していない状態 (カメラ制御権取得中)

録画していない状態 (カメラ制御権解放中、または、カメラにメモリーカードをマウントしていない状態)

3 録画を停止するには、もう一度 [メモリーカード録画] ボタンをクリックする

重 要

- メモリーカードへの手動録画は、録画開始から300秒が経過した時点で停止します。
- 手動録画中は、[設定ページ] の各設定を変更しないでください。録画が停止する場合があります。
- メモリーカード手動録画中に、制御権を解放したり、カメラの接続を切断しても、継続して録画されます。

録画した映像を確認する

メモリーカードに手動録画した映像は、録画映像ユーティリティで確認および再生できます。
詳細は、『録画映像ユーティリティ 使用説明書』を参照してください。

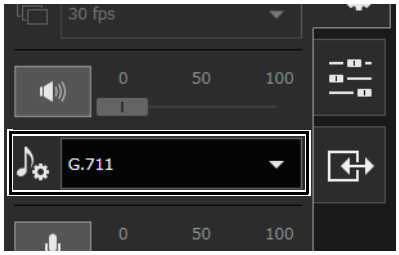
音声を受信・送信する

[映像と音声メニュー] を開いて、カメラからの音声受信とビューワーからの音声送信、およびそれぞれの音量を設定します。

音声を受信する

マイクから入力された音声を受信し、ビューワーで再生します。管理者権限または音声配信権限が必要です。

1 [映像と音声メニュー] の [音声圧縮方式] で受信する音声データの圧縮方式を選択する



2 [音声受信] ボタンをクリックする

音声受信が開始されます。
音声受信中は、[音声受信] ボタンがアクティブ (紫) に変わります。

3 [出力音量] のスライダーで適切な音量に調節する

メ モ

- 音声を受信するには、マイクをカメラに接続し (S32VEでは不要)、設定ページの [音声] > [音声] > [音声全般] (P. 94) で、[音声入力の使用] を [使用する] に設定し、[音声] > [音声] > [音声サーバー] (P. 95) で [カメラからの音声送信] を [送信する] に設定する必要があります。
- アイコンがアクティブ (紫) の間は、[映像と音声メニュー] を閉じても常に音声が受信されます。
  ただし、アイコンがアクティブの間でも、次の場合はカメラから無音が送信されるため、マイクからの入力音声は聞こえません。
  – 設定ページの [音声] > [音声] > [音声全般] (P. 94) で、[音声通信方式] を [半二重] に設定時、管理者が音声を送信している間 HM4x S32VE
  – 設定ページの [音声] > [音声] > [音声サーバー] (P. 95) で、[パン・チルト中のミュート] を [ミュートする] に設定時、カメラのパン・チルトが動作している間 S32VE
- 音声受信中は [音声圧縮方式] を変更できません。[音声受信] ボタンをクリックして音声受信をいったん終了してください。
- プロキシサーバーを使用する環境で音声機能を使用する場合、[コントロールパネル] の [ネットワークとインターネット] > [インターネットオプション] > [接続] タブ > [LANの設定] > [プロキシサーバー] の [LANにプロキシ サーバーを使用する] をチェックして、[詳細設定] > [例外] にカメラのIPアドレスを指定する必要があります。

音声を送信する

HM4x S32VE

PCに接続した外部デバイスから入力した音声を、カメラに接続したアンプ付きスピーカーで出力できます。
音声送信時は、管理者権限でHTTPS接続する必要があります。

1 [映像と音声メニュー] の [音声送信時間] で、音声を送信する最大時間を選択する

2 [音声送信] ボタンをクリックする

音声送信が開始されます。
音声送信中は、[音声送信] ボタンのアイコンがアクティブ (紫) に変わります。

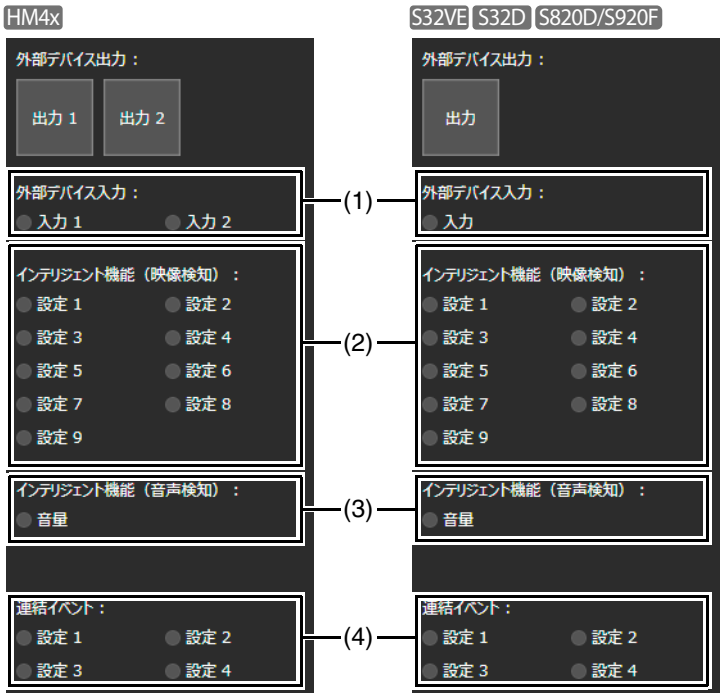
3 [入力音量] のスライダーで適切な音量に調節する

メ モ

- 音声を送信するには、あらかじめ設定ページの [音声] > [音声] > [音声サーバー] > [ビューワーからの音声受信] を [受信する] に設定する必要があります (P. 96)。
- アイコンがアクティブ (紫) の間は、[映像と音声メニュー] を閉じても常に音声が送信されます。
- 設定ページの [音声] > [音声] > [音声全般] (P. 95) で [音声通信方式] を [半二重] に設定していると、管理者が音声を送信している間は、他のユーザーにはカメラから無音が送信されます。そのため、[音声受信] ボタン (P. 48) がアクティブ (紫)でも、マイクからの入力音声は聞こえません。
- プロキシサーバーを使用する環境で音声機能を使用する場合、[コントロールパネル] の [ネットワークとインターネット] > [インターネットオプション] > [接続] タブ > [LANの設定] > [プロキシサーバー] の [LANにプロキシ サーバーを使用する] をチェックして、[詳細設定] > [例外] にカメラのIPアドレスを指定する必要があります。

外部デバイス出力の操作・イベント検知状態の確認を行う

[イベントと入出力メニュー] で、外部デバイスの出力操作や外部デバイスの入力状態、インテリジェント機能の検知状態、連結イベントの発生状態を確認できます。



外部デバイス出力を操作する

設定ページの [イベント] > [外部デバイス] (P. 122) で設定された、外部デバイスの出力を操作します。
アイコンをクリックすると、アクティブ (紫)/インアクティブ (グレー) の状態を切り換えることができます。

メ モ

- 外部デバイス出力を操作するには、カメラ制御権を取得する必要があります。

イベント検知の状態を確認する

(1) **[外部デバイス入力]**
設定ページの [イベント] > [外部デバイス] (P. 123) で設定された、外部デバイスの入力状態が表示されます。
外部デバイスによる接点入力信号を受けると、入力がアクティブとなりアイコンが緑色になります。

(2) **[インテリジェント機能(映像検知)]**
設定ページの [検知] > [インテリジェント機能] の映像検知 (P. 112) で設定された映像検知の状態が、検知設定番号ごとに表示されます。インテリジェント機能 (動体検知、置き去り検知、持ち去り検知、いたずら検知、通過検知、侵入検知、顔検知) の検知設定で、検知あり状態になると、そのアイコンが緑色になります。
設定ページの [検知] > [インテリジェント機能] の検知設定名 (P. 117) に名前が入力されている場合は、[設定1] ～ [設定15] に、その名前が表示されます。

メ モ

- 検知あり状態を示すアイコン表示は、最大で約5分間です (動体検知を除く)。

(3) **[インテリジェント機能(音声検知)]**
設定ページの [検知] > [音声検知] (P. 106) で設定された、[音量検知] の状態が表示されます。検知あり状態になると、アイコンが緑色になります。

(4) **[連結イベント]**

設定ページの [イベント] > [連結イベント] (P. 128) で設定された、連結イベントの状態が表示されます。連結イベントありの状態になると、アイコンが緑色になります。

4章

設定ページ

設定ページでは、カメラを使用するのに必要なすべての設定を行います。カメラ運用開始前に、カメラの使用状況に合わせて設定ページで各種設定をしてください。
また、カメラのメンテナンスなど、運用中に行うメニューも用意されています。

設定ページの使いかた

設定ページを表示するまでの操作と、設定ページの共通操作について説明します。

メ モ

- 設定ページは、管理者のみ操作できます。
- 事前にカメラマネジメントツールで管理者アカウントとネットワークの設定を行ってください。

設定ページにアクセスする

カメラマネジメントツールで設定したIPアドレスを、Webブラウザーに直接入力してカメラの設定ページを表示します。

メ モ

- 設定ページは、カメラマネジメントツールからアクセスすることもできます。詳細は、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

1 Webブラウザーを起動する

2 IPアドレスを入力し、Enterキーを押す

ユーザー認証の画面が表示されます。

3 管理者名と管理者パスワードを入力し、[ログイン] をクリックする

設定メニューが表示されます。

重 要

- 同じPCを管理者と登録ユーザーが共有してビューワーを使用する場合には、[資格情報を記憶する] のチェックを外すことを強くお勧めします。

メ モ

- 設定メニューの [システム] > [ビューワー] > [全般] > [デフォルトページ] を [ビューワーを表示] に設定した場合は、ビューワーが表示されます(P. 148)。

■ 設定メニューについて

(1) **[ビューワー] ボタン**
カメラビューワーを起動します (P. 27)。

(2) **言語切り換えボタン**
画面に表示する言語設定します。

(3) **設定メニュー**
クリックすると詳細項目が表示されます。各項目をクリックして、各設定ページに移動します (P. 57)。

重 要

- 認証済みのWebページを表示したまま、別のウィンドウやタブを開いてカメラにアクセスすると、表示中のWebページの認証情報が破棄される場合があります。その場合は、再度認証情報を入力してください。
- セキュリティを確保するため、設定ページによる設定の完了後、およびカメラビューワーの使用後は、Web ブラウザーを終了してください。
- 1つのカメラに対しては、同時に複数の設定ページを開いて変更操作を行わないでください。

設定ページ共通の操作

設定ページの基本的な操作と、各設定ページで共通な操作について説明します。

メ モ

- Webブラウザーでダイアログを表示しない設定を有効にすると、設定ページの操作ができなくなる場合があります。その場合は、Webブラウザーを終了し、再度起動してください。

■ 設定変更の適用について

各設定ページ内で設定を変更すると、設定ページ右上および右下に表示されている [適用] および [クリア] のグレーアウトが解除され、クリックできるようになります。

この状態で [適用] をクリックすると、変更した設定が適用されます。
[クリア] をクリックすると、変更する前の設定に戻ります。

■ 再起動が必要な設定変更

変更した設定を適用するために、カメラを再起動させる必要がある設定項目には、右端にオレンジの [再起動] 記号が付いています。

[再起動] 記号がある項目を変更すると、設定ページ右上および右下に表示されている [適用] が、[適用して再起動] に変わります。

[適用して再起動] をクリックすると、変更内容が適用され、カメラが再起動します。
[クリア] をクリックすると、変更する前の設定に戻ります。

重 要

- [適用] または [適用して再起動] をクリックせずに別の設定ページへ移動すると、変更内容が失われてしまいます。変更内容を適用するには、必ず [適用] または [適用して再起動] をクリックしてください。

■ 設定メニューに戻る

各設定ページから設定メニューに戻る場合は、右上に表示されている [設定メニュー] をクリックします。

重 要

- Webブラウザーの [戻る]・[進む] ボタンによる設定ページの移動は行わないでください。変更した設定が元に戻ってしまうことや、意図しない変更が適用されてしまう可能性があります。

■ ヘルプについて

設定項目先頭にある [Help] をクリックすると、設定項目の詳細説明が表示されます。

■ 設定範囲や文字数の制限について

数値入力や文字入力を行う設定項目には、設定可能範囲や文字数の制限が表示されています。
表示されている範囲内で入力してください。

映像表示部の操作について

一部の設定ページでは映像表示部を使って設定を行います。

メ モ

- 設定ページによって、表示される項目が変わります。
- 設定ページで映像表示中は、他のユーザーはビューワーにアクセスできなくなります。また、ビューワーに管理者が接続中は、設定ページの映像表示ができなくなり、設定できません。

(1) **映像表示部**

現在のカメラ映像が表示されます。映像表示部上のマウス操作で、領域などを設定します。映像表示部の操作はビューワーと同じです (P. 36)。

HM4x S32VE S32D

設定ページによっては、映像表示部上でカーソルが [+] のとき次の操作ができます。

– クリックした位置にカメラアングルをセンタリング (P. 36)
– エリアズーム操作 (P. 37)

(2) **パン・チルトスライダー**

映像表示部で行うカメラのパン・チルト操作は、ビューワーと同じです (P. 36)。

(3) **ズームスライダー**

映像表示部で行うカメラのズーム操作は、ビューワーと同じです (P. 36)。

(4) **[画面サイズ切り換え] ボタン**

ボタンをクリックするたびに、映像表示部のサイズを大小で切り換えます。

(5) **[マウス操作切り換え] ボタン** HM4x S32VE S32D

ボタンをクリックし、ボタンが紫色のあいだ、映像表示部上でクリックした位置にカメラアングルをセンタリングします。

(6) **パノラマ画面/全体画面**

カメラの可動範囲を全体に表示します。設定ページによっては、パノラマ画面上のマウス操作で、領域などを設定できます。

HM4x S32VE S32D

カメラにパノラマ画像が登録されている場合(P. 91) は、パノラマ画像が表示されます。

(7) **[再接続] ボタン**

カメラに接続し直します。カメラに接続していない場合に操作できます。

(8) **[スナップショット] ボタン**

クリックした瞬間の静止画を、スナップショットウィンドウを開いて表示します(P. 46)。

(9) **[カメラ制御権取得/解放] ボタン**

カメラ制御権 (P. 35) を取得または解放します。

各設定ページについて

設定ページの各項目の概要は次のとおりです。

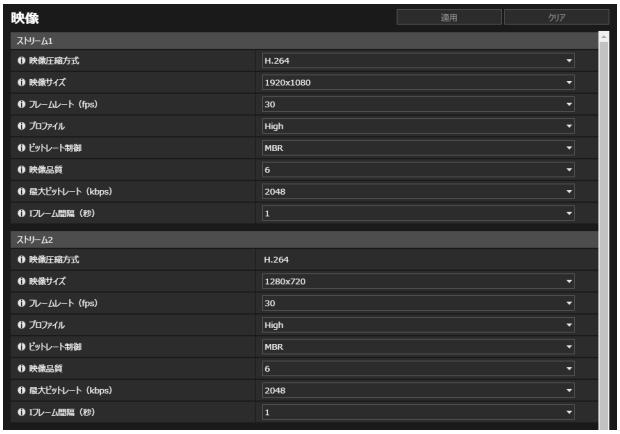
分類	項目	内容
映像	映像	カメラから配信する映像のサイズや品質など、映像の全般的な設定 (P. 59)
	カメラアングル	カメラアングルの設定 (P. 62)
	プリセット	一連の設定をプリセットとして登録 (P. 63)
	プリセット巡回	登録済みの複数のプリセットを自動で巡回するための設定 (P. 74)
	ピクチャー (オプション)	カメラ制御、デイナイトの設定 (P. 78)
	ADSR	ADSR (Area-specific Data Size Reduction) の設定 (P. 80)
	オンスクリーン表示	映像上に、日付や時刻、カメラ名、任意の文字列を表示 (P. 82)
	プライバシーマスク	カメラ映像の見せたくない領域にマスクを設定 (P. 84)
	可視範囲	カメラで撮影できる範囲を設定 (P. 87)
	パノラマ	パノラマ画像の作成・管理 (P. 91)
音声	音声	マイクからの入力音声や、ビューワーからの出力音声、音声ファイルの再生を設定 (P. 94)
映像記録	アップロード	イベントの発生時に、FTPまたはHTTPで映像をアップロードするための設定 (P. 97)
	メモリーカード記録	イベントの発生時に、映像をメモリーカードに記録するための設定 (P. 101)
	メール通報	イベント発生時に、指定した宛先にメールを送信して通報するための設定 (P. 104)
検知	音声検知	マイクへの入力音声の変化を検知して、映像記録やメール通報などの動作を実行 (P. 106)
	インテリジェント機能	動体検知やいたずら検知、侵入検知などインテリジェント機能の設定 (P. 108)
イベント	外部デバイス	外部デバイス出力、および外部デバイスからの入力イベントで実行する動作に関する設定 (P. 122)
	タイマー	映像記録やメール通報などの動作を一定間隔で実行するためのタイマーイベントの設定 (P. 125)
	デイナイト切り換え	デイモードとナイトモードが切り換えられるタイミングで、カメラアングルをプリセット位置に移動 (P. 127)
	連結イベント	2種類のイベントを組み合わせて、1つのイベントとして発生させる設定 (P. 128)
サーバー	サーバー	HTTPサーバー、およびSNMPサーバーに関する設定 (P. 132)
	映像サーバー	映像サーバーに接続できるクライアントに関する設定 (P. 134)
	RTPサーバー	RTPを使用した配信に関する設定 (P. 135)
ONVIF	ONVIF	WS-Securityの時刻チェック、およびMedia Profileの設定 (P. 137)
セキュリティ	証明書管理	証明書の作成、および管理に関する設定 (P. 138)
	SSL/TLS	暗号化通信、およびサーバー証明書に関する設定 (P. 140)
	802.1X	802.1X認証の設定、および認証状態の表示、証明書の管理 (P. 141)
	ユーザー管理	管理者のアカウント情報や登録ユーザーの追加・削除、操作権限を設定 (P. 142)
	ホストアクセス制限	IPv4、IPv6 のそれぞれのアドレスからのアクセスに対して、個別にアクセス制御を行う設定 (P. 144)

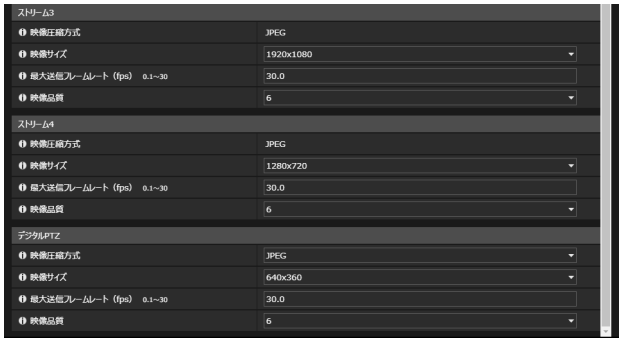
分類	項目	内容
システム	システム	カメラ名や外部入力/出力デバイス名の設定、およびカメラの動作、設置に関する設定 (P. 146)
	ビューワー	ビューワーの起動、認証、表示に関する設定 (P. 148)
	日付と時刻	カメラの日付と時刻に関する設定 (P. 149)
	メモリーカード	マウント/アンマウント、フォーマットの実行などのメモリーカードの操作 (P. 151)
	ネットワーク	カメラを接続するネットワークの設定 (P. 152)
メンテナンス	全般	機器情報やライセンスの確認、およびカメラの再起動や初期化を実行 (P. 155)
	バックアップ/リストア	バックアップやリストアを実行 (P. 157)
	ファームウェア更新	ファームウェア更新を実行 (P. 158)
	環境	システム周波数、WDR、インテリジェント機能の設定、および最大フレームレートの表示 (P. 159)
	ログ	ログの表示やログ通知の設定 (P. 160)

[映像] > [映像]

カメラから配信する、各ストリームの映像サイズや品質など、映像の全般的な説明をします。
次の5種類あるストリームごとに設定を行います。

- ストリーム1
- ストリーム2
- ストリーム3
- ストリーム4
- デジタルPTZ





重 要

- 映像サイズ、映像品質、最大ビットレートを高めに設定すると、1 フレームあたりのデータ容量が大きくなり、ネットワーク負荷が高くなることで、次の現象が起こることがあります。
  - H.264/H.265 : 映像が一時的に途切れる場合があります。
  - JPEG : フレームレートが低下する場合があります。
- H.264/H.265映像の場合、映像サイズを大きめに設定し、最大ビットレートを低めの設定にすると、ブロックノイズが目立つことがあります。
- 被写体の種類や、被写体の動きによってはデータ容量が大きくなる場合があります。フレームレートの低下などが長時間にわたって継続する場合は、映像サイズや映像品質を低く設定してください。

ストリーム1、ストリーム2

カメラから配信する、H.264/H265映像について設定します。

[映像圧縮方式]
映像コーデックの種類を選択します。
ストリーム1での設定はストリーム2にも反映されます。

[映像サイズ]
映像サイズを選択します。
ストリーム2では、[1920x1080] は設定できません。

[フレームレート (fps)]
映像のフレームレートを選択します。[メンテナンス] > [環境] の設定によって選択肢が変わります。

重 要 HM4x S820D/S920F

- 60 fps (システム周波数60 Hz時)、50 fps (システム周波数50 Hz時) を選択できるのは、ストリーム1だけです。また、次の条件がすべて満たされている必要があります。
  - [メンテナンス] > [環境] の [WDR] と [インテリジェント機能] がともに [無効]
  - [映像記録] > [メモリーカード記録] > [動作設定] が [ログを保存する]
  - [映像記録] > [アップロード] で [映像記録動作] が [アップロード] の場合は、[アップロードの動作] が [アップロード無効]

[プロファイル]
[映像圧縮方式] が [H.264] の場合に、映像のプロファイルを選択します。

[ビットレート制御]
映像のビットレートについて設定します。

- [VBR] の場合、設定された [映像品質] を保持し、ビットレートは映像に応じて変動します。
- [MBR] の場合、設定された [映像品質] を保持し、ビットレートは映像に応じて変動します。ただし、設定された [最大ビットレート (kbps)] を超える場合にのみ、設定値を超えないよう [映像品質] を調整します。
- [CBR] の場合、設定された [目標ビットレート (kbps)] を目標に、[映像品質] を変更してビットレートを調整します。

[映像品質]
[ビットレート制御] が [VBR] または [MBR] の場合、映像の品質を選択します。
値が大きいほど高画質になります。

[最大ビットレート (kbps)]
[ビットレート制御] が [MBR] の場合、最大ビットレートを選択します。

[目標ビットレート (kbps)]
[ビットレート制御] が [CBR] の場合、目標ビットレートを選択します。

[Iフレーム間隔 (秒)]
Iフレームを挿入する間隔 (秒) を選択します。

重 要

- ストリーム1またはストリーム2の映像を、メモリーカード記録およびアップロードに使う場合、設定が次のように制限されます。
  - [ビットレート制御] : [MBR] または [CBR] のみ
  - [最大ビットレート (kbps)]、[目標ビットレート (kbps)]: [8192] 以下
  - [Iフレーム間隔 (秒)] : [0.5]、[1]、[1.5] のいずれかのみ

ストリーム3、ストリーム4

カメラから配信する、JPEG映像の品質や映像サイズを設定します。

[映像サイズ]
ビューワーで映像サイズを指定しない場合に、カメラから配信するデフォルトの映像サイズを選択します。
ストリーム4では、[1920x1080] は設定できません。

[最大送信フレームレート (fps)]
1秒間に送信する最大フレームレートを制限することにより、ビューワーの負荷を軽減します。最大30フレーム/秒まで設定できます。

[映像品質]
カメラから配信する映像の品質を選択します。
値が大きいほど高画質になります。

デジタルPTZ

カメラから配信する、デジタルPTZ映像について設定します。

[映像圧縮方式]
映像圧縮方式の種類を選択します。
ストリーム1に設定した映像コーデックまたはJPEGのどちらかを選択できます。

[映像サイズ]
映像サイズを選択します。

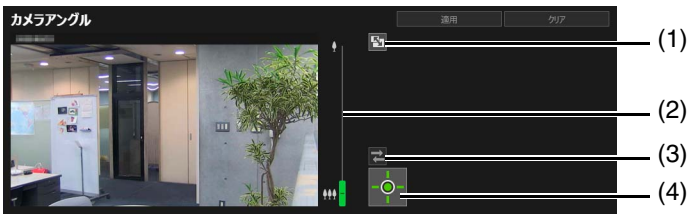
[フレームレート (fps)]、[プロファイル]、[ビットレート制御]、[最大ビットレート (kbps)]、[目標ビットレート (kbps)]、[Iフレーム間隔 (秒)]
設定内容はストリーム1、ストリーム2と同じです。

[最大送信フレームレート (fps)]、[映像品質]
設定内容はストリーム3、ストリーム4と同じです。

[映像] > [カメラアングル]

S820D/S920F

ズームスライダーを操作して、カメラアングルを設定します。設定したカメラアングルで切り出された映像がストリーム1～4で配信されます。



(1) **[画面サイズ切り換え] ボタン**
ボタンをクリックするたびに、映像表示部のサイズを大小で切り換えます。

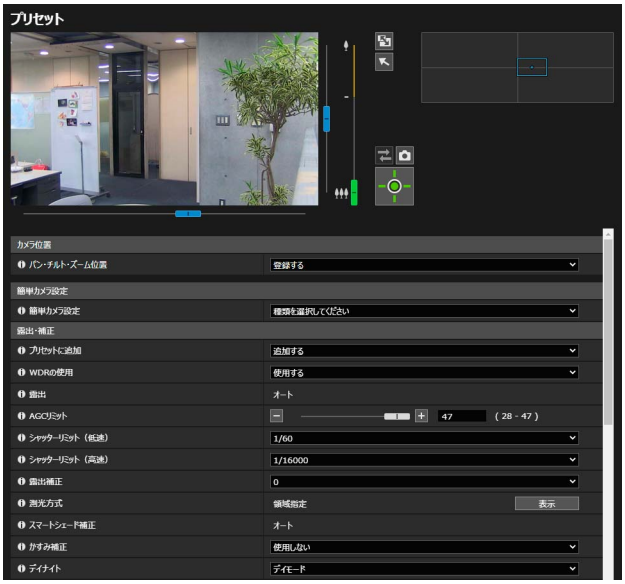
(2) **ズームスライダー**
つまみを動かして、カメラのズームイン (望遠) /ズームアウト (広角) を操作します。

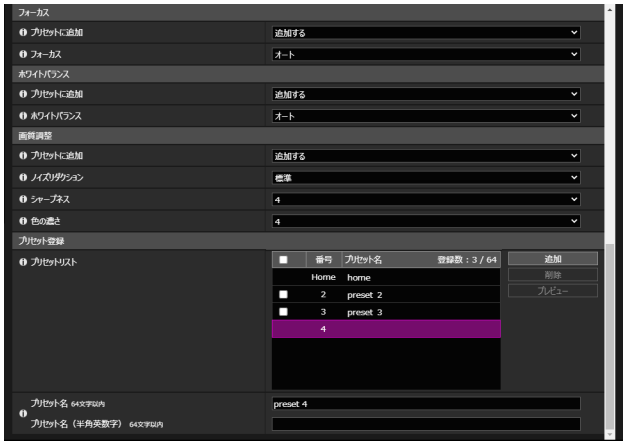
(3) **[再接続] ボタン**
カメラに接続し直します。カメラに接続していない場合に操作できます。

(4) **[カメラ制御権取得/解放] ボタン**
カメラ制御権を取得または解放します。ズームスライダーを操作するには、制御権を取得する必要があります。詳細は「カメラ制御権を取得する」(P. 35) を参照してください。

[映像] > [プリセット]

カメラアングルや露出などのカメラ設定をホームポジションやプリセットとして登録しておくことで、ビューワーなどから簡単に設定を呼び出すことができます。





カメラ位置

プリセットに登録するカメラ位置を設定します。

重 要 HM4x S32VE S32D

- インテリジェント機能、プライバシーマスク、プリセット、ADSRの設定後にズームを変更した場合は、これらを再設定する必要があります。

[パン・チルト・ズーム位置] HM4x S32VE S32D

現在のパン・チルト・ズーム位置をプリセットに登録します。映像表示部や、パノラマ画面上の枠を操作することで、パン・チルト・ズームの操作ができます。

[デジタルPTZ位置] S820D/S920F

現在のデジタルPTZ位置をプリセットに登録します。

[登録する] を選択すると、映像表示部に黄色い枠が表示されます。枠を操作してプリセットのデジタルPTZ切り出し位置を指定します。

メ モ

- プリセットのデジタルPTZ切り出し枠 (黄色) は、段階的なサイズでの設定になります。設定できるサイズは、ビューワーの [デジタルPTZ] と同じです (P. 44)。

簡単カメラ設定

プリセットに登録する各種設定項目を設定します。

[簡単カメラ設定]
選択した種類に応じて、[露出・補正] と [画質調整] の各項目に推奨値が一括で表示されます (推奨値が変わる項目および値は次の表のとおり)。必要に応じて、各項目を推奨値から変更し、[適用] をクリックして反映することもできます。

種類	動き優先	深度優先 HM4x	高感度	データサイズ低減	標準設定
利用撮影シーン	動きのある被写体に対して、ブレを抑制する	近くから遠くまでの広い範囲でピントを合わせる	暗い被写体に対して、感度を上げて明るくする	低照度時のデータサイズを抑制する	シーン設定を解除して、工場出荷設定に戻す
[露出]	オート	オート (絞り優先)	オート	オート	オート
[AGCリミット]	47	47	47	32	47
[シャッターリミット (低速)]	HM4x 1/1000 (秒) S32VE S32D S820D/S920F 1/250 (秒)	1/60 (秒)	HM4x S820D/S920F 1/8 (秒) S32VE S32D 1/30 (秒)	HM4x S820D/S920F 1/8 (秒) S32VE S32D 1/30 (秒)	1/60 (秒)
[シャッターリミット (高速)]	1/16000 (秒)	1/16000 (秒)	1/16000 (秒)	1/16000 (秒)	1/16000 (秒)
[絞り]	-	F8.0	-	-	-
[スマートシェード補正]	-	-	オート	-	オート
[ノイズリダクション]	弱	標準	強	強	標準
[シャープネス]	3	5	3	2	3
[色の濃さ]	3	3	3	3	3

重 要

- [簡単カメラ設定] では、次の留意点があります。

  [動き優先]
  - 蛍光灯などの影響によりフリッカーが発生する場合があります。
  - 低照度時において [標準設定] と比べて映像が暗くなったり、ノイズが増える場合があります。

  [深度優先] HM4x
  - 低照度時において [標準設定] と比べて映像が暗くなったり、ノイズが増える場合があります。

  [高感度]
  - 暗いシーンでは、動きのある被写体に残像が出やすくなります。

  [データサイズ低減]
  - 暗いシーンでは、動きのある被写体に残像が出やすくなります。

露出・補正

露出や画像補正に関する設定を行います。

[プリセットに追加]
[露出・補正] の設定をプリセットに追加する場合は、[追加する] を選択してください。

[WDRの使用]
WDRの機能を使用するかを選択します。[メンテナンス] > [環境] > [WDR] を [無効] 以外に設定している場合に表示されます。

[露出]
露出モードを選択します。

重 要
- [WDRの使用] が [使用する] の場合、[オート] 固定です。

メ モ
- [デイナイト] を [オート] にしている場合、[露出] は [オート]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (フリッカーレス2)] (S32VE S32D S820D/S920F)、[オート (シャッター優先)]、[オート (絞り優先)] (HM4x) のいずれかにしてください。

[オート]
自動的に露出を制御します。

[オート (フリッカーレス)]
使用環境の明るさに応じて、シャッタースピードを自動で調節します。蛍光灯などの影響による画面の輝度むらを低減します。

[オート (フリッカーレス2)] S32VE S32D S820D/S920F
[オート (フリッカーレス)] を選択しても輝度むらの低減効果が得られない場合に、本モードをご使用ください。ただし、本モードはシャッタースピードの自動調整範囲が1/100秒 (システム周波数が60 Hzのとき) または1/120秒 (システム周波数が50 Hzのとき) より速くならないように抑えられるため、適正な露出にならない (明るくなり過ぎる) 場合があります。

重 要
- [オート (フリッカーレス)] または [オート (フリッカーレス2)] でも、不安定な光源下では、画面のちらつきが残ることがあります。

[オート (シャッター優先)]
指定した [シャッタースピード] に応じて、絞り、ゲインを自動で調節します。

[オート (絞り優先)] HM4x
指定した [絞り] に応じて、ゲイン、シャッタースピードを自動で調節します。

[マニュアル]
[シャッタースピード]、[絞り] (HM4x)、[ゲイン] を手動で設定します。

[AGCリミット]
低照度時にゲインを上げて映像を明るくするAGC (オートゲインコントロール) の上限値を選択します。
数値が大きいほど感度が高くなりますが、映像のノイズが増えます。

重 要
- [AGCリミット] を設定すると、最低被写体照度が変わる可能性があります。

メ モ
- [WDRの使用] を [使用する] に設定すると、設定できる値が制限されます。

[シャッターリミット (低速)]
[露出] が [オート]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (フリッカーレス2)] (S32VE S32D S820D/S920F)、[オート (絞り優先)] (HM4x) の場合に、シャッタースピードの下限を選択できます。

重 要
- [露出] を[オート (フリッカーレス)] または [オート (フリッカーレス2)] (S32VE S32D S820D/S920F) に設定している場合、1/50秒 (システム周波数が60 Hzのとき)、1/30秒 (システム周波数が50 Hzのとき) より速い速度は選択できません。

[シャッターリミット (高速)]
[露出] が [オート]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (絞り優先)] (HM4x) の場合に、シャッタースピードの上限を選択できます。

重 要
- [シャッターリミット (低速)] より遅い速度は選択できません。
- [露出] を [オート (フリッカーレス)] に設定している場合、1/100秒 (システム周波数が60 Hzのとき)、1/120秒 (システム周波数が50 Hzのとき)より遅い速度は選択できません。

[シャッタースピード]
[露出] が [オート (シャッター優先)] または [マニュアル] の場合、シャッタースピードを固定できます。

重 要
- 信号機や電光掲示板などを撮影した場合、映像が点滅して表示されることがあります。この場合、[メンテナンス] > [環境] (P. 159) でシステム周波数が正しく設定されているか確認してください。また、電源の周波数に応じたシャッタースピードを設定するとその現象を抑制できることがあります。電源の周波数が60 Hzのときは1/120秒を、50 Hzのときは1/100秒を選択してください。
- シャッタースピードを低速にすると、インテリジェント機能が正しく検知できない場合があります。撮影シーンと目的に合わせて選択してください。

メ モ
- シャッタースピードを低速にするほど、動きのある被写体では残像が発生します。
- 動きのある被写体を撮影する場合、速いシャッタースピードを選択することで像ブレを少なくできます。

[絞り] HM4x
[露出] が [オート (絞り優先)]、[マニュアル] の場合、絞りを設定します。
スライダーを左に動かすほど絞りが絞られ、映像は暗くなります。右に動かすほど絞りが開かれ、映像は明るくなります。

[ゲイン]
[露出] が [マニュアル] の場合、明るさに対する感度を設定します。
スライダーを左に動かすほど映像が暗くなり、右に動かすほど明るくなります。

[露出補正]
[露出] が [マニュアル] 以外の場合、露出の補正値を選択して、映像の明暗を調節できます。

[測光方式]
[露出] が [マニュアル] 以外の場合、測光方式を選択できます。

重 要
- [WDRの使用] が [使用する] の場合、[領域指定] 固定です。

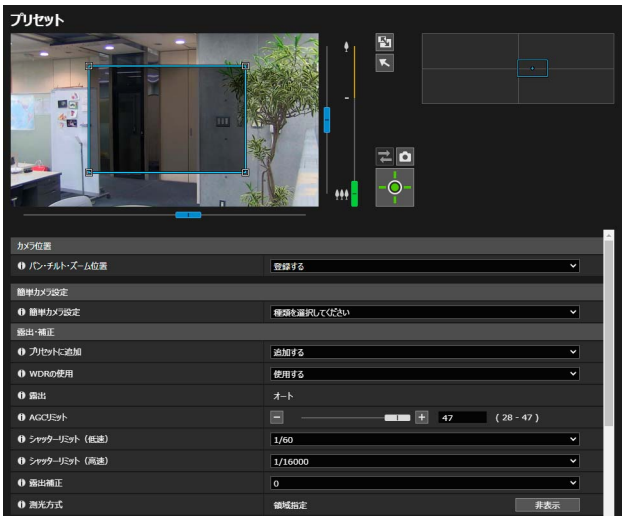
[中央部重点]
画面中央部に重点をおきながら、画面全体を測光します。
画面周辺に多少明暗があっても、中央付近の被写体は適正な露出が得られます。
被写体が画面中央付近の場合に使用してください。

[平均]
画面全体を平均して測光します。
画面内の明暗差が大きい撮影環境でも、安定した露出が得られます。
車の通過、人の出入りがあるシーンなどで露出を安定させたい場合に使用してください。

[スポット]
画面中央部を測光する方式です。
画面周辺の明暗に左右されることなく、画面中央部の被写体は適正な露出が得られます。
被写体にスポット光が当たっている場合や、逆光の場合などで画面中央部に露出を合わせたいときに使用してください。

[領域指定]
指定した領域が最適な明るさになるように制御します。
映像表示部に表示される枠の位置・サイズを任意の領域に設定できます。
次の手順で操作してください。

1. 最も広角にした状態で [表示] をクリックすると映像表示部に枠が表示されます。
2. 枠を任意の領域に設定します。
   - 枠線内をドラッグして、領域を移動
   - 角の□をドラッグして、サイズを変更



重 要
- デジタルズーム領域では、枠を表示できません。

メ モ
- 映像表示部の上下左右の端には、枠を指定できない場合があります。

[スマートシェード補正]
スマートシェード補正の機能を有効にするかを選択します。スマートシェード補正を使用すると、背景が明るくて被写体が見にくい場合に、暗い部分を明るく自動補正して見やすくします。

重 要
- [WDRの使用] が [使用する] の場合、[オート] 固定です。

メ モ
- スマートシェード補正を設定すると、映像のデータサイズが大きくなります。

[かすみ補正]
かすみ補正の機能を有効にするかを選択します。かすみ補正を使用すると被写体にかすみがかかったような場合に、被写体を見やすいように映像のコントラストを自動で補正します。補正の強さを [映像] > [ピクチャー (オプション)] > [カメラ制御] > [かすみ補正強度 (オート)] で変更できます (P. 78)。

メ モ
- かすみ補正を設定すると、映像のデータサイズが大きくなる場合があります。

[デイナイト]
設置環境の明るさに応じて撮影モードを選択します。

[オート]
明るさに応じて自動的にデイモードとナイトモードを切り換えます。

[デイモード]
通常のカラー映像を撮影します。

[ナイトモード]
映像は白黒になります。
赤外線カットフィルターを外して撮影感度を上げます。HM4x

重 要

- [オート] でご使用の場合は、次のような点に注意してください。
  - 事前に十分な運用テストを行い、有効性を確認したうえでご利用ください。
  - [露出] の設定を、[オート]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (フリッカーレス2)] (S32VE S32D S820D/S920F)、[オート (シャッター優先)]、[オート (絞り優先)] (HM4x) のいずれかにしてください。
  - デイモード/ナイトモードの切り換えの間、赤外線カットフィルターが数回往復動作することがあります。その間、パン・チルト・ズームおよびマニュアルフォーカスは操作できません。HM4x
- [デイモード] または [ナイトモード] に設定したままビューワーを終了させると、設定ページで [デイナイト] が [オート] に設定されていても、[デイモード] または [ナイトモード] の状態が続きます。
  オートデイナイトを有効にするには、[デイナイト] を [オート] に設定してからビューワーを終了してください。
- ナイトモード時に外部機器による赤外照明を使用する場合、ナイトモードに変わる前に赤外照明が点灯するように運用してください。HM4x
- カメラには赤外線カットフィルターが採用されていますが、挿抜機構がないため、赤外光による照明効果は得られません。S32VE S32D S820D/S920F

フォーカス

HM4x S32VE S32D

フォーカスに関する設定を行います。

[プリセットに追加]
[フォーカス] の設定をプリセットに追加する場合は、[追加する] をクリックしてください。

[フォーカス]
フォーカスを選択します。

[オート]
自動的にフォーカスを合わせます。

[マニュアル]
[フォーカス調整] の [遠]、[近] ボタンを押し続けることで、それぞれ遠距離側、近距離側にフォーカス位置を調整します。
[ワンショットAF] の [実行] をクリックすると、いったんオートフォーカスでフォーカスを合わせた後に、マニュアルモードになります。

次の手順で適切なフォーカス調整が行えます。

1. [露出] の [オート (絞り優先)] を選択し、絞りのスライダーを右端まで動かして、絞りを開放にします。被写界深度が浅くなり、適切なフォーカス調整が行えます。
2. [フォーカス調整] の [遠]、[近] ボタンを押し続ける、または [ワンショットAF] の [実行] をクリックしてフォーカスを調整します。
3. 調整が終わったら、適正な [露出] に変更してください。

[無限遠固定]
無限遠近傍にフォーカス位置を移動します。
より厳密にフォーカスを合わせたい場合は、[マニュアル] を選択してフォーカスを調整します。

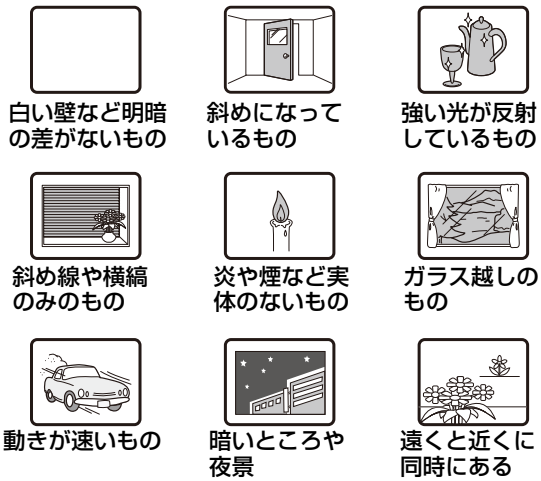
重 要

- 設定したフォーカスは、ほかのユーザーにも適用されます。
- 照明によっては、[デイモード] と [ナイトモード] の切り換え時にフォーカスが合わない場合があります。デイナイト切り換え時のフォーカスは、[イベント] > [デイナイト切り換え] で設定できます。
- [露出] で、[マニュアル] を選択してシャッタースピードを1/1秒に設定すると、[オート] ではフォーカスが合いません。その場合は、[マニュアル] でフォーカスを合わせてください。
- フォーカスを [マニュアル] で設定すると、フォーカスが固定されたままになるのでご注意ください。
- 室内から窓ガラス越しに屋外を撮影するような条件では、ガラス面に塵や水滴が付着していると、ガラス面にフォーカスが合ってしまう場合があります。ガラス面とカメラをなるべく短い距離で設置してご使用ください。

メ モ

- 次のような被写体は、[オート] および [ワンショットAF] ではフォーカスが合いにくいことがあります。

フォーカスが合いにくい被写体



- カメラの再起動後は、フォーカスが合っているか確認することをお勧めします。

[ワンショットAF]
[フォーカス] が [マニュアル] の場合に使用します。[実行] をクリックすると、いったんオートフォーカスでフォーカスを合わせた後、マニュアルモードになります。

[フォーカス調整]
[フォーカス] が [マニュアル] の場合に、[遠] および [近] を押し続けることで、それぞれ遠距離側、近距離側にフォーカス位置を調節します。

ホワイトバランス

ホワイトバランスに関する設定を行います。

[プリセットに追加]
[ホワイトバランス] の設定をプリセットに追加する場合は、[追加する] をクリックしてください。

[ホワイトバランス]
自然な色合いの映像になるように、光源に応じたホワイトバランスを選択します。

重 要

- 単一色の被写体や低照度時、ナトリウム灯や水銀灯、一部の蛍光灯を使用する環境下では、[オート] で適切な色合いに調節できないことがあります。
- [オート] の状態で、水銀灯光源下で画面が緑色を帯びる場合は、[水銀灯] を選択してください。また、[水銀灯] を選択しても水銀灯光源下で画面が適切な色にならない場合は、[マニュアル] を選択して、[ワンショットWB] を使用してください。
- 光源選択は代表的な特性に合わせていますので、お使いの光源によっては、適切な色合いにならない場合があります。その場合は [マニュアル] を選択して、[ワンショットWB] を使用してください。

[オート]
自動的にホワイトバランスを調節します。

[マニュアル]
[ワンショットWB]、[Rゲイン]、[Bゲイン] を操作して、マニュアルでホワイトバランスを設定します。

[蛍光灯 昼光色] (約 6100 K ～ 約 6600 K)
昼光色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[蛍光灯 白色] (約 4100 K ～ 約 5000 K)
昼白色蛍光灯、白色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[蛍光灯 暖色] (約 2500 K ～ 約 3000 K)
暖色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[ナトリウム灯] (約 2000 K)
オレンジ色のナトリウム灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[ハロゲン灯] (約 2700K ～ 約 3200 K)
ハロゲン灯、白熱電球のもとで撮影する場合に選択してください。

[水銀灯] (約 4300 K)
水銀灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[ワンショットWB]
[ホワイトバランス] が [マニュアル] の場合、ホワイトバランスを光源に強制的に合わせて固定します。
設定方法例：
白い被写体 (白い紙など) を光源で照らし、被写体を画面いっぱいに撮影した状態で [実行] をクリックします。

[Rゲイン]
[ホワイトバランス] が [マニュアル] の場合、Redのゲイン値を設定します。

[Bゲイン]
[ホワイトバランス] が [マニュアル] の場合、Blueのゲイン値を設定します。

重 要

- [デイナイト] が [ナイトモード] になっている場合 ([オート] に設定されていて、ナイトモードと判定されている場合を含む) は、ホワイトバランス機能は使用できません。
- 屋外での昼夜連続撮影など、光源が徐々に変化する場所で、変化が少ない被写体を撮影する場合、適切な色合いにならないことがあります。この場合は [ワンショットWB] を実行するなど撮影される映像に変化を与えると適切な色になります。

画質調整

ノイズリダクションやシャープネスなどの画質に関する設定を行います。

[プリセットに追加]
[画質調整] の設定をプリセットに追加する場合は、[追加する] をクリックしてください。

[ノイズリダクション]
ノイズリダクションのレベルを選択します。主に低照度時に効果が高くなります。
[強] にするとノイズリダクションの効果が高くなりますが、動いている被写体の残像が見えやすくなります。
[弱] にするとノイズリダクションの効果が低くなり、解像感が高くなりますが、映像のファイルサイズが増えます。

[シャープネス]
シャープネスのレベルを選択します。
[強] にするほどシャープな映像になり、[弱] にするほどソフトな映像になります。
[強] にするほど映像のファイルサイズが増えます。

[色の濃さ]
色の濃さを選択します。

プリセット登録

カメラアングルや、露出などのカメラ設定をプリセット登録しておくことで、ビューワーなどから簡単にプリセットを呼び出し、登録した設定が実行できます。

重 要

- インテリジェント機能に使用するカメラ位置を、プリセットとして登録しておくことを強く推奨します。HM4x S32VE S32D
- デジタルズーム領域で登録したプリセットを使用すると、登録時のカメラ位置を高い精度で再現できない場合があります。そのため、プリセット巡回（HM4x のみ）やインテリジェント機能では、光学ズーム領域で登録したプリセットの使用を推奨します。HM4x S32VE S32D
- 次の項目を変更した場合は、プリセットを設定し直してください。
  - [システム] > [システム] > [設置条件] > [映像反転] (P. 146)
  - [映像] > [映像] の各映像ストリーム設定 (P. 59)
- プリセット設定を行った後、[映像] > [ピクチャー (オプション)] > [カメラ制御] > [ブレ補正] (P. 78) の設定を変更すると、設定時の画角と操作時の画角が一致しなくなります。[ブレ補正] の設定を変更した場合は、プリセット設定を再度確認してください。HM4x
- カメラ専用オプションの屋内ドームハウジングを使用する場合は、必ずドームを装着した状態でプリセット設定を行ってください。HM4x

■ プリセットの利用について

プリセットには、ビューワーの操作時に、登録したカメラアングルや、露出などのカメラ設定をすぐに実行させるだけでなく、次のような使用方法があります。

- デイモード/ナイトモードの切り換え時に、プリセット登録した設定内容を実行できます (P. 127)。
- 複数のプリセットを、設定した時間に決まった順序で、自動的に巡回できます (プリセット巡回) (P. 74)。HM4x S820D/S920F
- インテリジェント機能の使用時に、監視位置をプリセット登録したカメラアングルに固定できます (P. 114)。HM4x S32VE S32D

■ プリセットを登録する

カメラアングルやカメラ設定をプリセットとして登録できます。
登録できるプリセット数は次のとおりです。

- 最大64個 (ホームポジション含む) HM4x S32VE S32D
- 最大20個 (ホームポジション含む) S820D/S920F

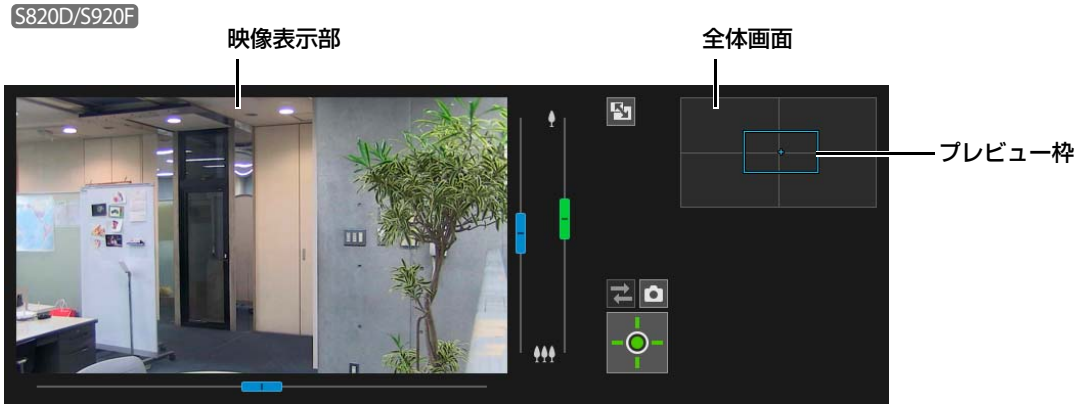
新たにプリセットを登録するときは、プリセットリストでプリセット名の入力されていないプリセットを選択してください。
プリセットリストで登録済みのプリセットを選択した状態で、手順4の [追加] をクリックすると、プリセットは上書きされます。

1 映像表示部を操作してアングルを設定する

次の画面からでもカメラアングルを操作できます。

HM4x S32VE S32D

S820D/S920F



2 プリセット登録の項目を設定する

[パン・チルト・ズーム位置] HM4x S32VE S32D **、[デジタルPTZ位置]** S820D/S920F
現在のカメラアングルをプリセットとして登録する場合は、[登録する] を選択します。

メ モ

- プリセットリストで、[Home] (ホームポジション) を選択した場合は、[パン・チルト・ズーム位置]/[デジタルPTZ位置] は必ず登録されます。

[露出・補正]、[フォーカス] HM4x S32VE S32D **、[ホワイトバランス]、[画質調整]**
現在の設定をプリセットとして登録する場合は、[プリセットに追加] で [追加する] を選択して、各項目を設定します。

メ モ

- [簡単カメラ設定] を設定すると、[露出・補正] と [画質調整] については簡単に設定ができます。

3 プリセット名を入力する

[プリセット名]、[プリセット名 (半角英数字)]
[プリセット名] は必ず入力してください。
[プリセット名] を入力した場合、ビューワーや設定ページのプリセットリストには、[プリセット名] が優先して表示されます。

4 [追加] をクリックする

プリセットがカメラに保存されます。

メ モ HM4x S32VE S32D

- プリセットの位置が可視範囲外にある場合は、左に (警告アイコン) が表示されます。

5 **複数のプリセットを登録する場合は、1～4を繰り返す**

■ プリセットを削除する

プリセットリストから、削除するプリセットを選択し、[削除] をクリックすると、プリセットがカメラから削除されます。ただし、[Home] (ホームポジション) は削除できません。

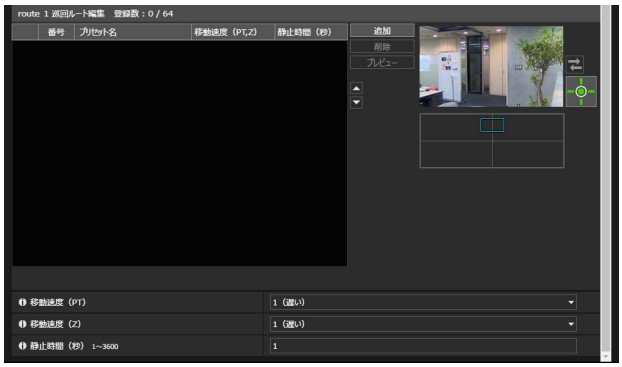
■ プリセットをプレビューする

プリセットリストからプリセットを選択した後、[プレビュー] をクリックします。映像表示部にプリセットの設定が反映されます。

[映像] > [プリセット巡回]

HM4x S820D/S920F

登録済みの複数のプリセットを自動で巡回して、監視を行うことができます。



重 要 HM4x

- プリセット巡回を使用する場合は、インテリジェント機能を使用しないでください。

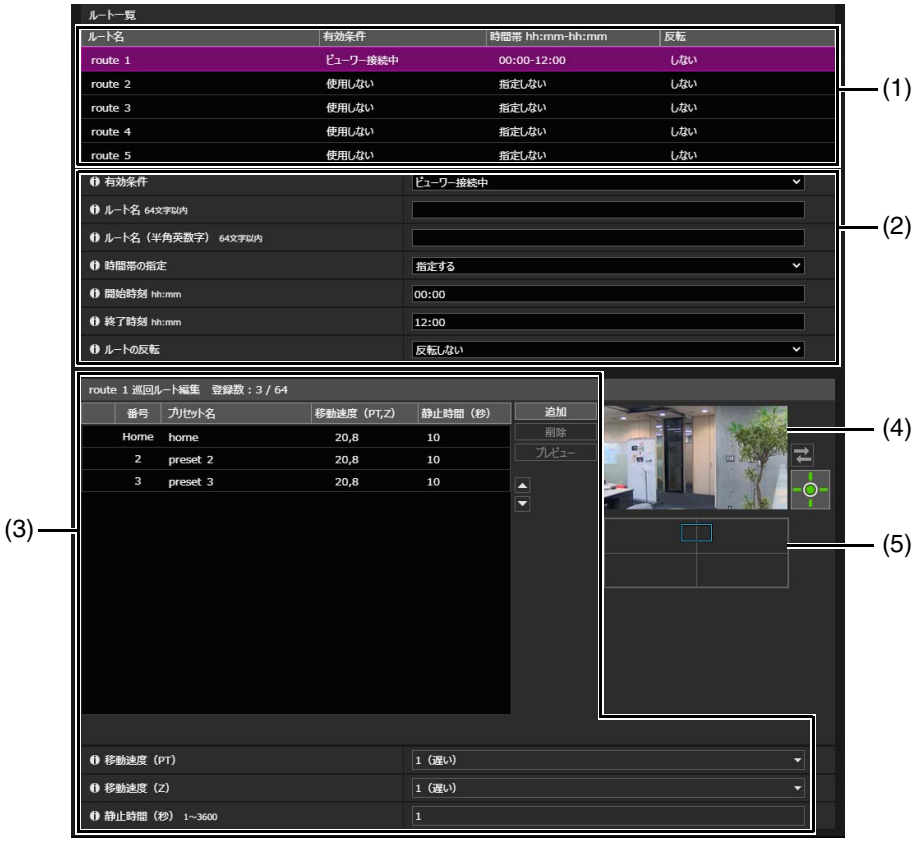
メ モ

- カメラビューワーで制御権が取得されているとき、または設定ページで映像表示をしているときは、プリセット巡回は行われません。

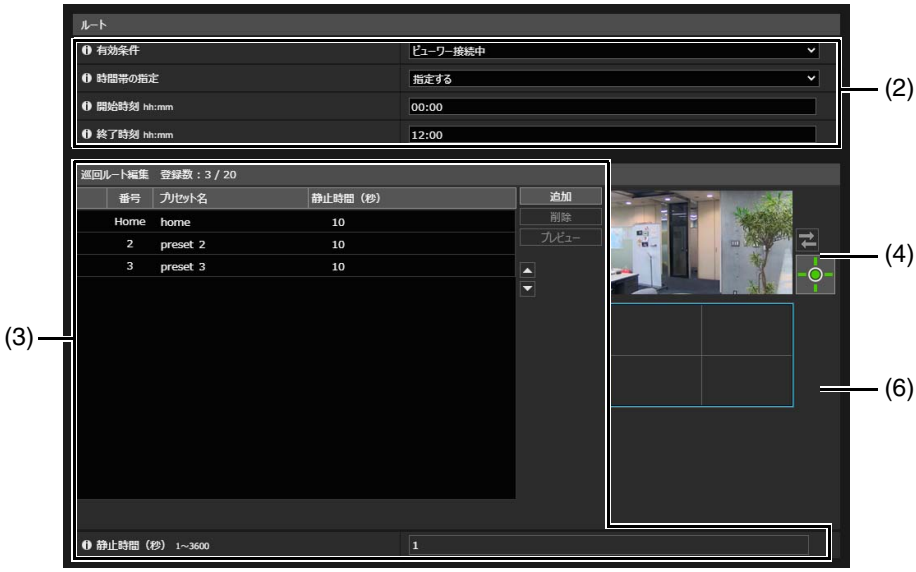
画面構成について

カメラ機種の種別により、登録できる巡回ルート数、1ルート内で巡回できるプリセット数、また巡回条件が違うため、画面構成も次のようになります。

HM4x



S820D/S920F



(1) **[ルート一覧] リスト** HM4x
プリセット巡回ルートの一覧です。設定した巡回条件が表示されます。5個の巡回ルートを設定できます。

(2) **巡回条件の設定**
巡回する場合の条件を設定します (P. 76)。

(3) **[巡回ルート編集]**
巡回するプリセットが一覧表示されます。一覧の上から順に巡回します。
プリセットの並び順を変えたり、プリセット位置に停止する時間などを設定することができます。

(4) **映像表示部**
カメラの現在の映像を表示します。

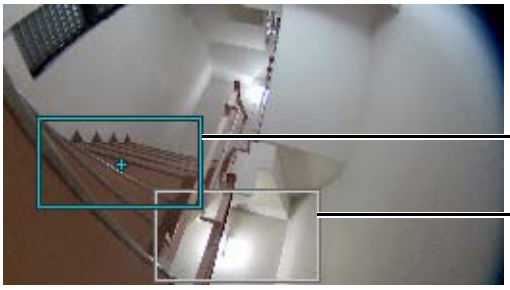
(5) **パノラマ画面** HM4x
カメラに登録されているパノラマ画像が表示されます。

(a) **パン・チルトプレビュー枠 (赤色枠)**
カメラが上・下・左・右に動ける範囲を表します。可視範囲が設定されている場合 (P. 87) に表示されます。

(b) **プレビュー枠 (青色枠)**
映像表示部に現在のカメラアングルを表します。

(c) **プリセットプレビュー枠 (白色枠)**
現在選択中のプリセット・ホームポジションを表します。

(6) **デジタルPTZパネル** S820D/S920F
[プリセット巡回] を起動したときにカメラが取得する全体映像が表示されます。



(b) **プレビュー枠 (青色枠)**
映像表示部に現在切り出している位置を表します。

(c) **プリセットプレビュー枠 (白色枠)**
現在選択中のプリセット・ホームポジションを表します。

巡回ルートの設定

登録できる巡回ルート数と、1ルート内で巡回できるプリセット数は、次のとおりです。

- 最大5ルート、1ルート内最大64プリセット HM4x
- 1ルート、ルート内最大20プリセット S820D/S920F

メ モ HM4x

- 登録した巡回ルートで有効条件や時間帯が競合する場合は、[ルート一覧] のリスト上位にあるルートが優先されます。

1 [ルート一覧]リストで、設定する巡回ルートを選択する HM4x

2 巡回ルートの名前と動作について設定する

[有効条件]
プリセット巡回が作動する条件を選択します。

[使用しない]
プリセット巡回は作動しません。

[ビューワー接続中]
ビューワーでカメラに接続しているときに作動します。

[常時]
プリセット巡回は常に作動します。

メ モ

- [使用しない] を選択しているとき、以降のプリセット巡回ルートの設定はできません。

[ルート名]、[ルート名 (半角英数字)] HM4x
巡回ルート名を入力します。
[ルート名] を入力した場合、[ルート一覧] には、[ルート名] が優先して表示されます。

[時間帯の指定]
決まった時刻に巡回を行う場合は、[指定する] を選択し、巡回の開始時刻と終了時刻を設定します。
[有効条件] に [ビューワー接続中] が選択されている場合、巡回の開始時刻にビューワーがカメラに接続されているときにプリセット巡回は作動します。[有効条件] に [常時] を設定している場合、プリセット巡回は常に作動します。

[ルートの反転] HM4x
[反転する] を選択すると、[巡回ルート編集] のプリセット巡回順が逆になります。

3 [巡回ルート編集] の [追加] をクリックする

4 [プリセット一覧] で、巡回させるプリセットをチェックする

プリセットは複数指定できます。

メ モ HM4x

- プリセットの位置が可視範囲外にある場合は、左に (警告アイコン)が表示されます。

5 [追加] をクリックする

[巡回ルート編集] にプリセットが追加されます。
[巡回ルート編集] で、プリセットを選択し、[▲] または [▼] をクリックすると、リストの順番が移動します。
[巡回ルート編集] で、プリセットを選択し、[削除] をクリックすると、プリセットが削除されます。
[プリセット一覧] または [巡回ルート編集] リスト上のプリセット名を選択し、[プレビュー] をクリックすると、プリセットの設定が、映像表示部で確認できます。

メ モ

- すでに [巡回ルート編集] にプリセットが追加されている場合、[プリセット一覧] リストからプリセットを追加すると、[巡回ルート編集] で選択しているプリセットの下に追加されます。

6 プリセットの移動速度と停止時間を設定する

[巡回ルート編集] で、設定するプリセットを選択し、巡回動作を設定します。

[移動速度(PT)] HM4x
次のプリセットへ移動する間の、カメラのパン・チルト速度を選択します。

[移動速度(Z)] HM4x
次のプリセットへ移動する間の、カメラのズーム速度を選択します。

[静止時間(秒)]
プリセット位置にカメラが停止している時間を入力します。

メ モ HM4x

- 移動速度は、プリセット間を移動中の映像を流し見する場合は遅めの数値を、プリセット位置の映像のみを素早く切り換えて見る場合は速めの数値を選択してください。

7 [適用] をクリックする

ルートの設定が完了したら、[適用] をクリックしてください。カメラに設定値が保存されます。

メ モ

- 設定したルートをやり直す場合は、[クリア] をクリックします。カメラに保存されている設定内容に戻ります。ただし、[巡回ルート編集] に [追加] しただけのプリセットは、すべて破棄されますのでご注意ください。

[映像] > [ピクチャー (オプション)]

カメラ制御の詳細やオート設定時のデイナイトについて設定します。

カメラ制御

映像を見やすくするための各種制御を設定します。

[デジタルズーム] HM4x S32VE S32D
デジタルズームを使用するかを選択します。
[使用する] を選択した場合、ズームスライダーに、デジタルズームを示す領域が表示されます (P. 37)。
デジタルズームは、光学ズームと異なり、ズーム倍率が高くなるに従って画質が低下します。

[拡張デジタルズーム] HM4x
拡張デジタルズームを使用するかを選択します。
映像サイズが小さいときに、最大サイズの解像度まで、映像の劣化を抑えたデジタルズームができます。
[使用する] を選択した場合、ビューワーのズームスライダーに、拡張デジタルズームを示す領域と、拡張デジタルズームテレ端を示す横線 (青) が表示されます (P. 37)。

[最大デジタルズーム倍率] HM4x
デジタルズームの最大倍率を設定します。

[ブレ補正] HM4x
カメラの振動による映像のブレを軽減させる機能の使用の有無を選択します。
[On1] を選択してブレが残る場合は、[On2] を試してください。
ブレ補正を使用すると、使用しない場合と比べて画角が狭くなり、映像も粗くなりますが異常ではありません。

重 要

- ブレ補正は、被写体ブレには効果がありません。
- ブレ補正は、一定の範囲を超えた振動や、瞬間的な振動には対応できません。
- [On2] を選択した場合は、[640x480] 以下の映像受信サイズの選択をお勧めします。
- ブレ補正を使用する場合は、次の各「重要」を参照してください。
- ブレ補正は、被写体ブレには効果がありません。
  - プライバシーマスクの「重要」(P. 85)
  - 可視範囲の「重要」(P. 88)
  - ビューワー使用時の「重要」(P. 31)
  - プリセットの「重要」(P. 71)

[スマートシェード補正強度 (オート)]
[スマートシェード補正] (P. 67) を [オート] に設定した場合の、補正の強さを選択します。
- [弱] : ノイズが目立つ場合に選択
- [中] : オートモードで使用する場合の推奨設定 (初期設定)
- [強] : 暗部の視認性を上げたい場合に選択

[かすみ補正強度 (オート)]
[かすみ補正] (P. 67) を [オート] に設定した場合の、補正の強さを選択します。

メ モ

- [かすみ補正] を [オート] に設定し、[かすみ補正強度 (オート)] を [強] に設定すると、被写体にかすみがかかっていない状態では、明暗の差が強く出る場合があります。このような場合は、[かすみ補正強度 (オート)] を [弱] に設定してください。

[動き適応ノイズリダクション]

[使用する] を選択した場合、動きに応じて、ノイズリダクションを自動的に調整します。動きが少ないシーンではノイズリダクションを強めデータサイズが小さくなります。

重 要

- 次の条件によっては、意図した効果が得られない場合があります。
  - 被写体の大きさ
  - 被写体の動く速度
  - ノイズの多いシーン
  - 明暗差のない被写体 (白い壁など)

[パン・チルト速度制御] HM4x S32VE S32D

パン・チルトの動作を制御するモードを選択します。

[ズーム位置に応じて制御] に設定した場合、パン・チルト速度は、テレ側では遅く、ワイド側では速くなります。

[AFレスポンス] HM4x S32VE S32D

オートフォーカスの応答性を選択します。

設定値は、フォーカス動作の開始までの時間が短い方から順にハイ、ノーマル、ローです。

デイナイト

[デイナイトフォーカス制御] HM4x

デイナイト切り換え時のフォーカス制御方法を選択します。[フォーカス] (P. 68) が [マニュアル] のときに実行されます。

メ モ

- [イベント] > [デイナイト切り換え] にプリセットが設定されている場合、そのプリセットに登録されている [フォーカス] が [マニュアル] のときに実行されます。

  [蛍光灯光源に応じた補正]

  デイナイト切り換え時、蛍光灯の照明環境でのデイモード、ナイトモードに応じたフォーカス位置に補正されます。

  [ワンショットAF]

  ワンショットAFが実行されます。

  重 要

  - [ワンショットAF] 使用時は、デイナイト切り換え時の被写体にフォーカスが合うため、人物が横切るなどした場合は目的の被写体にフォーカスが合わないことがあります。

[切り換える明るさ]

[デイナイト] (P. 67) が、[オート] に選択されているときのデイモード/ナイトモードを切り換える明るさを設定します。

できるだけカラーで撮影したい場合は [暗い] を選択してください。

ノイズ感を軽減したい場合は [明るい] を選択してください。ただし白黒に切り換えるタイミングが早くなります。

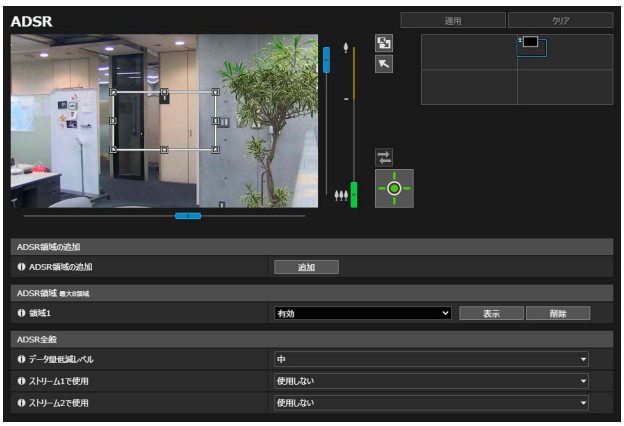
[応答性 (秒)]

[デイナイト] (P. 67) が、[オート] に選択されているときのデイモード/ナイトモードを切り換える判断をするために要する秒数を選択します。選択した秒数の間、継続して [切り換える明るさ] で設定した明るさを超えるか、または下回ると、デイモード/ナイトモードを切り換えます。

カメラの前を光源が通過するなど、明るさの変化が頻繁な場合は、[30] や [60] を選択してください。明るさの変化が少ない場合は、[5]、[10] を選択してください。

[映像] > [ADSR]

H.264/H.265映像を送信する場合、天井や空など被写体がない部分の映像品質を下げて送信データ量を低減できます。
ADSRとはArea-specific Data Size Reduction の略です。



重 要

- 映像のシーンやADSR領域の設定によっては、低減効果が得られない場合があります。事前に低減効果を確認してからご使用ください。

メ モ

- ADSR領域の画質は、[映像] > [映像] でH.264/H.265映像に指定する [ビットレート制御] の設定によって異なります。
- ADSR領域外の画質は、[データ量低減レベル] に応じて低下します。

HM4x S32VE S32D

- ADSR領域は、カメラのパン・チルト・ズーム動作を行っても、カメラの動きに追従して移動します。
- ADSR領域は、可視範囲設定内のみ設定可能です。

ADSR、ADSR領域

映像品質を落とさない領域を設定します。領域は8箇所まで設定できます。

重 要

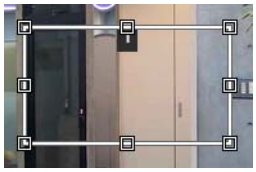
- 次の項目を変更した場合は、ADSR領域を設定し直してください。
  - [システム] > [システム] > [設置条件] > [映像反転] (P. 146)
  - [映像] > [映像] の各映像ストリーム設定 (P. 59)

HM4x S32VE S32D

- ADSR領域は大きめに設定してください。
- ズーム位置によっては、ADSR領域が若干ずれることがあります。
- ADSR領域は光学ズーム領域でのみ設定できます。デジタルズーム領域 (P. 37) では設定できません。

1 [追加] をクリックする

映像表示部にADSR領域の枠線が表示されます。



2 ADSR領域を設定する

映像表示部で次のように操作して、ADSR領域を設定します。

- 枠線の□をドラッグして、サイズを変更
- カメラアングルを変更する場合は、スライダーでパン・チルト・ズームを操作 HM4x S32VE S32D

3 [適用] をクリックする

設定した内容がカメラに保存されます。
[表示] をクリックするとADSR領域の位置にカメラが移動します。

領域を変更したい場合は、その領域の [表示] をクリックし、領域を変更した後、[適用] をクリックします。
[削除] をクリックすると、設定したADSR領域が削除されます。

メ モ

- ADSR の設定が反映された映像は、カメラビューワーで確認できます。ADSR 領域外は、データ量軽減効果により映像が粗くなります。
- 領域枠を操作する前にカメラアングルを変更すると、領域枠が非表示になる場合があります。領域枠を再表示させるには、対象のADSR領域の [表示] をクリックするか、領域枠が完全に表示される位置へカメラアングルをスライダーで移動してください。HM4x S32VE S32D

ADSR全般

ADSR領域外のデータ量低減について設定します。

[データ量低減レベル]
ADSR領域外のデータ量軽減レベルを設定します。[弱] を選択すると、データ量低減効果が低くなります。[強] を選択すると、データ量低減効果が高くなります。

[ストリーム1で使用]
ストリーム1の映像でADSR領域外の映像品質を下げる場合は、[使用する] に設定します。

[ストリーム2で使用]
ストリーム2の映像でADSR領域外の映像品質を下げる場合は、[使用する] に設定します。

[映像] > [オンスクリーン表示]

映像上に、日付や時刻、カメラ名、任意の文字列を表示します。

重 要

- オンスクリーン表示される時刻は、高い信頼性が求められる用途には適していません。監視などで常に高い信頼性が要求される用途では、参考情報としてご活用ください。

メ モ

- 映像品質の設定によっては、オンスクリーン表示が判読しづらくなる場合があります。実際の映像をご確認のうえ、設定してください。
- 映像サイズやテキスト表示の文字数、表示位置によっては、すべての文字列が表示されないことがあります。映像サイズ、オンスクリーン表示の設定変更を行った場合は、表示内容を確認してください。

日付表示

[日付表示]
映像上に日付を表示するかを選択します。

[日付表示フォーマット]
年/月/日の並び順を選択します。

時刻表示

[時刻表示]
映像上に時刻を表示するかを選択します。

テキスト表示

[テキスト表示]
映像上に表示する文字列を選択します。

[指定文字列を表示する]
[テキスト文字列] に入力した文字列が表示されます。

[カメラ名を表示する]
[カメラ名] (P. 146) に入力したカメラ名が表示されます。

[テキスト文字列]
[テキスト表示] が [指定文字列を表示する] の場合、映像上に表示する文字列を半角英数字で入力します。

[テキスト表示位置]
文字列を表示する映像上の位置を選択します。

共通設定

[文字の大きさ]
文字の大きさを3種類 (小、中、大) の中から選択します。

[文字の色]
文字の色を8色の中から選択します。

[背景の色]
文字の背景の色を8色の中から選択します。

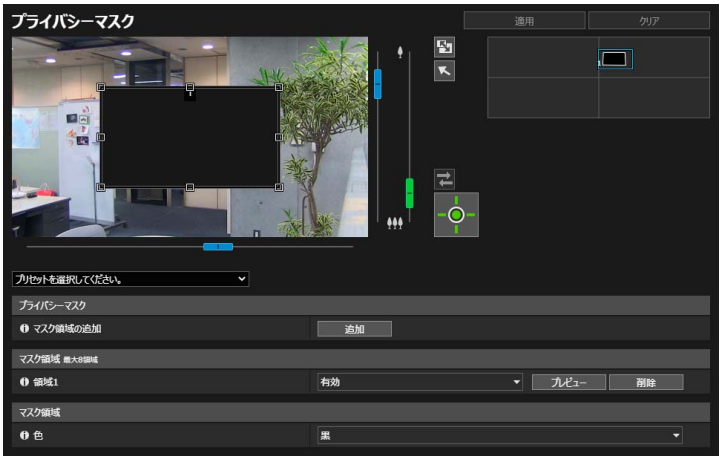
[文字と背景の濃さ]
文字と背景の濃さ (塗りつぶし、透明、半透明) の組み合わせを選択します。

[文字の輪郭]
文字に黒の輪郭をつけるかを選択します。

[日付・時刻表示位置]
日付および時刻を表示する映像上の位置を選択します。

[映像] > [プライバシーマスク]

カメラ映像の任意の領域にマスクをかけて、指定した色で塗りつぶしたりモザイクをかけることができます。カメラの映像を確認しながら、8箇所までマスクを設定できます。
カメラのパン・チルト・ズーム動作を行った場合でも、プライバシーマスク領域はカメラ画像に追従します。HM4x S32VE S32D



重 要

- プライバシーマスクは、カメラから配信されるすべての画像 (ライブ映像、アップロード画像、録画映像、メモリーカードに記録される画像) に適用されます。
- 次の場合は、プライバシーマスク機能は動作しません。
  - 電源投入直後のカメラ起動時
  - パノラマ画像作成中 HM4x S32VE S32D
- プライバシーマスク領域もインテリジェント機能の検知対象となります。[検知] > [インテリジェント機能] では、検知された物体の輪郭枠などがマスク上に表示され、被写体の動きが分かることがあります。

プライバシーマスクを登録する

マウス操作でプライバシーマスク領域の位置とサイズを設定し、設定をカメラに保存します。

1 映像表示部に、マスク領域を追加したい部分の映像を表示する HM4x S32VE S32D

スライダーやプリセット選択ボックスを使って、カメラアングルを操作します。

2 [マスク領域の追加] の [追加] をクリックする

映像表示部に領域番号が付いたプレビュー枠が表示され、プライバシーマスク登録エリアにも対応する番号のプライバシーマスク領域が表示されます。

3 映像表示部で、プレビュー枠の位置とサイズを設定する

映像表示部に表示されているプレビュー枠をドラッグして、隠したい部分に移動します。
プレビュー枠の四辺の□をドラッグして、サイズを変更します。

重 要 HM4x S32VE S32D

- プライバシーマスク領域は、隠したい領域より大きめに設定してください。

4 [マスク領域] を [有効] に設定する

プライバシーマスク領域の設定が有効になります。
[マスク領域] を [無効] に設定すると、プライバシーマスク領域を削除せずに、一時的に無効にできます。このとき、プライバシーマスク登録エリアのプライバシーマスク領域は斜線入りの枠表示になります。

5 必要に応じて [色] で、プライバシーマスク領域の色を変更する

ここで選択した色は、すべてのプレビュー枠とプライバシーマスク領域に反映されます。

6 別のプライバシーマスク領域を追加する場合は、1～5を繰り返す

最大8個のプライバシーマスクを保存できます。

7 [適用] をクリックする

プライバシーマスク領域がカメラに保存されます。
保存したプライバシーマスク領域は、映像表示部とプライバシーマスク登録エリアに表示されます。

重 要

- [システム] > [システム] > [設置条件] > [映像反転] の設定を変更した場合、プライバシーマスクの位置を設定し直す必要があります。
- [映像] > [ピクチャー (オプション)] > [カメラ制御] > [ブレ補正] を変更してから、プライバシーマスクを再設定する場合は、すべてのプライバシーマスクの位置と大きさを再設定してください。HM4x

HM4x S32VE S32D

- [パノラマ] でパノラマ画像を保存したあとでプライバシーマスクの設定を変更した場合は、[パノラマ] でパノラマ画像を作成し直してください (P. 91)。
- プライバシーマスクの登録後は、カメラのパン・チルト・ズームを実際に動かして、カメラアングルが変わっても隠したい領域が見えないことを確認してください。
- ズーム位置によっては、プライバシーマスクが指定位置から若干ずれることがあります。

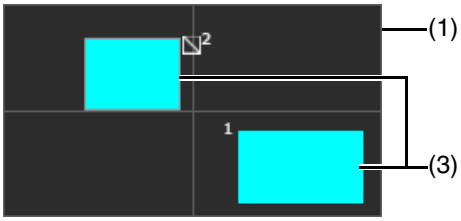
プライバシーマスクを変更/削除する

■ プライバシーマスク登録エリアについて

カメラが撮影可能な全領域中のプライバシーマスク領域の位置が表示されます。

HM4x S32VE S32D

S820D/S920F



(1) **カメラが撮影可能な全領域**
物理的に撮影可能な領域を表します。
カメラにパノラマ画像が登録されている場合、ここに表示されます。HM4x S32VE S32D

(2) **可視範囲制限領域** HM4x S32VE S32D
可視範囲 (P. 87) を設定した場合に、可視範囲制限エリアがグレーで表示されます。

(3) **プライバシーマスク領域**
[マスク領域] が [有効] (P. 85) に設定されているプライバシーマスク領域は、枠内が塗りつぶされて表示されます。
[マスク領域] が [無効] (P. 85) に設定されているプライバシーマスク領域は領域番号の横に⧅が表示されます。

(4) **プレビュー枠** HM4x S32VE S32D
映像表示部に表示されている現在のカメラ位置です。

■ 位置・サイズを変更する

プライバシーマスクの選択方法

プライバシーマスク領域の選択には、次の方法があります。

- プライバシーマスク登録エリアで、選択したいプライバシーマスク領域をクリックする
- 表示したいマスク領域の [プレビュー] をクリックする
- 映像表示部に表示されているプライバシーマスク領域をクリックする

1 変更したいプライバシーマスク領域を選択する

2 プライバシーマスク領域の位置・サイズを変更する

プレビュー枠をドラッグして移動したり、プレビュー枠の四辺の□をドラッグしてサイズを変更します。

メ モ

- 変更内容を破棄してカメラに保存されている設定内容に戻す場合は、[クリア] をクリックします。ただし、まだ [適用] をクリックせずカメラに保存できていないマスク領域の設定は、すべて破棄されますのでご注意ください。

3 [適用] をクリックする

変更したプライバシーマスク領域がカメラに保存されます。

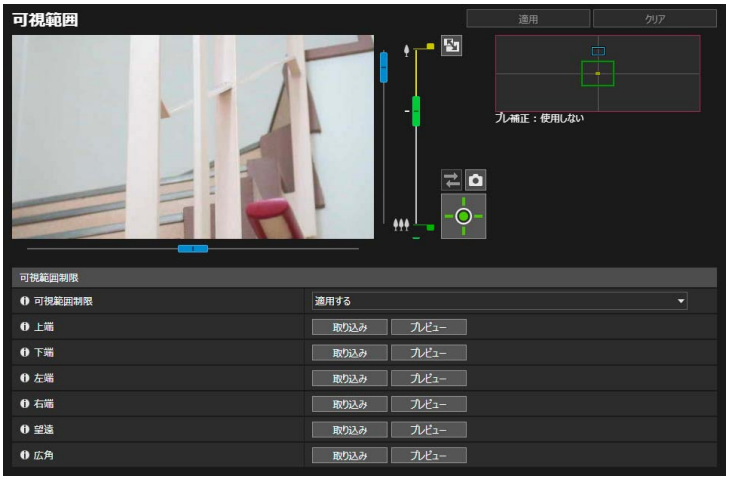
■ カメラから削除する

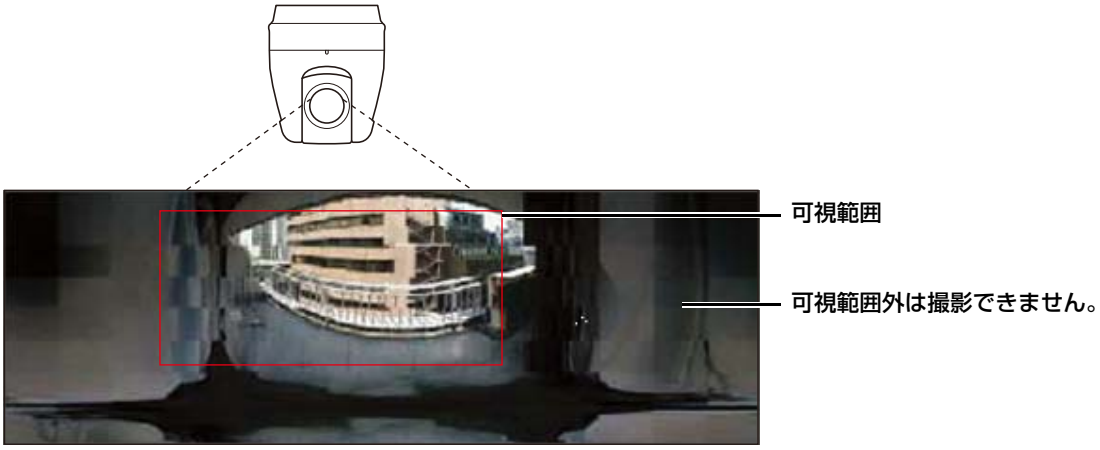
削除したいプライバシーマスクの [マスク領域] の [削除] をクリックした後、[適用] をクリックします。
選択したプライバシーマスク領域が、カメラから削除されます。

[映像] > [可視範囲]

HM4x S32VE S32D

カメラで撮影できる範囲を設定します。
ズームや一部の視野に制限をかけたいようなケースに使用できます。





可視範囲設定の適用範囲

可視範囲による制限は次の場合に適用されます。

- 登録ユーザーまたは一般ユーザー権限でカメラビューワーにアクセスした場合
- プリセットの設定、およびプリセットへの移動を行う機能

重 要

- アスペクト比16:9の枠で可視範囲を設定するため、アスペクト比4:3の映像を使用する場合、可視範囲の左右の端まで移動することはできません。
- 可視範囲を設定していても、可視範囲の境界付近にカメラを制御した場合、一瞬可視範囲外が映り込むことがあります。

可視範囲を設定する

可視範囲を設定後、[適用] をクリックすることで、カメラビューワーの撮影範囲が制限されるようになります。

重 要

- カメラの設置方法の設定を変更した場合は、可視範囲設定を見直してください。
- [映像] > [映像] の各映像ストリームを変更した場合は、可視範囲を見直してください。
- [映像] > [ピクチャー (オプション)] > [カメラ制御] > [デジタルズーム] および [ブレ補正] (HM4x) を変更した場合は、可視範囲設定を再度確認してください。

1 [可視範囲制限] で [適用する] を選択する

メ モ

- 可視範囲設定を解除する場合は、[適用しない] を選択して、[適用] をクリックします。

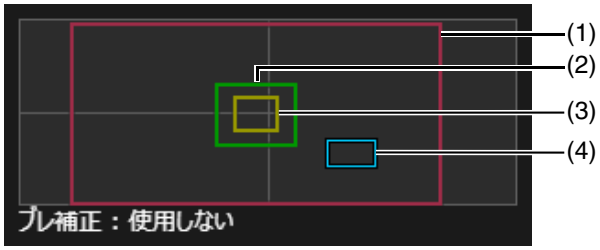
2 可視範囲を設定する

映像表示部やパノラマ画面上の枠を使ってカメラアングルを操作し、その位置を取り込んで、可視範囲を指定します。

[上端]/[下端]/[左端]/[右端]
映像表示部を使って、設定したい上端・下端・左端・右端のそれぞれの位置にカメラアングルを操作します。
各位置で [取り込み] をクリックすると、パン・チルトプレビュー枠に反映されます。
[上端]/[下端]/[左端]/[右端] の各 [プレビュー] をクリックすると、現在のパン・チルトプレビュー枠の上端・下端・左端・右端の各位置にプレビュー枠が移動し、映像表示部に表示されます。

[望遠]/[広角]
映像表示部やパノラマ画面上の枠を使って、設定したい望遠・広角のそれぞれの位置にカメラアングルを操作します。
各位置で [取り込み] をクリックすると、望遠プレビュー枠/広角プレビュー枠に反映されます。
[望遠]/[広角] の各 [プレビュー] をクリックすると、現在の望遠プレビュー枠/広角プレビュー枠の望遠・広角端の範囲にプレビュー枠が変形し、映像表示部に表示されます。
ズームスライダーにある可視範囲操作ノブを直接上下に移動させることでも、望遠・広角端の範囲を設定できます。この場合も、現在の望遠プレビュー枠/広角プレビュー枠の望遠・広角端の範囲に各プレビュー枠が変形し、映像表示部に表示されます。
望遠ノブを上端、広角ノブを下端までドラッグした場合は、それぞれの端の可視範囲制限は無効 (制限なし) となります。

パノラマ画面に表示される枠をドラッグして変形させ、可視範囲を設定します。



(1) **パン・チルトプレビュー枠 (赤色枠)**
カメラが上・下・左・右に動ける範囲を表します。パン・チルトプレビュー枠をドラッグして、可視範囲を直接変更できます。
パン・チルトプレビュー枠をパノラマ領域の外側までドラッグした場合は、それぞれの端の可視範囲制限は無効 (制限なし) になります。

(2) **広角プレビュー枠 (緑色枠)**
広角プレビュー枠をドラッグして、広角の制限範囲を直接変更できますが、縦横比は変えられません。
広角プレビュー枠は、パン・チルトプレビュー枠内で設定できます。

(3) **望遠プレビュー枠 (黄色枠)**
望遠プレビュー枠をドラッグして、望遠の制限範囲を直接変更できますが、縦横比は変えられません。
望遠プレビュー枠は、広角プレビュー枠内で設定できます。

(4) **プレビュー枠 (青色枠)**
映像表示部に表示されている現在位置を示しています。

メ モ

- 変形させたパン・チルトプレビュー枠 (赤色枠) の外にプレビュー枠 (青色枠) が位置された場合、カメラ位置は可視範囲内に移動します。
- パン・チルトプレビュー枠を変更すると、変更した端にプレビュー枠が移動します。また、広角・望遠プレビュー枠の範囲を変更すると、プレビュー枠の広角・望遠端も変更されます。

3 [適用] をクリックする

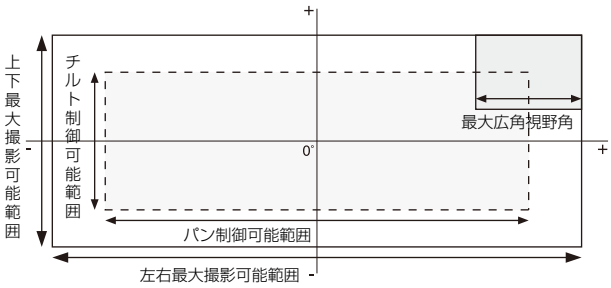
設定値がカメラに保存されます。

重 要

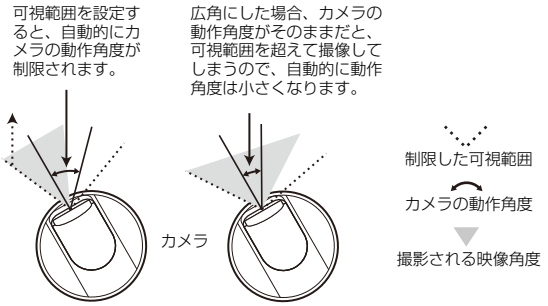
- パノラマ画面は実際の映像と若干異なる場合があります。可視範囲設定を行ったのち、必ずカメラビューワーで可視範囲設定が正しく反映されているかを確認してください。可視範囲設定の映像表示部には可視範囲制限が適用されません。

メ モ

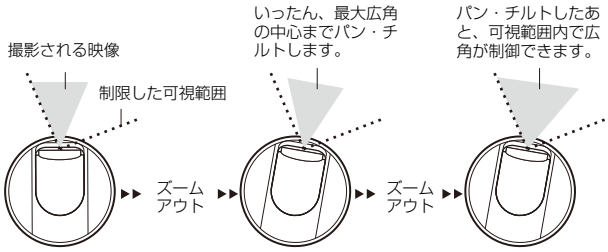
- 制御可能範囲と撮影可能範囲は次のようになっています。



- パンおよびチルトの範囲はズーム倍率 (視野角) によって変わります。



- ズームを広角側に制御することで可視範囲を超えてしまう場合は、カメラはいったん、ワイド端が可視範囲内に収まる位置までパン・チルトします。その後、可視範囲内で広角側の制御が可能となります。

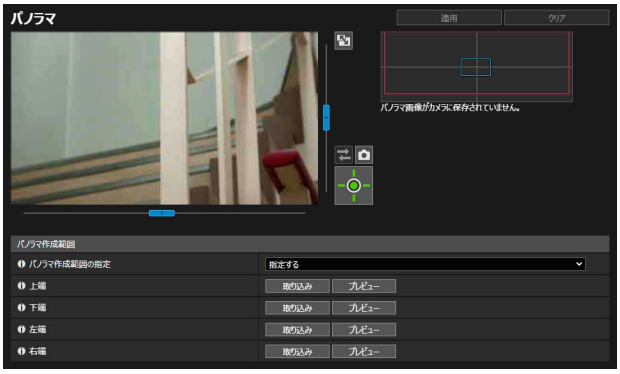


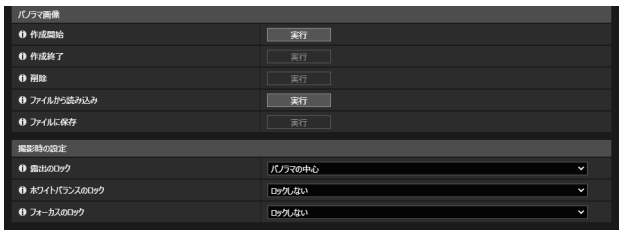
- 可視範囲を狭くするとそれに伴ってズームの範囲も狭くなることがあります。

[映像] > [パノラマ]

HM4x S32VE S32D

カメラが撮影可能な全領域を撮影する、パノラマ画像を作成できます。
作成したパノラマ画像は、ビューワーや設定ページの一部で表示されます。





重 要

- [プライバシーマスク]でプライバシーマスクの設定を変更した場合、パノラマ画像に新しいプライバシーマスク設定を反映させるため、パノラマ画像の再作成をお勧めします。
- カメラの設置方法の設定を変更した場合は、パノラマ画像を撮影し直してください。

パノラマ画像を作成する

パノラマ画像を撮影後、[適用] をクリックしてカメラに保存することで、ビューワーやプライバシーマスクなどに使用できるようになります。

メ モ

- パノラマ画像の撮影中は、一時的にブレ補正機能が解除されます。HM4x
- パノラマ画像の作成中は、次のユーザーの接続は切断されます。
  - 管理者以外のユーザー
  - RTPで接続していないユーザー
- [映像] > [映像] > [ストリーム3] または [ストリーム4] (P. 60) の値を小さく設定すると、パノラマ撮影が遅くなります。

1 [パノラマ作成範囲] を設定する

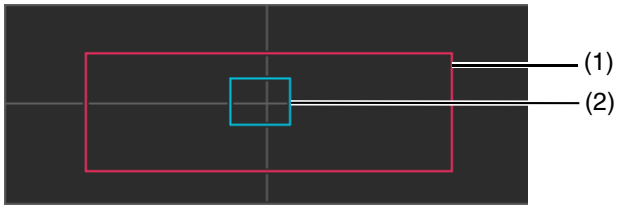
パノラマ作成する範囲を設定します。パノラマ作成時間が短縮できます。

[パノラマ作成範囲の指定]
[指定する] を選択すると、撮影可能な領域内で範囲指定したパノラマ画像を作成します。[指定しない] を選択すると、撮影可能な全領域でパノラマ画像を作成します。
[指定しない] を選択した場合は、手順3に進みます。

2 映像表示部を使って、作成範囲を設定する

映像表示部を使ってカメラアングルを操作し、その位置を取り込んで、パノラマ作成範囲を指定します。

[上端]/[下端]/[左端]/[右端]
映像表示部を使って、設定したい上端・下端・左端・右端のそれぞれの位置にカメラアングルを操作します。
各位置で [取り込み] をクリックすると、パノラマ作成範囲枠に反映されます。
[上端]/[下端]/[左端]/[右端] の各 [プレビュー] をクリックすると、現在のパノラマ作成範囲枠の上端・下端・左端・右端の各位置にプレビュー枠が移動し、映像表示部に表示されます。
パノラマ画面には、2種類の枠が表示されます。



(1) **パノラマ作成範囲枠 (赤色枠)**
パノラマ画像の撮影範囲を示しています。パノラマ作成範囲枠をドラッグして、パノラマ画像の撮影範囲を設定することもできます。

メ モ

- 変形させたパノラマ作成範囲枠の外にプレビュー枠が位置された場合、カメラ位置はパノラマ作成範囲枠内に移動します。

(2) **プレビュー枠 (青色枠)**
映像表示部に表示されている現在位置を示しています。

3 必要に応じて、[撮影時の設定] を設定する

[露出のロック]
選択した設定の位置で自動調節した露出値に固定して撮影します。

[ホワイトバランスのロック]
選択した設定の位置で自動調節したホワイトバランス値に固定して撮影します。

[フォーカスのロック]
画面全体を、選択した設定の位置で自動調節したフォーカスに固定して撮影します。

4 [作成開始] の [実行] をクリックする

撮影が開始され、パノラマ画像が作成されます。
途中で撮影を中止したい場合は、[キャンセル] をクリックします。
パノラマ画像の撮影が完了すると、画像上に格子枠が表示されます。撮り直したい部分にマウスポインターを合わせ右クリックし、[再撮影] を選択すると、その部分のみ再撮影されます。

パノラマ画像全体を撮り直すときは、再度 [作成開始] の [実行] をクリックしてください。

5 [作成終了] の [実行] をクリックする

この時点ではまだ、作成した画像はカメラに保存されていません。

6 [適用] をクリックする

パノラマ画像がカメラに保存され、他の設定に反映されます。

■ パノラマ画像をカメラから削除する

カメラに保存されているパノラマ画像を削除します。

1 **[削除] の [実行] をクリックする**

表示されているパノラマ画像がクリアされます。

2 **[適用] をクリックする**

確認のメッセージが表示されます。

3 **[OK] をクリックする**

カメラに保存されたパノラマ画像が削除されます。

パノラマ画像を画像ファイルとして保存する/画像ファイルを開く

撮影したパノラマ画像を画像ファイルとして保存したり、画像ファイルをパノラマ画像として開いたりできます。
扱える画像ファイルはJPEG形式のみです。

画像ファイルとして保存する

1 **パノラマ画像作成終了後に、[ファイルに保存] の [実行] をクリックする**

2 **表示されたダイアログで、保存するフォルダを選択し、ファイル名を入力する**

3 **[保存] をクリックする**

指定した場所に、画像ファイルが保存されます。

画像ファイルを開く

1 **[ファイルから読み込み] の [実行] をクリックする**

2 **表示されたダイアログで、使用する画像ファイルを選択し、[開く]をクリックする**

パノラマ画像が表示されます。

[音声] > [音声]

マイクからの入力音声や、ビューワーからの出力音声について設定します。また、イベント発生時に出力する再生音のファイルを登録します。

重 要

- 最大30 クライアントに対して、映像と音声を配信できます。ただし、配信するクライアントが多い場合やSSL/TLS通信でカメラに接続している場合、カメラからの音声を受信すると、映像フレームレートが低下したり、音声が途切れたりする場合があります。
- 映像と音声は、同期しないことがあります。
- 音量検知 (P. 106) を設定した後に、[入力音量] または [低域カット] S32VE の設定を変更した場合は、検知設定を見直してください。
- 使用するPCの性能やネットワーク環境によっては、音声が途切れることがあります。
- ウイルス対策ソフトウェアをご使用の場合、音声が途切れることがあります。
- LANケーブルの抜き差しなどで、通信が一時的に途切れると、音声が切断されます。その場合は、ビューワーから再接続してください。
- 使用するマイクの特性で、音量・音質などが変化する場合があります。HM4x S32D S820D/S920F
- カメラに接続するスピーカーは、アンプ付きのものを使用してください (『設置ガイド』参照)。

音声全般

入出力音声の音量、マイクの種類、内蔵マイクによる音声入力の動作を設定します。

[音声入力の使用]

マイクからの音声使用の有無を選択します。[使用する] を選択すると [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] (P. 95)、[検知] > [音声検知] > [音量検知] > [音量検知イベント] (P. 106) など音声入力にかかわる機能が使用できます。
[使用しない] を選択し [適用] をクリックすると、次の設定項目が固定となり、音声入力機能が無効になります。

– [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] > [送信しない]
– [サーバー] > [RTPサーバー] > [RTPストリーム1] ～ [RTPストリーム5] > [音声送信] > [使用しない]
– [検知] > [音声検知] > [音量検知] > [音量検知イベント] > [使用しない]

[入力音量]

マイクから入力する音量を設定します。
[音声入力の使用] が [使用する] の場合に適用されます。

[現在の音量レベル]

[音声入力の使用] が [使用する] の場合に、現在の音量レベルがステータスバーで表示されます。

[低域カット] S32VE

[音声入力の使用] が [使用する] の場合に、入力音声の低域をカットする機能の有無を選択します。[有効] を選択すると、マイクに風が当たるときに発生する風切り音などを軽減し、会話が聞き取りやすくなります。
[無効] を選択すると、交通音や雑踏音などの環境音が、より忠実に音声入力されます。

[出力音量] HM4x S32VE
カメラに接続したスピーカーにビューワーから出力する音量を入力します。
[音声サーバー] > [ビューワーからの音声受信] (P. 96) が [受信する] の場合に適用されます。

[音声通信方式] HM4x S32VE
音声送受信方法を選択します。

[半二重]
マイクとスピーカーが近くにある場合に発生するハウリングを防ぐことができます。ただし、カメラがビューワーからの音声を受信しているときや、音声ファイル再生中は、カメラからビューワーへの音声送信が無音になります。

[全二重]
カメラがビューワーからの音声を受信しているときでも、カメラからビューワーへ音声送信ができます。

[音声入力モード] HM4x S32D S820D/S920F
カメラに接続しているマイクの種類を選択します。

重 要
- マイクを使用する場合、マイクの仕様に合わせて、[音声入力モード] で [ライン・イン] と [マイク・イン] を切り換えてください。間違えて使用した場合、カメラやマイクの故障の原因になりますので、正しく設定してください。

AAC-LC

音声圧縮について設定します。

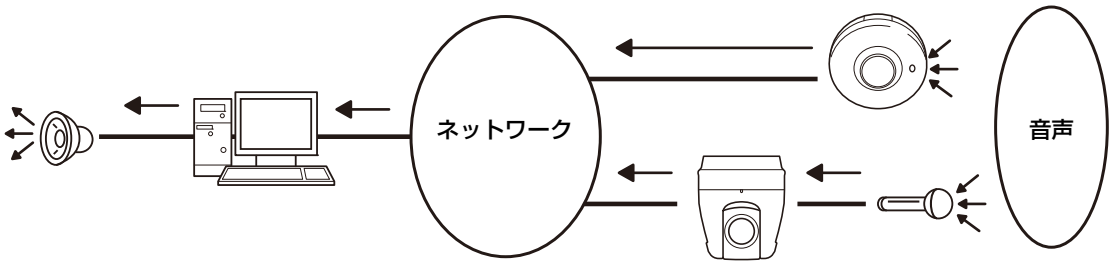
[サンプリング周波数 (kHz)]、[ビットレート (kbps)]
サンプリング周波数に応じて、選択できるビットレートの値が決まります。

サンプリング周波数	ビットレート
16 kHz	16 kbps、32 kbps、64 kbps、96 kbps
48 kHz	32 kbps、64 kbps、96 kbps、128 kbps

音声サーバー

マイクからの音声送信と、ビューワーからカメラへの音声受信について設定します。

[カメラからの音声送信]
マイクからの音声を、ビューワーに送信する場合に、[送信する] を選択します。
[音声全般] > [音声入力の使用] が [使用しない] に設定されている場合、[送信する] には設定できません。



[無音検出]
マイクからの音声について無音を検出するか選択します。
[検出する] に設定すると、カメラからの音声入力がなくなった場合に、音声データの送信を一時的に停止します。これにより、使用するネットワークの負荷を減らすことができます。

[ビューワーからの音声受信] HM4x S32VE

カメラビューワーからの音声を受信するか選択します。
受信した音声は、カメラにアンプ付きスピーカーを接続して出力できます。

[パン・チルト中のミュート] S32VE

[音声入力の使用] が [使用する] の場合に設定します。[ミュートする] を選択すると、パン・チルト動作中の入力音声を消音します。

再生音ファイル登録1～3

HM4x S32VE

イベント発生時に再生する音声ファイルを、3つまで登録できます。

メ モ

- 再生音は、[イベント] > [外部デバイス] > [外部デバイス入力] (P. 122)、または [検知] > [インテリジェント機能] の [イベント] タブ (P. 120) で音声再生を設定する際に使用されます。

[参照ファイル]

登録する音声ファイルを指定し、[追加] をクリックします。
登録できる音声ファイルには、次の条件があります。

- 再生時間：20秒以内
- ファイル形式：「.wav」(μ-law PCM 8bit。サンプリング周波数8000Hz、モノラル)

空欄のまま [適用] をクリックした場合、カメラに登録した再生音は削除されます。
[追加] した音声ファイルを削除するには、削除したい再生音名の横にある [削除] をクリックします。

[再生音名]

登録する音声ファイルに名前を入力します。
再生音名は、必ず設定してください。

[映像記録] > [アップロード]

イベントの発生時に、FTPまたはHTTPで映像をアップロードするための設定を行います。

重 要

- アップロード機能を使用するには、各イベントに応じて次の設定が必要になります。
  - [イベント] > [外部デバイス] (P. 123)、[タイマー] (P. 126)、[連結イベント] (P. 129) での [映像記録] の各設定
  - [検知] > [音声検知] での [映像記録] の設定 (P. 107)
  - インテリジェント機能の [イベント] タブの設定 (P. 120)
- アップロード実行中は、設定ページの各設定を変更しないでください。動作が停止する場合があります。
- FTPまたはHTTPでのアップロードと、テキストと映像によるメール通報を両方使用する場合は、[映像種別] で選択する映像ストリームを小さいサイズに設定してください。
- アップロードやメール通報を連続して行うよう設定した場合、映像の大きさ、サーバーまでのネットワークの状況により、映像やメールが送りきれなくなる可能性があります。

映像記録設定

イベント発生時に、カメラからの映像を、FTPまたはHTTPでアップロードするか、メモリーカードに記録するかを設定します。
この項目は、[映像記録] > [メモリーカード記録] (P. 101) でも設定でき、こちらの [映像記録設定] にもその設定が反映されます。[映像記録] > [メモリーカード記録] の [映像種別] と異なる映像種別は設定できません。

[映像記録動作]
映像をアップロードする場合、[アップロード] を選択します。

[映像種別]
アップロード時に使用する映像を、[映像] > [映像] で設定した映像ストリームから選択します。

重 要

- H.264/H.265映像を設定するには、[映像] > [映像] (P. 59) で次のように設定する必要があります。
  - [フレームレート (fps)] : [60]、[50] 以外 HM4x S820D/S920F
  - [ビットレート制御] : [MBR] または [CBR] のみ
  - [最大ビットレート (kbps)]、[目標ビットレート (kbps)] : [8192] 以下
  - [Iフレーム間隔 (秒)] : [0.5]、[1]、[1.5] のいずれかのみ

アップロード全般

アップロードの方式と、アップロードする映像のフォーマットについて設定します。

[アップロードの動作]
FTPでアップロードするか、HTTPでアップロードするかを選択します。

[フレームレート]
[映像種別] でJPEGフォーマットの映像ストリームを選択している場合、アップロードする映像の最大フレームレートを入力します。

[イベント前バッファ (枚数)]、[イベント後バッファ (枚数)]、[イベント前バッファ (秒)]、[イベント後バッファ (秒)]
イベント発生の前後に、バッファに保存される映像の枚数または秒数を入力します。
[映像種別] でJPEGフォーマットの映像ストリームを選択している場合、[イベント前バッファ (枚数)] および [イベント後バッファ (枚数)] に、枚数の最大値を入力します。
[映像種別] でH.264またはH.265のフォーマットの映像ストリームを選択している場合、[イベント前バッファ (秒)] および [イベント後バッファ (秒)] に、秒数の最大値を入力します。

重 要

- 映像バッファの最大容量は、約56MB HM4x / 約5MB S32VE S32D S820D/S920F です。映像サイズを大きく設定していると、フレームレート、イベント前バッファ、イベント後バッファが、設定通りに実行できない場合があります。
  設定通りバッファが実行できない場合、ログ (P. 160) にメッセージが表示されます。ログにメッセージが表示されていないことを確認して、使用してください。

メ モ

- アップロードの設定により、サーバーまたはネットワークの負荷が高くなると、映像のフレームレートが低下する場合があります。このような場合は、次の設定を見直して、アップロードされるデータのサイズを小さくしたり、頻度を下げたりしてください。
  - 小さいサイズの映像ストリームを選択する (P. 59)。
  - [イベント前バッファ]、[イベント後バッファ] の枚数または秒数を少なくする。
  - [音量検知イベント] 有効時、[ONイベント時の動作]、[OFFイベント時の動作]、[ONイベント中の動作] のいずれかを無効にする (P. 106)。
  - インテリジェント機能の [イベント] タブで、[ONイベント時の動作]、[OFFイベント時の動作]、[検知あり状態時の動作] のいずれかを無効にする (P. 120)。
  - [外部デバイス入力イベント] 有効時、[アクティブイベント時の動作]、[インアクティブイベント時の動作]、[アクティブイベント中の動作] のいずれかを無効にする (P. 123)。
  - [タイマーイベント] 有効時、[繰り返し間隔] を長くする (P. 125)。

FTPアップロード

[アップロードの動作] を [FTPでアップロード] に設定した場合、FTPのアップロード機能を設定します。

[通報内容]
[映像] に設定されます。

[SSL通信]
SSL通信を有効にするかを設定します。

[サーバー証明書の検証]
[SSL通信] が [有効] の場合は、サーバー証明書の検証をするかを設定します。

メ モ

- サーバー証明書の検証を行うためには、[セキュリティ] > [証明書管理] > [CA証明書の管理] で検証に必要なCA証明書をインポートしておく必要があります。

[FTPサーバー]
FTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[ユーザー名]、[パスワード]
認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

[PASVモード]
FTPサーバーに接続する際に、PASVモードを使用するかを選択します。

[ファイルアップロードパス]
映像ファイルのアップロード先のパス名 (ディレクトリ名) を入力します。

[ファイル名記録方式]
アップロードファイルの命名規則を選択します。

[年月日時分秒ms]
“{年}{月}{日}{時}{分}{秒}{ミリ秒}.jpg”というファイル名で映像をアップロードします。
(例 : 20220601112122000.jpg)

[年月日ディレクトリ/時分秒ms]
“{年}{月}{日}”という名前のサブディレクトリを作成した上で“{時}{分}{秒}{ミリ秒}.jpg”というファイル名で映像をアップロードします。
(例 : 20220601/112122000.jpg)

[ループ]
0000から [最大ループ数] の設定値を上限として、順番に付けた番号をファイル名としてアップロードします (例 : 0000.jpg、0001.jpg)。最大ループ数まで達したら、0000に戻ります。
すでに存在するファイル名でアップロードを行った場合の動作は、使用するFTPサーバーによって次のように異なるため、設定前にFTPサーバーの仕様を確認する必要があります。

- 同じファイル名は上書きされる
- 自動的に別のファイル名が付加される
- エラーとなる

[最大ループ数]
[ファイル名記録方式] を [ループ] にした場合、最大ループ値を入力します。

[ユーザー設定]
[作成サブディレクトリ名] と [作成ファイル名] で指定されたファイル名で映像をアップロードします。

[作成サブディレクトリ名]、[作成ファイル名]
[ファイル名記録方式] を [ユーザー設定] にした場合、作成するサブディレクトリ名および作成ファイル名を入力します。
入力には、「%」文字によるパラメーター記述が可能です (P. 163)。

[アップロードテスト]
[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してアップロードテストを行います。
JPEG 1 枚のみアップロードされますが、このとき、設定値を適用する必要はありません。パスワードを入力後、[適用] をクリックする前に [実行] をクリックしてください。

HTTPアップロード

[アップロードの動作] を [HTTPでアップロード] に設定した場合、HTTPのアップロード機能を設定します。
HTTPアップロードは、ネットワークカメラのイベントに応じてHTTPによる通知、あるいはHTTPによる画像を送信する機能です。
HTTPアップロード機能や設定の詳細については、裏表紙に記載のお問い合わせ先までご連絡ください。

[通報内容]
HTTPアップロードを行う場合に、イベント情報のみを通知するか、通知とともに映像ファイルを添付するかを選択します。

[SSL通信]
SSL通信を有効にするかを設定します。

[サーバー証明書の検証]
[SSL通信] が [有効] の場合は、サーバー証明書の検証をするかを設定します。

メ モ

- サーバー証明書の検証を行うためには、[セキュリティ] > [証明書管理] > [CA証明書の管理] で検証に必要なCA証明書をインポートしておく必要があります。

[URI]
アップロードするHTTPサーバーのURIを入力します。

[ユーザー名]、[パスワード]
認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

[プロキシサーバー]
プロキシサーバーを使用する場合、プロキシサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[プロキシポート番号]
プロキシサーバーを使用する場合、プロキシサーバーのポート番号を入力します。

[プロキシユーザー名]、[プロキシパスワード]
プロキシサーバーでユーザー名とパスワードを使用する場合に入力します。

[パラメーター (query string)]
リクエストパラメーターを入力します。
「%」文字によるパラメーター記述が可能です (P. 163)。

[アップロードテスト]
[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してアップロードテストを行います。
JPEG 1 枚のみアップロードされますが、このとき、設定値を適用する必要はありません。パスワードを入力後、[適用] をクリックする前に [実行] をクリックしてください。

重 要

- [プロキシサーバー]、[プロキシポート番号]、[プロキシユーザー名]、[プロキシパスワード] は、プロキシサーバー経由で接続する場合にのみ入力してください。

[映像記録] > [メモリーカード記録]

カメラにセットしたメモリーカードに、映像を記録するための設定を行います。また、メモリーカードの状態を見ることもできます。
マウント/アンマウント、フォーマットの実行などのメモリーカードの操作については、[システム] > [メモリーカード] (P. 151) を参照してください。

重 要

- メモリーカードに記録された情報内容は、「個人情報」に該当する場合があります。カメラが廃棄、譲渡、修理などで第三者に渡る場合には、その取り扱いに十分にご注意ください。
- メモリーカード記録を使用するには、各イベントに応じて次の設定が必要になります。
  - [イベント] > [外部デバイス] (P. 123)、[タイマー] (P. 126)、[連結イベント] (P. 129) での [映像記録] の各設定
  - [検知] > [音声検知] での [映像記録] の設定 (P. 107)
  - インテリジェント機能の [イベント] タブの設定 (P. 120)
- メモリーカード記録中は、設定ページの各設定を変更しないでください。動作が停止する場合があります。
- メモリーカード記録と、テキストと映像によるメール通報を両方使用する場合は、[映像種別] で選択する映像ストリームを小さいサイズに設定してください。
- メモリーカード記録やメール通報を連続して行うよう設定した場合、映像の大きさ、メモリーカードの書き込み速度により、映像記録やメール送信ができなくなる可能性があります。

メ モ

- メモリーカードの映像は、録画映像ユーティリティを使用して見たり、管理することができます。録画映像ユーティリティの操作やダウンロードしたデータについては、『録画映像ユーティリティ 使用説明書』を参照してください。
- メモリーカードに大量の映像ファイルを記録すると、録画映像ユーティリティで映像一覧を表示する際に、ファイル数に比例して時間がかかるようになります。[映像の自動削除] で保存期間を短く設定したり、録画映像ユーティリティで定期的に手動で削除するなど、不要な映像ファイルはできる限り削除するようにしてください。
  また、映像フォーマットがH.264またはH.265の映像ストリームを指定すると、JPEGのストリームを指定して記録するときよりも映像ファイル数を抑えることができます。
- 使用できるメモリーカードやカードの出し入れについては、『設置ガイド』を参照してください。
- カメラで初めて使用するメモリーカードは、カメラにセットした後、最初にフォーマットしてください (P. 151)。

映像記録設定

カメラからの映像を、メモリーカードに記録するか、FTPまたはHTTPでアップロードするかを設定します。
この項目は、[映像記録] > [アップロード] (P. 97) でも設定でき、こちらの [映像記録設定] にもその設定が反映されます。

[映像記録動作]
メモリーカードに記録する場合、[メモリーカードに記録] を選択します。

[映像種別]
メモリーカード記録に使用する映像を、[映像] > [映像] で設定した映像ストリームから選択します。

重 要

- H.264/H.265映像を設定するには、[映像] > [映像] (P. 59) で次のように設定する必要があります。
  - [フレームレート (fps)] : [60]、[50] 以外 HM4x S820D/S920F
  - [ビットレート制御] : [MBR] または [CBR] のみ
  - [最大ビットレート (kbps)]、[目標ビットレート (kbps)] : [8192] 以下
  - [Iフレーム間隔 (秒)] : [0.5]、[1]、[1.5] のいずれかのみ

メモリーカードの操作

メモリーカードの状態 (アンマウント/マウント) によって、設定項目が変わります。

[動作設定]
メモリーカードに保存するデータを選択します。
[ログと映像を保存する] に設定した場合、次のデータが自動的に保存されます。

- ネットワーク異常のために配信できなかった録画ストリームの映像 (JPEGのみ)
- FTP/HTTPアップロードに失敗した映像
- カメラビューワーからのユーザーによる手動記録映像
- [外部デバイス入力]、[音声検知]、[インテリジェント機能] によるイベント発生時の記録映像
- タイマーによる記録映像
- ログ
- ONVIFによる記録映像

メ モ

- メモリーカードの空き領域がなくなった場合、新しいファイルは保存されません。[映像の上書き] を [有効] にすると、古い映像を削除し、新しい映像を保存することができます。

[常時録画]
メモリーカードに常時録画するかを選択します。

[イベント前バッファ (枚数)]、[イベント後バッファ (枚数)]、[イベント前バッファ (秒)]、[イベント後バッファ (秒)]
イベント発生の前後に、バッファに保存される映像の枚数または秒数を入力します。
[映像種別] でJPEGフォーマットの映像ストリームを選択している場合、[イベント前バッファ (枚数)] および [イベント後バッファ (枚数)] に、枚数の最大値を入力します。
[映像種別] でH.264またはH.265のフォーマットの映像ストリームを選択している場合、[イベント前バッファ (秒)] および [イベント後バッファ (秒)] に、秒数の最大値を入力します。
ただし、状況によっては、設定した枚数または秒数で保存できない場合があります。

[映像の上書き]
イベント発生時にメモリーカードに映像を記録する際、メモリーカードの空き容量がなくなった場合に、映像の上書き保存を許可するかを選択します。
[有効] を選択すると、イベント、タイマー、ONVIFによる記録映像は古いファイルから上書きされます。
[無効] にしている場合は、不要になった映像を録画映像ユーティリティで削除してください。操作方法は『録画映像ユーティリティ 使用説明書』を参照してください。

[映像の自動削除]
保存日数を過ぎた映像を、自動的にメモリーカードから削除するか選択します。
[有効] に設定した場合、[保存日数] と [削除時刻] を設定します。

[保存日数]
映像をメモリーカードに保存する日数を入力します。

[削除時刻]
保存日数を過ぎた映像を削除する時刻を入力します。

メモリーカードの情報

カメラにセットされているメモリーカードの現在の状態や、容量に関する情報が表示されます。[システム] > [メモリーカード] > [メモリーカードの情報] (P. 151) でも同様の情報が表示されます。

[メモリーカードの認識]
現在のメモリーカードの状態が表示されます。

[メモリーカードの操作状態]
メモリーカードの操作の状態を表示します。
[操作可能] の場合、各種操作が可能な状態です。
[映像管理情報を再作成中] の場合、映像管理情報の再作成が行われています。他の操作はできません。
[映像削除中] の場合、映像を削除しています。他の操作はできません。

[映像管理情報の状態]
映像管理情報の状態を表示します。
[正常] の場合、映像管理情報は正常です。
[映像管理情報の再作成が必要] の場合、記録映像の管理ファイルが壊れているか、保存されている映像と管理ファイルとの整合がとれない状態です。
[映像管理情報の再作成] の [実行] をクリックして、管理ファイルを再作成する必要があります。
[映像管理情報の再作成] を実行しても復旧しない場合は、[フォーマット] (P. 151) が必要です。

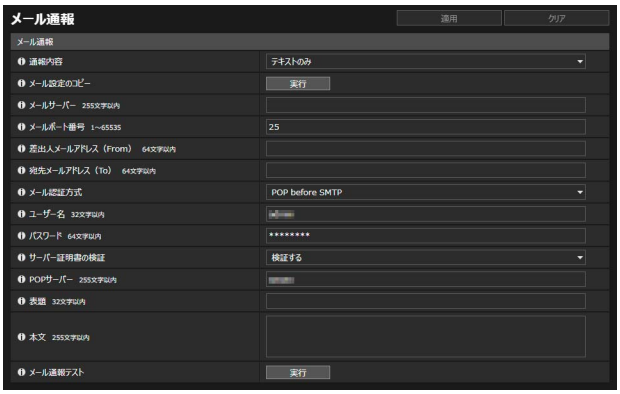
[映像保存]
メモリーカードへの映像の保存が可能かを表示します。
[保存不可] の場合は、次の理由が考えられます。
- メモリーカードがマウントされていない
- 映像管理ファイルが壊れている
- 書き込み禁止状態になっている
- [映像の上書き] が [無効] になっていて、メモリーカードの保存容量がいっぱいである

[メモリーカード容量]
メモリーカードの容量が表示されます。

[使用容量]
メモリーカードの使用容量が表示されます。

[映像記録] > [メール通報]

イベント発生時に、指定した宛先にメールを送信して通報するための設定を行います。



メール通報

メール通報に使用するメールサーバーと、送信するメールの内容を設定します。

[通報内容]
テキストとは、[表題] と [本文] です。
[テキストと映像] に設定すると、イベント直前に取得した画像データ (JPEG形式) を1枚添付します。

[メール設定のコピー]
[メンテナンス] > [ログ] > [ログ通知] (P. 160) で使用しているメール設定をコピーします。ただし、[パスワード] はコピーされません。

[メールサーバー]
SMTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[メールポート番号]
SMTPサーバーのポート番号を入力します。

[差出人メールアドレス(From)]
メール発信するアドレスを入力します。

[宛先メールアドレス(To)]
メール受信するアドレスを入力します。

[メール認証方式]
送信先SMTPサーバーに合わせて、認証方式を選択します。

[ユーザー名] 、[パスワード] 、[POPサーバー]
メール認証方式を [POP before SMTP] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワード、POPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[ユーザー名] 、[パスワード]
メール認証方式を [SMTP-AUTH] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

[サーバー証明書の検証]
サーバー証明書の検証をするかを設定します。

メ モ

- サーバー証明書の検証を行うためには、[セキュリティ] > [証明書管理] > [CA証明書の管理] で検証に必要なCA証明書をインポートしておく必要があります。

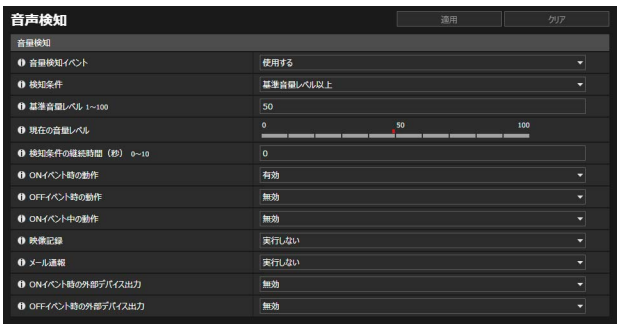
[表題]
メール送信時の表題を半角英数字で入力します。

[本文]
メール送信時の本文 (テキスト) を、半角英数字で入力します。
テキストには「%」文字によるパラメーター記述が可能です(P. 163)。

[メール通報テスト]
[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してメール通報テストを行います。
このとき、設定値を [適用] をクリックする必要はありません。パスワードを入力後、[適用] をクリックする前に [実行] をクリックしてください。

[検知] > [音声検知]

マイクから、大きな音が入力された場合、または入力されるはずの音声が途絶えた場合に、映像記録やメール通報などの動作を実行できます。



重 要

- 音声検知の注意事項については、「カメラ搭載の機能およびソフトウェアの使用上の注意」(P. 8) を参照してください。

メ モ

- 音声検知の状態は、カメラビューワーの [イベントと入出力メニュー] で確認できます (P. 50)。

音量検知

入力音声の音量が基準値を上回った、または下回ったことを検知して、音量検知イベントを発生します。
音量検知イベントを発生させる条件や、イベントによって実行する動作を設定します。

重 要

- イベントによる音声ファイル再生時とビューワーからの音声送信時は、一時的に音量検知機能が無効になります。
- [音声] > [音声] > [音声サーバー] > [パン・チルト中のミュート] が [ミュートする] に設定されているとき、カメラがパンやチルトの動作中は、一時的に音量検知機能が無効になります。S32VE

[音量検知イベント]
音量検知イベントを使用するかを選択します。
[音声] > [音声] > [音声全般] > [音声入力の使用] が[使用しない] に設定されている場合、[使用する] には設定できません。

[検知条件]
音量検知イベントを発生する条件を選択します。

[基準音量レベル]
検知の基準となる音量レベルを入力します。
基準音量レベルは、[現在の音量レベル] で確認しながら実際にテストを行ったうえで設定してください。

メ モ S32VE

- [音声] > [音声] > [音声全般] > [低域カット] (P. 94) の設定を変更した場合は、[基準音量レベル] の設定を見直してください。
- [基準音量レベル] を低く設定した場合、ズームやフォーカスの駆動音を誤って検知する場合があります。

[現在の音量レベル]
現在の音量レベルがステータスバーで表示されます。
[基準音量レベル] で設定したレベルには赤色の目印が表示され、[基準音量レベル] より低いレベルは青色、[基準音量レベル] 以上のレベルは赤色で表示されます。

[検知条件の継続時間(秒)]
音量検知条件を満たした状態が継続時間以上続いた場合に、ONイベントが発生します。

[ONイベント時の動作]
[有効] に設定すると、音量検知イベント発生 (ONイベント) 時に、[プリセット] (HM4x S32VE S32D)、[映像記録] 、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[OFFイベント時の動作]
[有効] に設定すると、音量検知イベント終了 (OFFイベント) 時に、[プリセット] (HM4x S32VE S32D)、[映像記録] 、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[ONイベント中の動作]
ONイベントが継続している間の動作を選択します。[ONイベント時の動作] が [有効] の場合に設定できます。
[有効] に設定すると、音量検知イベント継続中に [映像記録] 、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[プリセット] HM4x S32VE S32D
プリセットを指定すると、音量検知イベント発生時に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。
プリセットは、あらかじめ [映像] > [プリセット] (P. 63) で設定しておく必要があります。

重 要
- カメラビューワーなどでカメラ制御権取得中に、[プリセット] の指定によって音量検知イベント時の動作でカメラがプリセット位置に移動した場合、カメラ制御権は解放されます。

[映像記録]
音量検知イベントによって映像記録を実行するかを選択します。
[実行する] に設定すると、音量検知イベント発生時に、[映像記録] > [アップロード] > [映像記録設定] > [映像記録動作] (P. 97) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]
音量検知イベントによってメール通報を実行するかを選択します。
[実行する] に設定すると、音量検知イベント発生時に、メール通報を実行します。
メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 104) を設定しておく必要があります。

[ONイベント時の外部デバイス出力]
ONイベント時の外部デバイス出力の動作を選択します。

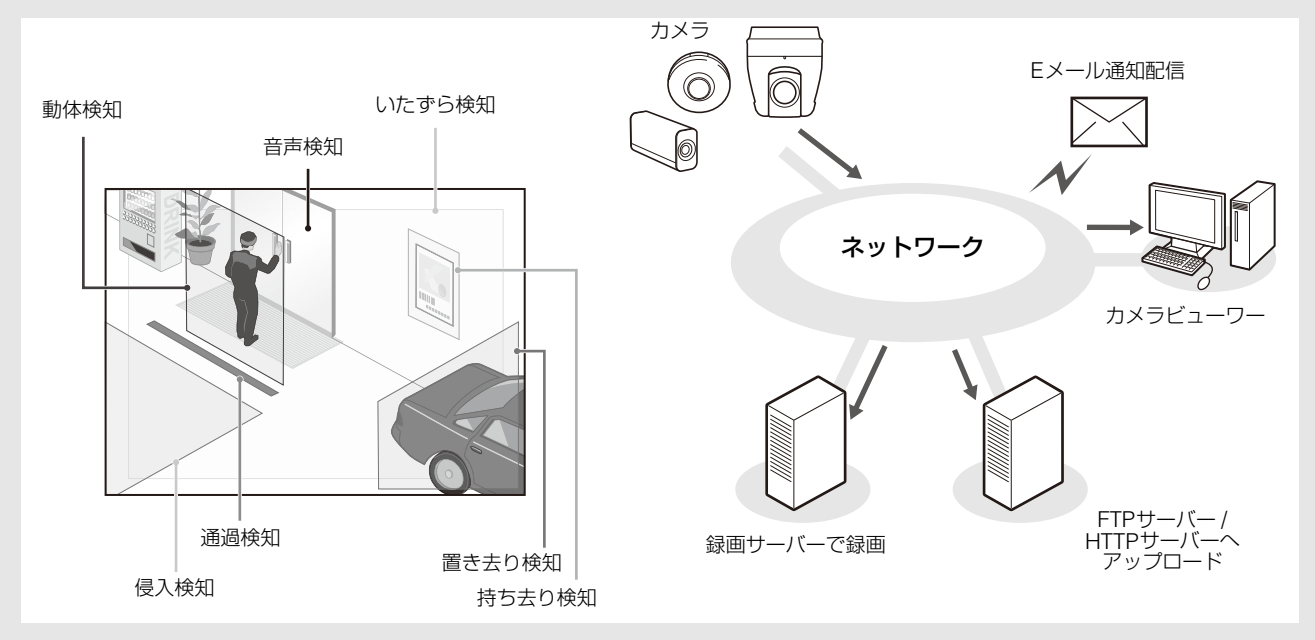
[OFFイベント時の外部デバイス出力]
OFFイベント時の外部デバイス出力の動作を選択します。

[検知] > [インテリジェント機能] －概要－

インテリジェント機能とは

インテリジェント機能は、被写体が動くことで映像に変化があった場合に、映像の録画やメール通知、音声の再生などのイベントを開始する機能です。
インテリジェント機能には、次の動作モードがあります。

- 映像検知
- 音声検知



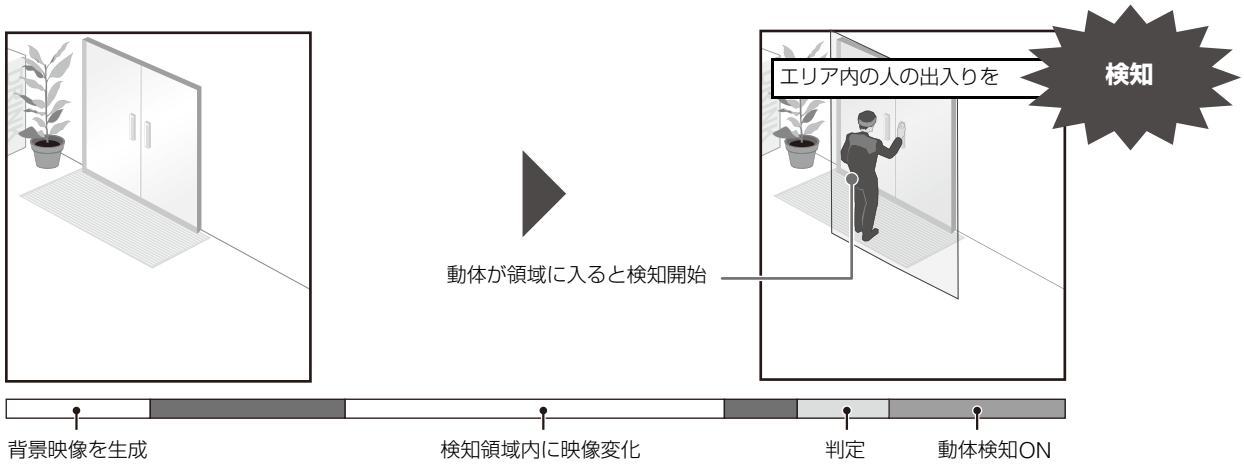
カメラご利用上の注意事項
インテリジェント機能は高い信頼性が求められる用途には適していません。監視などで常に高い信頼性が要求される用途では、使用しないことをお勧めします。インテリジェント機能の動作の結果生じた事故、損害などについて、弊社では一切の責任を負いかねます。

■ 映像検知とは

設定した検知領域内の映像の変化を検知します。7つの検知種別があり、目的に合わせて設定できます。

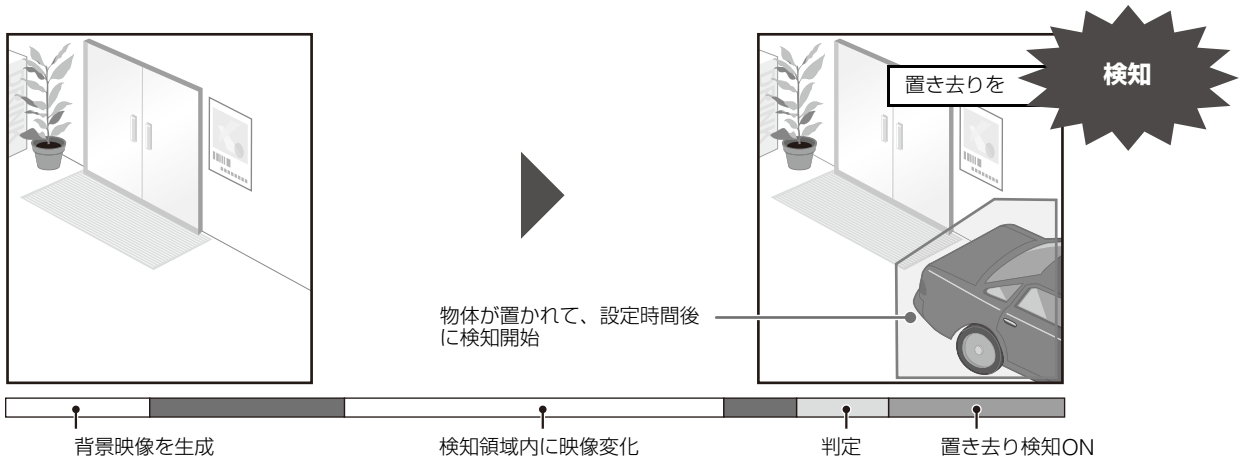
動体検知

動いている被写体を検知します。来訪者や不審者の検知に利用できます。
検知領域内に動く物体が入っている間、動体検知になります。



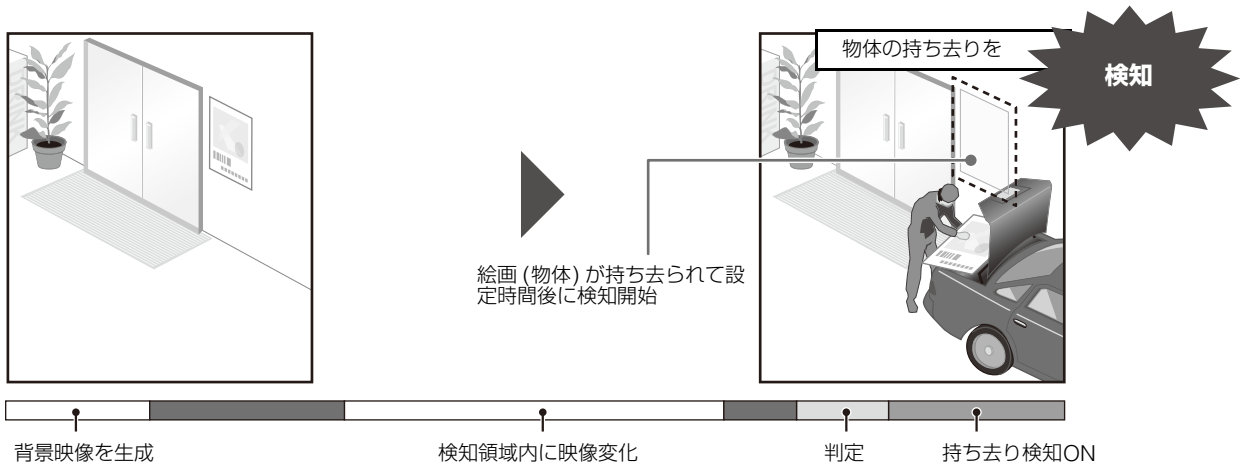
置き去り検知

持ち込まれた物体が、一定時間以上置かれたままであることを検知します。置き去りにされた不審物の検知に利用できます。
検知領域内に物体が置かれ、そのまま判定時間を経過すると置き去りと判定します。



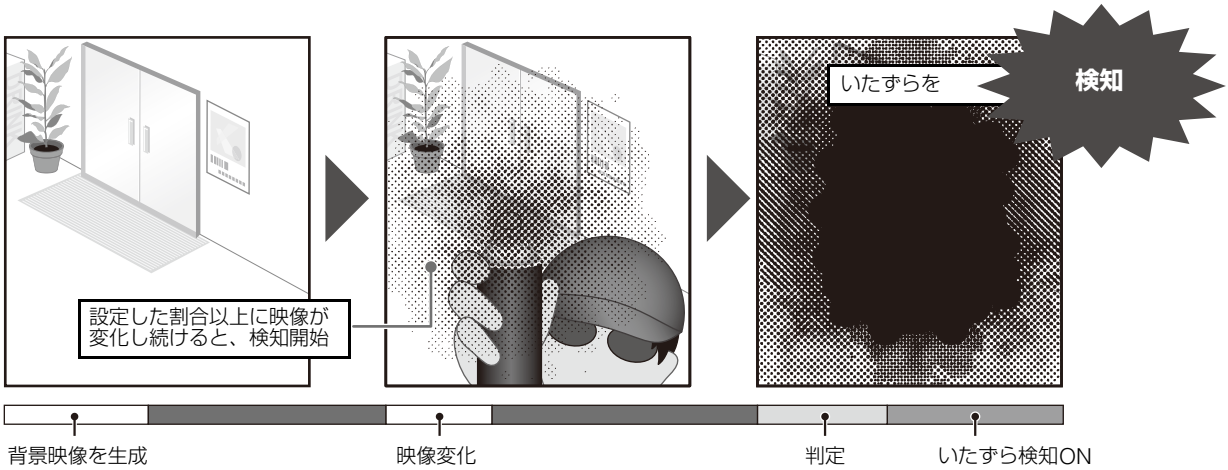
持ち去り検知

物体が持ち去られたことを検知します。貴重品などの持ち去り行為の検知に利用できます。
検知領域内の物体が持ち去られ、そのまま判定時間を経過すると、持ち去りと判定します。



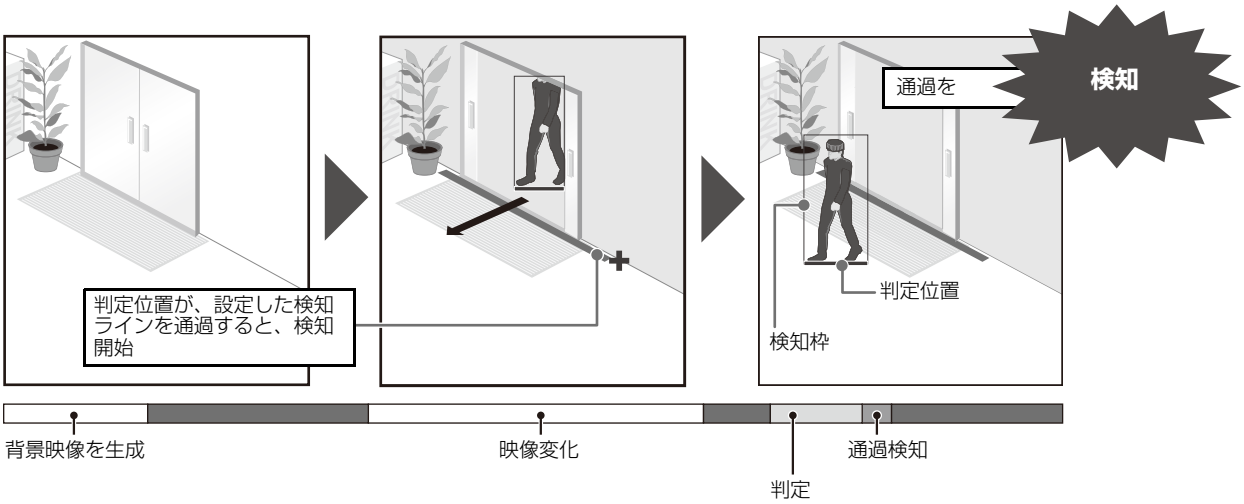
いたずら検知

撮影が妨げられたことを検知します。カメラの向きを変えたり、スプレーなどで映像表示を妨害したりする行為の検知に利用できます。
設定した割合より広い領域が物体などで変化し続けると、いたずらと判定します。



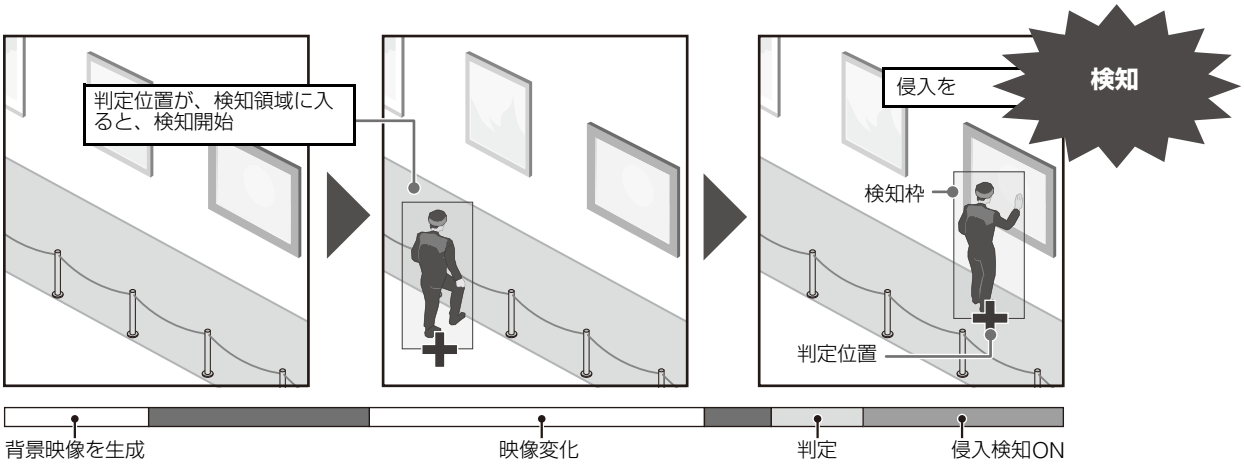
通過検知

人や動いている物体が、指定されたラインを越えたことを検知します。
物体の検知枠上の判定位置が検知ラインを越えると、通過と判定します。



侵入検知

人や動いている物体が指定領域内に入ったことを検知します。美術館などの立ち入り禁止の策を乗り越えて侵入する行為の検知に利用できます。物体の検知枠上の判定位置が検知領域に入り、判定時間を経過すると、侵入と判定します。



顔検知

映像内の人物の顔の情報を取得し、外部のシステムやアプリケーションによる解析などに活用できます。

■ 音声検知とは

カメラに入力される音声を検知する機能です。

音量検知

カメラに入力される音量レベルが、設定した基準値以上または以下になったことを検知する機能です。
[インテリジェント機能] ではなく、[音声検知] > [音量検知] (P. 106) で設定します。

インテリジェント機能の設定・運用上の注意

- インテリジェント機能を設定するにあたっては、実際にテストを行い、正しく検知できるか確認してください。
- 画面全体に急激な明暗の変化が発生した場合、最長6分間、意図通りに検知されないことがあります。
- インテリジェント機能では、物体の動きを検知するために動きのない状態の映像を背景画像として内部的に生成して保存しています。次の場合、インテリジェント機能が再起動して、背景画像を再生成します。設定によっては、再起動には数十秒かかります。この間は検知が実行されません。再起動の設定について、詳細は「[オプション設定] について」の「(2) [再起動処理]」(P. 113) を参照してください。
  - インテリジェント機能の設定中や動作中にカメラを操作したとき
  - デイモード/ナイトモードの切り換えが行われたとき (P. 67)
  - [インテリジェント機能の再起動] を実行したとき (P. 112)
- [映像] > [映像] で各映像ストリームを変更した場合は、必ずプリセット位置の設定と、インテリジェント機能の設定を変更し、動作の確認を行ってください。設定によっては、インテリジェント機能が動作しない場合があります。

HM4x S32VE S32D

- ズーム倍率を高くしてテレ側に設定している場合は、意図どおりに検知できないことがあります。
- カメラ操作で画角を変更した場合や、カメラ位置を固定しているプリセットやホームポジションを変更した場合は、インテリジェント機能設定を見直してください。
- カメラ位置固定時で、[検知設定] の [状態] に [有効] な検知設定がある場合、特権カメラ制御権を持たないユーザーが接続したビューワーでは制御権が取得できなくなります。また、プリセット巡回 (HM4x) も実行されなくなります。
- デジタルズーム領域で登録したプリセットを使用すると、登録時のカメラ位置を高い精度で再現できない場合があります。そのため、インテリジェント機能では、光学ズーム領域で登録したプリセットの使用を推奨します。

重 要

- インテリジェント機能を使用するときは、[メンテナンス] > [環境] > [インテリジェント機能] を [有効] に設定してください。

■ 苦手被写体

次の被写体は、検知されなかったり、誤って検知されたりする場合があります。

- 背景との、明るさや色の違いが少ない物体および部分は、検知されない場合があります。
- 画面上の小さな物体や変化は、検知されない場合があります。
- 画角全体や一部の明るさの変化が検知される場合があります。
- 複数の物体が重なると、検知状態が変化する場合があります。特に、通過が検知できなくなる場合や、検知のタイミングが異なる場合があります。
- 画面内に物体の数が多い場合は、正しく検知されないことがあります。

■ 事前のプリセット登録

HM4x S32VE S32D

あらかじめカメラのアングルをプリセット登録しておき、映像検知の使用時はカメラをプリセット位置に固定することを強く推奨します。また、対象となる物体が大きく撮影される画角をお勧めします。
プリセットの登録については、[映像] > [プリセット] (P. 63) を参照してください。

設定画面

映像検知では検知したい種別を選び、映像変化に対し検知する領域などを、映像で確認しながら設定します。また、変化を検知したときにどのような動作 (メールで知らせる、映像を録画する、外部デバイスへの出力など) を行うかを設定します。

(1) **[インテリジェント機能の再起動]**

インテリジェント機能を設定中に背景の映像が変化してしまったときや、設定通りの検知結果にならない場合に、カメラの制御権を取得した状態でクリックすることで、インテリジェント機能を再起動できます。

重 要

- 設定によっては、再起動には数十秒かかります。この間は検知が実行されません。再起動の設定について、詳細は「[オプション設定] について」の「(2) [再起動処理]」(P. 113) を参照してください。

(2) **[オプション設定]**

検知設定のオプションを変更します。詳細は、「[オプション設定] について」(P. 113) を参照してください。

(3) **[検知設定]**

[追加] をクリックすると [新規検知設定] が表示されて、新たに検知設定を追加できます。詳細は「映像検知設定の流れ」(P. 114) を参照してください。

検知設定を追加すると、一覧に [番号]、[検知種別]、[状態]、[イベント] が表示されます。検知設定は9件まで追加できます。

検知設定が検知ありの状態になると、イベントアイコンが緑色になります。また、検知状態はカメラビューワーの [イベントと入出力メニュー] でも確認できます (P. 50)。

一覧で検知設定を選択して [削除] をクリックすると、検知設定が削除されます。

(4) **[非検知設定]**

誤検知や検知漏れを防ぐために、変化を検知しない領域を設定できます。

[追加] をクリックすると映像表示部をクリックして非検知領域を設定できます。詳細は「非検知領域を設定する」(P. 114) を参照してください。

非検知領域を追加すると、一覧に [番号]、[非検知領域名]、[状態] が表示されます。非検知設定は4件まで登録できます。

一覧で非検知領域を選択して [削除] をクリックすると、非検知領域が削除されます。

(5) **[表示オプション]**

[検知領域/検知ライン]、[非検知領域]、[検知結果] の映像表示部への表示について設定します。次の設定値を選択できます。

- **[選択中の検知設定のみ]** : 検知設定一覧で選択している設定のみ表示
- **[選択中の非検知領域のみ]** : 非検知設定一覧で選択している設定のみ表示
- **[すべての検知設定]** : 検知設定一覧のすべての設定を表示
- **[すべての非検知領域]** : 非検知設定一覧のすべての設定を表示
- **[同じ検知種別の検知設定]** : 検知設定一覧で選択している検知設定と同じ種別の検知設定を表示
- **[有効な非検知領域のみ]** : 非検知設定一覧で [状態] が [有効] な非検知設定の設定を表示
- **[表示しない]** : すべて非表示

(6) **[カメラ位置設定]**

カメラの位置を固定して映像検知を行う場合にチェックします。

HM4x S32VE S32D

登録済みのプリセットから映像検知を行うカメラ位置を選択します。
チェックしている場合、管理者ユーザーがプリセット位置からカメラ位置を変更している間は映像検知を停止します。管理者ユーザーが制御権を解放すると、プリセット位置に戻り、映像検知を再開します。また、一般ユーザーはカメラ位置を変更できなくなります。
チェックしていない場合、カメラ位置を変更すると、インテリジェント機能が再起動して映像検知を継続します。

S820D/S920F

チェックしている場合、管理者ユーザーが [映像] > [カメラアングル] で設定した位置からズームを変更している間は映像検知を停止します。管理者ユーザーが制御権を解放すると、[映像] > [カメラアングル] で設定したズーム位置に戻り、映像検知を再開します。
チェックしていない場合、ズーム位置を変更すると、インテリジェント機能が再起動して映像検知を継続します。

(7) **[検知設定]**

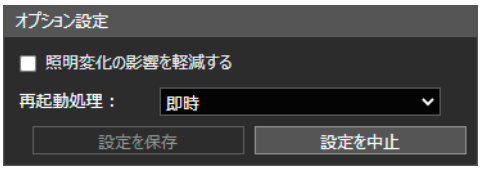
検知設定一覧で選択された検知設定の内容を確認・設定できます。詳細は、「[検知] > [インテリジェント機能] －検知設定－」(P. 116) を参照してください。

(8) **[非検知設定]**

非検知設定一覧で選択された非検知領域の内容を確認・設定できます。詳細は、「非検知領域を設定する」(P. 114) を参照してください。

■ [オプション設定] について

[オプション設定] をクリックすると、次の画面が表示されてインテリジェント機能の設定を調整できます。



(1) **[照明変化の影響を軽減する]**

室内照明の点灯・消灯など、画面全体の照明が急激に変化する場合、インテリジェント機能が働かないことがあります。この項目の設定を変更することで、この現象を軽減できることがあります。

重 要

- [照明変化の影響を軽減する] を設定しても、ご使用の環境によっては正しく働かないことがあります。また、急激な明暗の変化が連続する場合も同様です。実際に検知テストを行い、正しく検知されるかご確認ください。

(2) **[再起動処理]**

背景画像を生成する再起動処理の方法を選択できます。
[即時] は再起動処理中の映像内に動体がない場合に選択してください。数秒で再起動します。映像内に動体があると背景画像に含まれて、正しく検知されません。
[標準] は再起動処理中の映像内に動体がある場合に選択してください。再起動に数十秒程度かかります。映像内に動体があっても背景画像を生成することができます。
[高精度] は再起動処理中の映像内に動体があったり立ち止まる人がいる場合や、[標準] で再起動処理をしても正しく検知されない場合に選択してください。再起動に1分程度かかります。

重 要

- [即時] に設定した場合、再起動から数十秒の間は置き去り検知および持ち去り検知ができません。

(3) **[設定を保存]**
設定を反映して、[オプション設定] 画面を閉じます。

(4) **[設定を中止]**
設定をキャンセルして、[オプション設定] 画面を閉じます。

映像検知設定の流れ

検知領域の基本的な設定は次のとおりです。検知設定ごとの詳しい設定は「[検知] > [インテリジェント機能] －検知設定－」(P. 116) を参照して下さい。

重 要

- 検知条件の設定は、できる限り実際の運用に近い状態で設定することをお勧めします。

1 カメラ位置を固定して映像検知を行うかを選択する

[カメラ位置設定] の [カメラ位置を固定する] をチェックし、プリセットを選択します。プリセットの設定方法については、「プリセットを登録する」(P. 71) を参照してください。HM4x S32VE S32D
[カメラ位置設定] の [カメラ位置を固定する] をチェックします。S820D/S920F

メ モ HM4x S32VE S32D

- 選択できるプリセットは、次の条件を満たしたものです。
  - 可視範囲に設定されている
  - [プリセット登録] でパン・チルト・ズーム値が設定されている (空ではない)

2 検知設定を追加する

[検知設定] の [追加] をクリックすると [新規検知設定] が表示されるので、[検知設定番号] (1～9) と [検知種別] を選択して [OK] をクリックします。
[検知設定] に追加した検知設定が表示され、[この検知設定を有効にする] がチェックされます。

メ モ

- 設定できる検知設定の数は、検知種別によって異なります。いたずら検知と顔検知は1つずつ、通過検知は3つまで、それ以外はすべての検知種別の合計が9つになるまで設定できます。
- 検知設定を無効にするには、[この検知設定を有効にする] のチェックを外します。

3 検知条件とイベントを設定する

検知条件は映像表示部と [検知条件] タブで、イベントは [イベント] タブで設定します。検知条件は検知種別によって異なります。検知条件を検知種別ごとに映像表示部で操作、確認しながら設定します。

4 複数の検知設定を登録する場合は、手順2～3を繰り返す

5 [適用] をクリックする

設定した内容がカメラに保存されます。
設定した検知設定の検知状況は、映像表示部や [検知設定] の [イベント] 列、またはカメラビューワーの [イベントと入出力メニュー] (P. 50) で確認できます。

メ モ

- 設定をやり直す場合は、適用前に [クリア] をクリックすると、設定した内容を破棄してカメラに保存されている設定内容に戻します。ただし、検知設定領域に追加しただけの検知設定はすべて破棄されます。

■ 非検知領域を設定する

誤検知や検知漏れを防ぐために、変化を検知しない領域を設定します。

重 要

- 非検知設定で設定した内容は、いたずら検知および顔検知以外の検知設定に反映されます。
- 検知設定の領域と非検知設定の領域が重なる場合は、非検知設定が適用されます。

1 [非検知設定] をクリックし、非検知設定一覧を表示した状態で [追加] をクリックする

一覧に追加した非検知設定の詳細が表示され、[非検知領域を有効にする] がチェックされます。

メ モ

- 非検知設定を無効にするには、[非検知領域を有効にする] のチェックを外します。
- 必要に応じて、[非検知領域名 (64文字以内)]、[非検知領域名 (半角英数字64文字以内)] を入力してください。両方入力している場合は [非検知領域名 (64文字以内)] が優先されます。

2 映像表示部で非検知領域を設定する

映像表示部をクリックして多角形を作成します。作成方法については、「領域の設定」(P. 117) を参照してください。
非検知領域は映像表示部に黒で表示されます。表示色は選べません。

3 複数の非検知領域を設定する場合は、手順1～2を繰り返す

4 [適用] をクリックする

設定した内容がカメラに保存されます。
設定した非検知設定の状態は、映像表示部や [非検知設定] の [状態] 列で確認できます。[非検知領域を有効にする] のチェックが外れている場合は、[非検知設定] の [状態] 列が [無効] となり、映像表示部に非検知領域は表示されません。

重 要

- 検知設定と非検知設定の領域との間で意図しない重なりとなっていないか、映像表示部で確認してください。検知設定と非検知設定の領域を近接して設定すると、正しく検知されない場合があります。

メ モ

- 設定した内容を破棄してカメラに保存されている設定内容に戻す場合は、[クリア] をクリックします。ただし、非検知設定領域に追加しただけの検知設定はすべて破棄されます。

右クリックメニューについて

映像表示部、検知設定一覧、非検知設定一覧上で右クリックするとメニューが表示され、検知領域/非検知領域や検知ライン、検知条件をコピー、貼り付けしたり、クリアしたりできます。また、検知領域やイベントの設定値もコピー、貼り付けできます。
右クリック時に使用できない機能は、グレー表示されます。

メ モ

- 検知条件の設定値をコピーしても、検知設定名および表示名はコピーされません。
- [検知条件の設定値を貼り付け] は、コピー元と貼り付け先の検知種別が同一の場合のみ可能です。

[検知] > [インテリジェント機能] －検知設定－

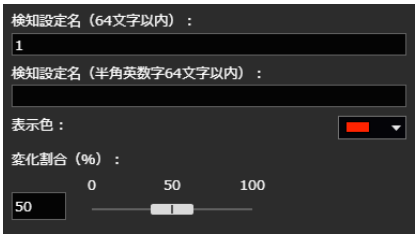
[検知設定] で、各検知の検知条件や、検知時の動作を設定します。

[検知条件] タブ

動体検知

置き去り検知・持ち去り検知

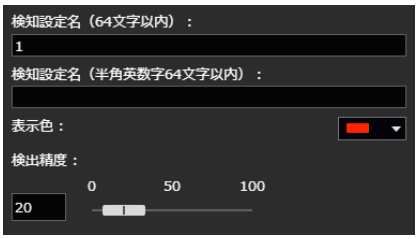
いたずら検知



通過検知

侵入検知

顔検知



検知種別によって、設定できる項目は異なります。

	動体検知	置き去り検知	持ち去り検知	いたずら検知	通過検知	侵入検知	顔検知
検知設定名	○	○	○	○	○	○	○
検知領域	○	○	○			○	
検知ライン					○		
表示色	○	○	○	○	○	○	○
通過方向					○		
判定時間 (秒)		○	○			○	
判定位置					○	○	
物体の高さ (%) 物体の幅 (%)	○	○	○		○	○	
変化割合 (%)				○			
検知精度							○

[検知設定名 (64文字以内)]、[検知設定名 (半角英数字64文字以内)]
検知設定名を設定します。両方入力されている場合は、[検知設定名 (64文字以内)] が優先されます。

検知領域、検知ライン
「領域やラインの設定」(P. 117) を参照してください。

[表示色]
検知領域と検知ラインの色を変更することができます。

[通過方向]
物体が検知ラインを超えるときに、どの方向で通過したら通過と判定するかを設定します。選択した通過方向は映像表示部の検知ライン上にプレビュー表示されます。

[判定時間 (秒)]
置き去り検知では物体が置かれてから、侵入検知では物体が侵入してから、置き去り / 侵入だと判定するまでの経過時間を設定します。

[判定位置]
物体のどの位置で通過や侵入と判定するかを設定します。判定位置は、物体の検知枠に十字の記号で表示されます。

[物体の高さ (%)]、[物体の幅 (%)]
設定した検知領域内で、どの程度の大きさの物体を検知の対象とするかを、高さと幅で設定します。数値またはスライダーを変更すると、物体の大きさを表すインジゲーターが映像表示部に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。

メ モ
- 通過検知の [物体の高さ (%)]、[物体の幅 (%)] で指定できる割合は、80%までです。

[変化割合 (%)]
映像表示部全体に対し、どの程度の割合の画面変化があるといたずら検知と判定するかを設定します。数値スライダーを変更すると、映像表示部全体に占める割合を表すインジゲーターが、映像表示部中央に1秒間表示されるので、確認しながら設定してください。

メ モ
- [映像] > [プリセット] > [露出・補正] > [WDRの使用] の設定を変更したときは、[変化割合 (%)] を見直してください。

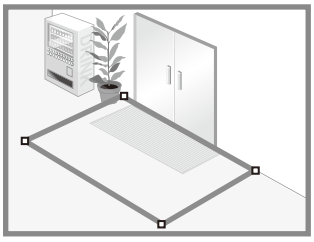
[検知精度]
人物の顔らしさを判定する数値を設定します。数値が大きいほど、人物の顔と判定するのがより厳しくなります。

領域やラインの設定

検知領域、非検知領域および通過を検知するラインは、映像表示部をクリックして設定します。

■ 領域の設定

検知領域や非検知領域は、最大8頂点の多角形を作成することで指定します。
映像表示部でクリックすると、多角形の頂点が作成されます。順番に頂点を設定し、最初の頂点をもう一度クリックするか、最後の頂点でダブルクリックすると、多角形の検知領域を作成できます。また、領域をドラッグして移動、頂点をドラッグして変形できます。
[領域のクリア] をクリックすると、設定した検知領域を削除することができます。

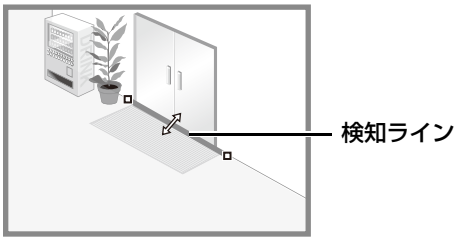


メ モ

- へこみのある多角形 (内角が180°を超える頂点のある多角形) や、辺同士が重なる形は領域として設定できません。

■ ラインの設定

通過を検知するラインは、映像表示部で始点とする位置をクリックした後で別の場所をクリックすることで、点の間に設定されます。
[ラインのクリア] をクリックすると、設定した検知ラインを削除できます。



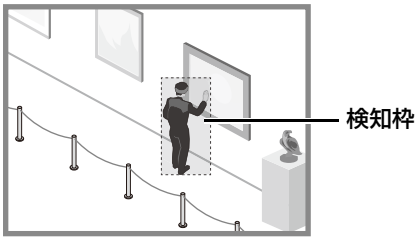
メ モ

- 検知ラインを確定した後でも、各頂点をドラッグして検知ラインの長さや向きを変更したり、頂点間のラインをドラッグして検知ライン全体を移動したりできます。

検知状態の表示について

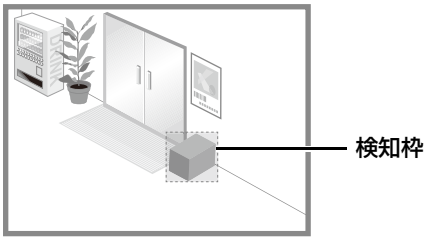
画面上で検知状態を確認できます。ここでは、検知種別ごとの検知状態の画面表示について説明します。

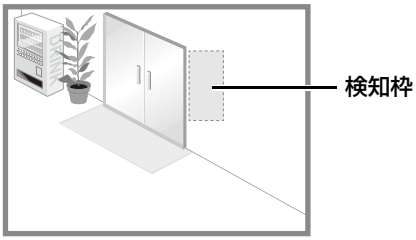
■ 動体検知



動きが検出されたすべての物体に、検知枠が表示されます。[物体の高さ (%)]、[物体の幅 (%)] を満たさない場合、検知枠は白の点線で表示されます。[物体の高さ (%)]、[物体の幅 (%)] を満たす場合、検知枠は検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを示します。

■ 置き去り検知、持ち去り検知



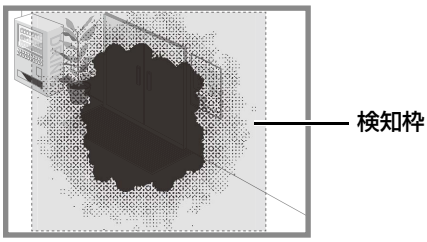


動きの検出後、静止して5秒経った物体に検知枠が表示されます。[物体の高さ (%)]、[物体の幅 (%)] と [判定時間 (秒)] を満たさない場合、検知枠は白の点線で表示されます。[物体の高さ (%)]、[物体の幅 (%)] と [判定時間 (秒)] のすべてを超えた場合、検知枠が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。

重 要

- 次の場合、持ち去り検知と判定されない場合があります。
  - 細長い物体が持ち去られた場合
  - 同じ物体が連続して置かれている一部が持ち去られた場合
  - 同一形状のものと重なって置かれている一部が持ち去られた場合
- 検知領域内で対象物以外でも映像が変化すると、持ち去り検知と判定される場合があります。

■ いたずら検知

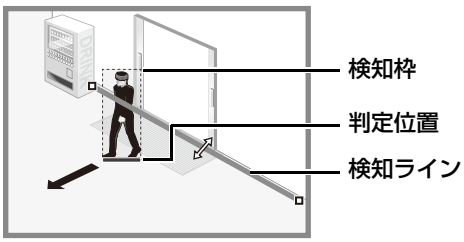


動きが検出された物体に検知枠が表示されます。[変化割合 (%)] 未満の大きさの場合、検知枠は白の点線で表示されます。[変化割合 (%)] 以上の面積で映像が妨げられた場合、検知枠が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。

メ モ

- いたずら検知の変化割合を変更した直後、および他の検知設定からいたずら検知が設定された検知設定に切り換えた直後の3秒間は、検知あり状態になりません。

■ 通過検知

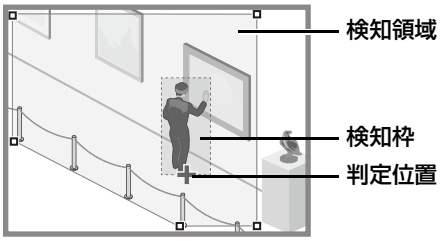


動きが検出されたすべての物体に白い検知枠が表示されます。
[物体の高さ (%)]、[物体の幅 (%)] を満たした物体の [判定位置] が [通過方向] で設定した方向で検知ラインを通過したとき、検知枠が検知ラインと同じ色で表示され、「検知あり」状態となります。通過検知イベントが通知されるのは、通過の瞬間だけです。

重 要

- 通過検知の設定後は、検知テストを行って動体の検知枠が継続して表示されることを確認してください。

■ 侵入検知



動きが検出されたすべての物体に検知枠が表示されます。

[物体の高さ (%)]、[物体の幅 (%)] を満たした物体の [判定位置] が検知領域に入り、[判定時間 (秒)] を超えた場合、検知枠が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。

重 要

- 侵入検知の設定後は、検知テストを行って物体の検知枠が継続して表示されることを確認してください。

■ 顔検知

検出したすべての顔に顔枠が表示されます。

メ モ

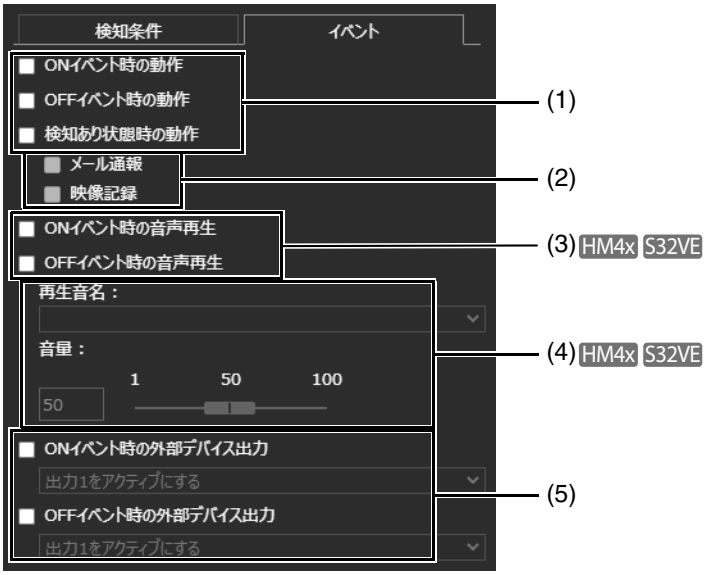
- 顔検知では、「検知あり」時の動作は指定できません。
- 顔が検出されない主な例は次のとおりです。
  - 顔が画面全体に対して極端に小さい、大きい、暗い、または明るいとき
  - 顔が横や斜めを向いていたり、顔が上下逆さまのとき
  - 顔の一部が隠れたりしているとき
- 人物以外の被写体を、誤って顔として検出することがあります。

[イベント] タブ

被写体の変化を検知した際の動作を設定します。

メ モ

- 顔検知では、[イベント] タブは使用できません。



(1) **[ONイベント時の動作]、[OFFイベント時の動作]、[検知あり状態時の動作]**
動作タイミングを指定します。複数指定することもできます。
チェックすると、「検知あり」の状態になったとき、終了したとき、または「検知あり」状態が続く間、(2) で設定した処理を行います。

(2) **[メール通報]、[映像記録]**
イベント時の動作を指定します。複数指定することもできます。
[メール通報] をチェックすると、(1) で設定したタイミングで、[映像記録] > [メール通報] (P. 104) の設定に従ってメール通報を行います。
[映像記録] をチェックすると、(1) で設定したタイミングで、[映像記録] > [アップロード] > [映像記録設定] (P. 97) または [メモリーカード記録] > [映像記録設定] (P. 101) の設定に従って映像記録を行います。

(3) **[ONイベント時の音声再生]、[OFFイベント時の音声再生]**

音声再生のタイミングを指定します。

チェックすると、「検知あり」の状態になったとき、または、終了したとき (4) で設定した音声を再生します。

(4) **[再生音名]、[音量]**

(3) のタイミングで再生する音声を指定します。

[音声] > [音声] の再生音ファイル登録1～3 (P. 96) で登録した音声の中から再生音を選択し、再生音の音量を設定します。

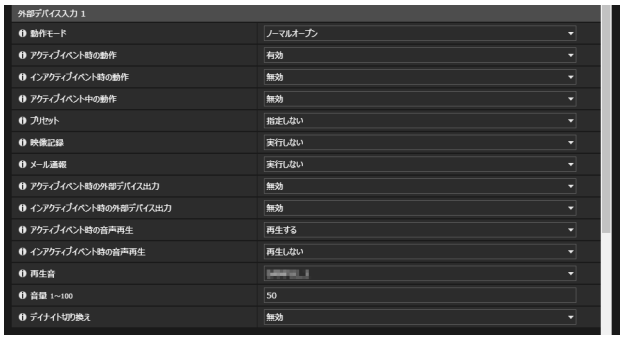
(5) **[ONイベント時の外部デバイス出力]、[OFFイベント出力時の外部デバイス出力]**

外部デバイス出力の動作を指定します。

「検知あり」の状態になったとき、または終了したときに、外部デバイスへの出力を開始または停止する場合にチェックし、動作 (アクティブまたはインアクティブ) を選択します。

[イベント] > [外部デバイス]

外部デバイス出力の動作と、外部デバイスからの入力イベントで実行する動作について設定します。



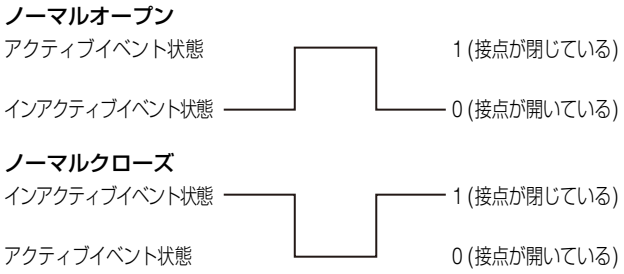
外部デバイス出力

外部デバイスへの出力動作について設定します。
カメラには2つの外部デバイス出力があり、それぞれの出力ごとに設定できます。HM4x

メ モ

- 外部デバイスへの出力は、カメラビューワーの [外部デバイス出力] (P. 50) でアクティブ/インアクティブを切り換えることができます。

[動作モード]
出力端子の接点が、通常時にオープンかクローズかを選択します。
[ノーマルオープン] に設定すると、出力端子の接点が閉じた場合にアクティブイベントが発生し、開いた場合にインアクティブイベントが発生します。
[ノーマルクローズ] に設定すると、出力端子の接点が開いた場合にアクティブイベントが発生し、閉じた場合にインアクティブイベントが発生します。



[アクティブ出力の形式]
外部デバイス出力がアクティブの状態になったときの出力形式を選択します。

[パルスの出力時間(秒)]
[アクティブ出力の形式] が [パルス] の場合、出力を維持する時間 (秒) を入力します。

重 要

- [アクティブ出力の形式] を [パルス] に設定してタイマーを使用する場合 (P. 125) は、タイマーの開始時刻に1回のみ接点出力が制御されます。

外部デバイス入力

[外部デバイス入力イベント]
接続されたセンサーなどの外部デバイスからの入力を、イベントとして使用するかを選択します。

外部デバイス入力1、2 (タイトル表示はHM4xのみ)

外部デバイス入力イベントがあった場合の動作について設定します。
カメラには2つの外部デバイス入力があり、それぞれの入力ごとに設定できます。HM4x
この項目は、[外部デバイス入力イベント] で [使用する] を選択した場合に設定できます。

メ モ

- 外部デバイス入力イベントがあった場合は、カメラビューワーの [イベントと入出力メニュー] にアイコンで表示されます (P. 50)。

[動作モード]
接続されている外部機器からの入力信号に合わせて、回線状態を選択します。
[ノーマルオープン] に設定すると、外部機器の接点が閉じた場合にアクティブイベントが発生し、開いた場合にインアクティブイベントが発生します。
[ノーマルクローズ] に設定すると、外部機器の接点が開いた場合にアクティブイベントが発生し、閉じた場合にインアクティブイベントが発生します。

[アクティブイベント時の動作]
アクティブイベント時の動作を選択します。
[有効] に設定すると、イベント発生 (アクティブイベント) 時に、[プリセット] (HM4x S32VE S32D)、[映像記録] 、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[インアクティブイベント時の動作]
インアクティブイベント時の動作を選択します。
[有効] に設定すると、イベント終了 (インアクティブイベント) 時に、[プリセット] (HM4x S32VE S32D)、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[アクティブイベント中の動作]
アクティブイベントが継続している間の動作を選択します。[アクティブイベント時の動作] が [有効] の場合のみ設定できます。
[有効] に設定すると、アクティブイベント継続中に [映像記録] 、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[プリセット] HM4x S32VE S32D
プリセットを指定すると、外部デバイス入力イベント発生時に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。
プリセットは、あらかじめ [映像] > [プリセット] (P. 63) で設定しておく必要があります。

重 要

- カメラビューワーなどでカメラ制御権取得中に、[プリセット] の指定によってプリセット移動した場合、カメラ制御権は解放されます。

[映像記録]
イベントによって映像記録を実行するかを選択します。
[実行する] に設定すると、外部デバイス入力イベント発生時に、[映像記録] > [アップロード] > [映像記録設定] > [映像記録動作] (P. 97) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]
イベントによってメール通報を実行するかを選択します。
[実行する] に設定すると、外部デバイス入力イベント発生時に、メール通報を実行します。
メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 104) を設定しておく必要があります。

[アクティブイベント時の外部デバイス出力]
アクティブイベント時の外部デバイス出力の動作を選択します。

[インアクティブイベント時の外部デバイス出力]
インアクティブイベント時の外部デバイス出力の動作を選択します。

[アクティブイベント時の音声再生] HM4x S32VE
[再生する] を選択すると、外部デバイス入力のアクティブイベント時に、[再生音] で指定した音声を再生します。

[インアクティブイベント時の音声再生] HM4x S32VE

[再生する] を選択すると、外部デバイス入力のインアクティブイベント時に、[再生音] で指定した音声を再生します。

[再生音]

[アクティブイベント時の音声再生] または [インアクティブイベント時の音声再生] が [再生する] の場合、再生音を選択します。

再生音は、あらかじめ [音声] > [音声] の再生音ファイル登録1～3 (P. 96) で登録しておく必要があります。

[音量]

再生音の音量を入力します。

[デイナイト切り換え]

外部デバイス入力イベント発生時のデイナイト切り換えの動作を選択します。

[デイモードに切り換え] に設定すると、アクティブイベント発生時にデイモード、インアクティブイベント時にナイトモードに切り換えます。

[ナイトモードに切り換え] に設定すると、アクティブイベント時にナイトモード、インアクティブイベント時にデイモードに切り換えます。

重 要

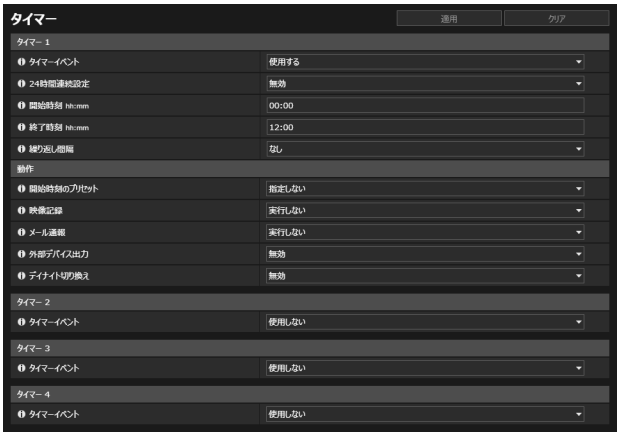
- [映像] > [プリセット] > [露出・補正] > [デイナイト] が [オート] に設定されている場合 (P. 67)、外部デバイス入力イベント発生時に [デイナイト切り換え] は実行されません。
- カメラビューワーなどでカメラ制御権取得中に [デイナイト切り換え] によりデイナイトのモードが切り換えられた場合、カメラ制御権は解放されます。

[イベント] > [タイマー]

タイマー機能を使用してイベントを発生させ、映像記録やメール通報などの動作を一定間隔で実行できます。
設定できるタイマーは、次の2種類です。

- 指定した時刻から24時間連続
- 指定した時間内のみ

いずれの場合も、タイマーイベントを繰り返し発生させる間隔を設定できます。



タイマー 1～4

タイマーイベントは、4つまで登録できます。

[タイマーイベント]
タイマーイベントを使用するかを選択します。

[24時間連続設定]
[有効] に設定し、[繰り返し間隔] に [なし] 以外を設定すると、[開始時刻] によらず [繰り返し間隔] の間隔でタイマーイベントが繰り返し発生します。[繰り返し間隔] に [なし] を設定したときは、[開始時刻] にだけタイマーイベントが発生します。
なお、[有効] に設定したときに実行できる動作は、[映像記録] のみとなります。

[開始時刻]
タイマーイベントの開始時刻を、24時間制で入力します。開始時刻にタイマーイベントが発生します。

[終了時刻]
[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーイベントの終了時刻を、24時間制で入力します。

[繰り返し間隔]
タイマーイベントを繰り返す間隔を選択します。選択した間隔ごとに、タイマーイベントが発生します。

■ 動作

タイマーイベント発生時の動作を設定します。

[開始時刻のプリセット] HM4x S32VE S32D
[24時間連続設定] が [無効] の場合、プリセットを指定すると、[開始時刻] で設定した時刻に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。
プリセットは、あらかじめ [映像] > [プリセット] (P. 63)で設定しておく必要があります。

重 要

- カメラビューワーなどでカメラ制御権取得中に、[開始時刻のプリセット] の指定によってカメラアングルが移動した場合、カメラ制御権は解放されます。

[映像記録]
タイマーイベントによって映像記録を実行するかを選択します。
[実行する] に設定すると、タイマーイベント発生時に、[映像記録] > [アップロード] > [映像記録設定] > [映像記録動作] (P. 97) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]
[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーイベントによってメール通報を実行するかを選択します。
[実行する] に設定すると、タイマーイベント発生時に、メール通報を実行します。
メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 104) を設定しておく必要があります。

[外部デバイス出力]
[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーの [開始時刻] および [終了時刻] での外部デバイス出力の動作を選択します。
[繰り返し間隔] には対応しません。

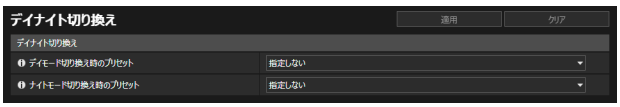
[デイナイト切り換え]
[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーイベント発生時のデイナイト切り換えの動作を選択します。[タイマー1] でのみ設定できます。
[デイモードに切り換え] に設定すると、[開始時刻] にデイモード、[終了時刻] にナイトモードになります。
[ナイトモードに切り換え] に設定すると、[開始時刻] にナイトモード、[終了時刻] にデイモードになります。
[繰り返し間隔] には対応しません。

重 要

- [開始時刻] と [終了時刻] を設定し、[開始時刻のプリセット] でプリセットを選択した場合、デイナイトは [映像] > [プリセット] > [露出・補正] の [デイナイト] (P. 67) の設定が優先されます。したがって、[デイナイト切り換え] で [デイモードに切り換え] または [ナイトモードに切り換え] に設定していても、[デイナイト] がその逆の設定の場合、[デイナイト切り換え] の設定は無効になります。HM4x S32VE S32D
- [映像] > [プリセット] > [露出・補正] > [デイナイト] が [オート] に設定されている場合 (P. 67)、タイマーイベント発生時に [デイナイト切り換え] は実行されません。
- カメラビューワーなどでカメラ制御権取得中に [デイナイト切り換え] によりデイナイトのモードが切り換えられた場合、カメラ制御権は解放されます。

[イベント] > [デイナイト切り換え]

イベントによるデイナイト切り換えが行われるタイミングで、あらかじめ登録したプリセットを実行し、カメラアングルや画質設定などを切り換えることができます。



デイナイト切り換え

[デイモード切り換え時のプリセット]
デイモードに変わったタイミングで、指定したプリセットを実行します。

[ナイトモード切り換え時のプリセット]
ナイトモードに変わったタイミングで、指定したプリセットを実行します。

重 要

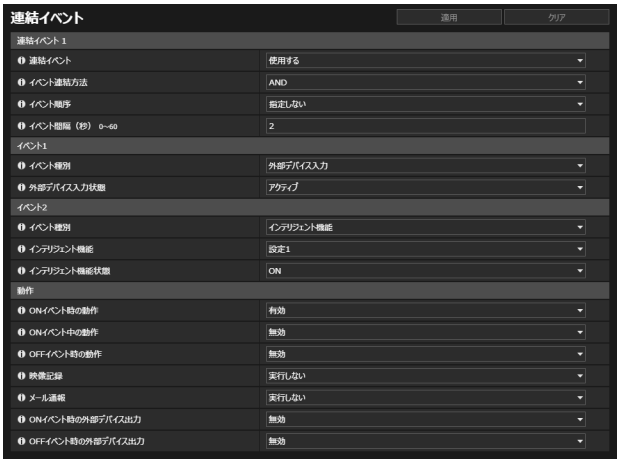
- カメラビューワーなどでカメラ制御権が取得されている場合、[デイモード切り換え時のプリセット]、[ナイトモード切り換え時のプリセット] は実行されません。

メ モ

- あらかじめ、[映像] > [プリセット] > [プリセット登録] (P. 71) で、プリセットを設定しておく必要があります。
- イベントによるデイナイト切り換えのタイミングは、[外部デバイス入力] (P. 123)、[タイマー] (P. 125) の各 [デイナイト切り換え] で設定できます。

[イベント] > [連結イベント]

2種類のイベントを組み合わせて、1つのイベントを発生させます。イベントの連結方法には、AND/ORが選択できます。
連結イベント発生時の動作に、映像記録やメール通報などを設定できます。



メ モ

- 連結イベントの状態は、カメラビューワーの [イベントと入出力メニュー] で確認できます (P. 51)。

連結イベント1～4

連結イベントは、4つまで登録できます。
組み合わせられるイベントは、[音量検知] 、[外部デバイス入力] 、[タイマー] 、[インテリジェント機能] です。

[連結イベント]
連結イベントを使用するかを選択します。

[イベント連結方法]
イベントの組み合わせ条件を選択します。
[AND] の場合、[イベント1] と [イベント2] で選択したイベント種別が両方発生すると、新たな連結イベントを発生させます。この場合、[イベント順序] と [イベント間隔] を設定します。
[OR] の場合、[イベント1] と [イベント2] で選択したイベント種別のいずれかが発生すると、新たな連結イベントを発生させます。

[イベント順序]
[イベント連結方法] が [AND] の場合、2つのイベントの発生順序を選択できます。
[指定しない] に設定した場合は、順序は考慮されません。

[イベント間隔(秒)]
[イベント連結方法] が [AND] の場合、2つのイベントの発生間隔を入力します。
1つ目のイベントが発生してから、指定時間(秒)以内に2つ目のイベントが発生した場合、新たな連結イベントが発生します。

■ イベント 1、2

連結する2つのイベントを指定します。設定内容はどちらも同じです。

[イベント種別]
組み合わせるイベントの種別を選択します。

[音量検知]
[音量検知状態] で、ONイベント、OFFイベントのどちらで連結イベントを発生させるか選択します。

[外部デバイス入力]
[外部デバイス入力] で、使用する外部デバイス入力を選択します。HM4x
[外部デバイス入力状態] で、アクティブイベント、インアクティブイベントのどちらで連結イベントを発生させるか選択します。

[タイマー]
[タイマー] で、使用するタイマーイベントの番号を選択します。

[インテリジェント機能]
[インテリジェント機能] で使用するインテリジェント機能の検知設定番号 (P. 112) を選択し、[インテリジェント機能状態] でONイベント、OFFイベントのどちらで連結イベントを発生させるか選択します。

メ モ

- [イベント1] と [イベント2] の両方に同じイベント種別を指定することはできません。ただし、[タイマー] は [タイマー 1] ～ [タイマー 4] の組み合わせで指定可能です。
  また、[外部デバイス入力] は [入力1] と [入力2] の組み合わせで指定可能です。HM4x

動作

連結イベント発生時の動作を設定します。

[ONイベント時の動作]
[有効] に設定すると、連結イベント発生 (ONイベント) 時に、[プリセット] (HM4x S32VE S32D)、[映像記録] 、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[OFFイベント時の動作]
[有効] に設定すると、連結イベント終了 (OFFイベント) 時に、[プリセット] (HM4x S32VE S32D)、[映像記録] 、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[ONイベント中の動作]
ONイベントが継続している間の動作を選択します。
[有効] に設定すると、連結イベント継続中に [映像記録] 、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[プリセット] HM4x S32VE S32D
プリセットを指定すると、連結イベントが発生した場合に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。
プリセットは、あらかじめ [映像] > [プリセット] (P. 63) で設定しておく必要があります。

メ モ

- [プリセット] は、[イベント種別] に [インテリジェント機能] が含まれる場合は設定できません。

[映像記録]
連結イベントによって映像記録を実行するかを選択します。
[実行する] に設定すると、連結イベントが発生した場合に、[映像記録] > [アップロード] > [映像記録設定] > [映像記録動作] (P. 97) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]
連結イベントによってメール通報を実行するかを選択します。
[実行する] に設定すると、連結イベントが発生した場合に、メール通報を実行します。
メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 104) を設定しておく必要があります。

[ONイベント時の外部デバイス出力]
ONイベント時の外部デバイス出力の状態を選択します。

[OFFイベント時の外部デバイス出力]
OFFイベント時の外部デバイス出力の状態を選択します。

[ONイベント時の音声再生] HM4x S32VE
[再生する] に設定すると、連結イベント発生時に、[再生音] で指定した音声を再生します。

[OFFイベント時の音声再生] HM4x S32VE

[再生する] に設定すると、連結イベント終了時に、[再生音] で指定した音声を再生します。

メ モ

- [ONイベント時の音声再生] および [OFFイベント時の音声再生] は、[イベント1]、[イベント2] の [イベント種別] に [外部デバイス入力] および [インテリジェント機能] が選択されている場合のみ設定できます。

[再生音] HM4x S32VE

[ONイベント時の音声再生] または [OFFイベント時の音声再生] が [再生する] の場合、再生音を選択します。
再生音は、あらかじめ [音声] > [音声] の再生音ファイル登録1～3 (P. 96) で登録しておく必要があります。

[音量] HM4x S32VE

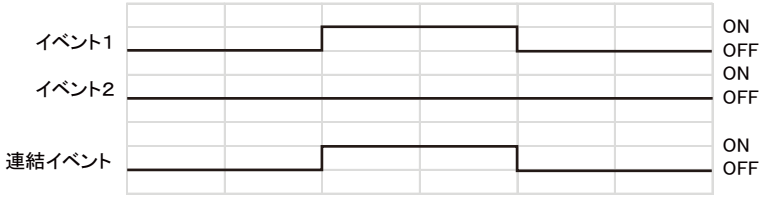
再生音の音量を入力します。

連結イベントの動作例

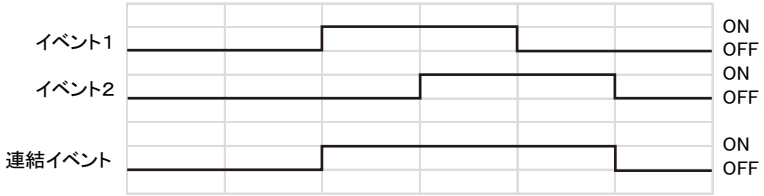
イベント1とイベント2のON/OFFの組み合わせによる、連結イベントの状態の例を示します。
なお、下記の例では、[イベント間隔] が4秒、図中のセル１マスを１秒としています。

■ [イベント連結方法] が [OR] の場合

片方のイベントのみがON



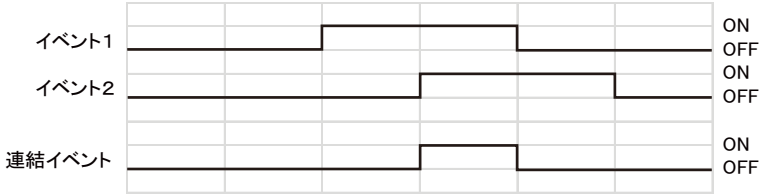
両方のイベントがON



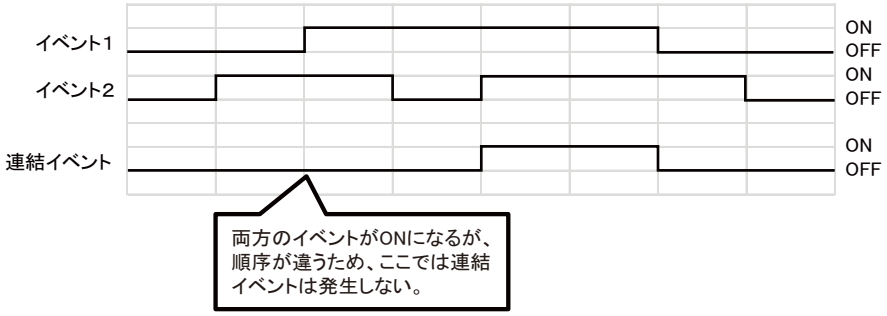
■ [イベント連結方法] が [AND]、[イベント順序] が順序ありの場合

[イベント順序] が [イベント1->2] に設定されている場合の例を示します。
[イベント順序] が [指定しない] で [イベント連結方法] が [AND] の場合は、イベント1とイベント2が逆になっても例のとおりの連結イベントになります。

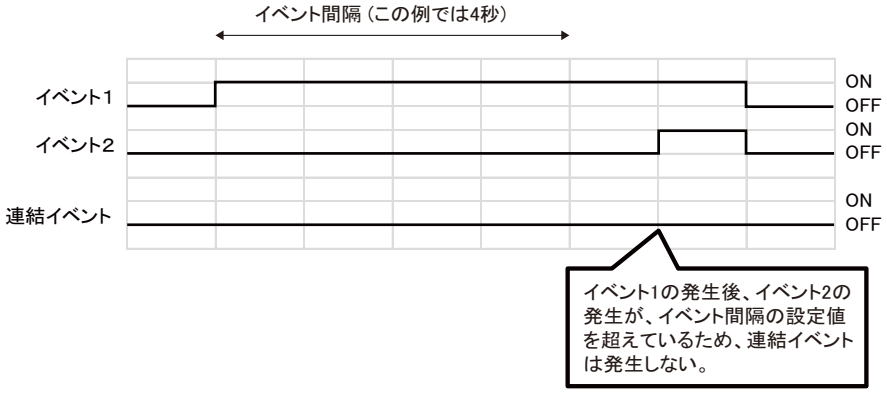
イベント発生順序が 1→2のケース



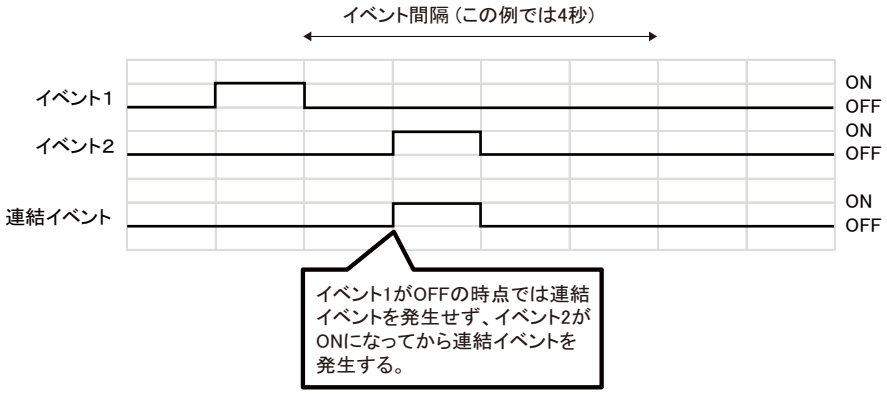
イベント発生順序が 2→1→2のケース



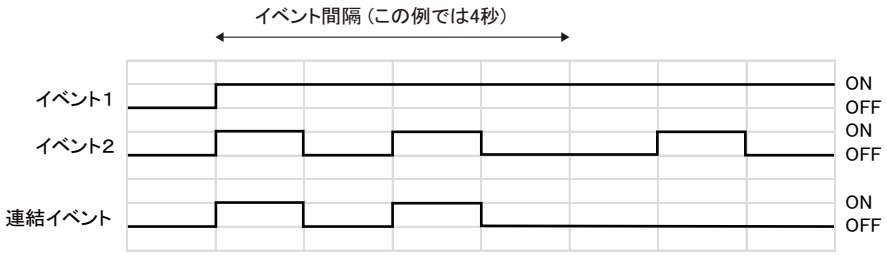
イベント2の発生がイベント間隔の設定値 ([4] 秒) を超えた場合



イベント1の各種状態が [OFF] に設定されていて、イベント2がONになるケース

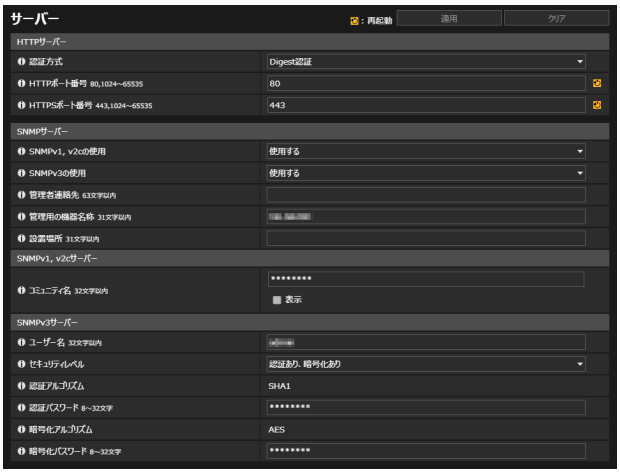


片方のイベントがON/OFFを繰り返すケース



[サーバー] > [サーバー]

HTTPサーバーおよびSNMPサーバーの使用について設定します。



HTTPサーバー

認証方式やHTTPポート番号について設定します。

重 要

- [HTTPポート番号] または [HTTPSポート番号] の設定を変更した際、起動中のWebブラウザーからカメラに接続できなくなる可能性がある場合は、確認のダイアログが表示されます。変更した設定を適用する場合は、[OK] をクリックしてください。
  カメラの再起動後、Webブラウザーからカメラに再接続できない場合、メッセージとともに、カメラに再接続するためのURIの候補があれば表示されます。
  表示されたURIでカメラに接続できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

[認証方式]
HTTPサーバーで使用する認証方式を選択します。

[HTTP ポート番号]
HTTPポート番号を入力します。
通常は、[80] (工場出荷設定) を使用してください。

[HTTPSポート番号]
HTTPSポート番号を入力します。
通常は、[443] (工場出荷設定) を使用してください。

SNMPサーバー

SNMPの使用に必要な設定を行います。

メ モ

- SNMPマネージャーから参照するカメラの情報は、読み取り専用です。
- SNMP MIB2 (RFC1213対応) がサポートされているSNMPマネージャーをお使いください。

[SNMPv1, v2cの使用]
[使用する] を選択すると、SNMPv1, v2cを使用して、SNMPマネージャーからカメラの情報を参照できます。

[SNMPv3の使用]
[使用する] を選択すると、SNMPv3を使用して、SNMPマネージャーからカメラの情報を参照できます。

[管理者連絡先]
カメラの管理者連絡先 (メールアドレスなど) を入力します。設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。

[管理用の機器名称]
カメラの管理用機器名称を入力します。設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。
空白にした場合、カメラの機種名が使用されます。

[設置場所]
カメラの設置場所の情報を入力します。設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。

SNMPv1, v2cサーバー

[コミュニティ名]
[SNMPv1, v2cの使用] で [使用する] を選択した場合、SNMPv1とv2cで使用するコミュニティ名を入力します。工場出荷設定は空値です。

SNMPv3サーバー

[ユーザー名]
[SNMPv3の使用] で [使用する] を選択した場合、SNMPv3で使用するユーザー名を設定します。

[セキュリティレベル]
SNMPv3で使用するセキュリティレベルを選択します。

[認証アルゴリズム]
[セキュリティレベル] で、[認証あり、暗号化なし] または [認証あり、暗号化あり] を選択した場合、認証アルゴリズムが表示されます。

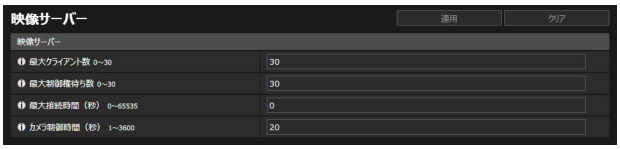
[認証パスワード]
[セキュリティレベル] で、[認証あり、暗号化なし] または [認証あり、暗号化あり] を選択した場合、認証パスワードを設定します。

[暗号化アルゴリズム]
[セキュリティレベル] で、[認証あり、暗号化あり] を選択した場合、暗号化アルゴリズムが表示されます。

[暗号化パスワード]
[セキュリティレベル] で、[認証あり、暗号化あり] を選択した場合、暗号化パスワードを設定します。

[サーバー] > [映像サーバー]

映像サーバーに接続できるクライアントについて設定します。



映像サーバー

[最大クライアント数]
カメラに同時に接続できるクライアント数の最大値を入力します。
[0] にすると、管理者以外の接続が禁止されます。

重 要

- 配信するクライアントが多い場合やSSL/TLS通信でカメラに接続している場合、カメラからの音声を受信すると、映像フレームレートが低下したり、音声が途切れたりする場合があります。

メ モ

- [最大クライアント数] を10以上に設定しても、H.264/H.265映像を表示できるクライアント数は10までです。

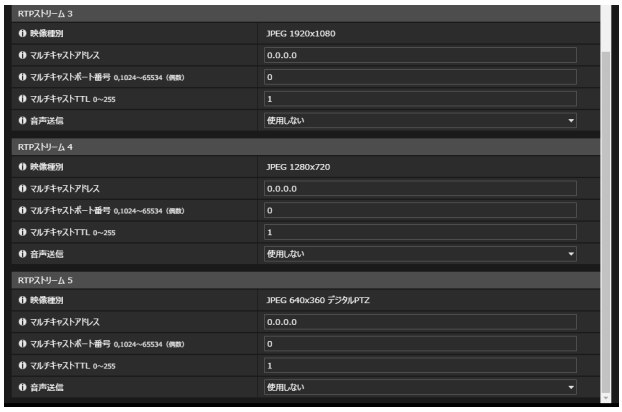
[最大制御権待ち数]
カメラビューワーからのカメラ制御権要求に対して、カメラ制御権待ちとして受け付けるクライアント数の最大値を入力します。
[0] にすると、管理者以外のカメラ制御権待ちは禁止されます。

[最大接続時間(秒)]
個々のクライアントがカメラに接続できる最大時間を秒単位で入力します。
[0] にすると、接続時間は無制限となります。

[カメラ制御時間(秒)]
カメラビューワーがカメラ制御権を保持できる最大時間を入力します。

[サーバー] > [RTPサーバー]

RTPを使用した映像および音声配信について設定します。



RTPサーバー

RTPの使用、RTSPの認証方式とポート番号について設定します。

[RTPの使用]
RTPを使用の有無を選択します。

[RTSP認証方式]
RTSPの認証方式を選択します。RTSPの認証方式はHTTPサーバーの認証方式とは独立して設定されるため、それぞれの認証方式について設定する必要があります。

[RTSPポート番号]
RTSPポート番号を入力します。
通常は、[554] (工場出荷設定) を使用してください。

音声設定 1、2

音声送信のマルチキャストについて設定します。

[音声圧縮方式]
送信する音声の圧縮方式を選択します。

[マルチキャストアドレス]
音声送信のマルチキャストアドレスを、次のように入力します。
　IPv4 : 224.0.0.0～239.255.255.255の範囲
　IPv6 : ff00::/8 で始まるアドレス
マルチキャストを無効にする場合は、IPv4では [0.0.0.0] 、IPv6では [::0(::)] に設定します。

[マルチキャストポート番号]
音声送信のマルチキャストポート番号を入力します。
[0] にすると、マルチキャストは無効になります。

[マルチキャストTTL]
マルチキャスト配信の有効範囲を入力します。
[0] にすると、マルチキャストは無効になります。
マルチキャスト配信の有効範囲を表すTTL (Time To Live) は、ルーターを越えるごとに1ずつ減算され、0になるとルーターを越えて配信することはできません。
たとえば、TTLを [1] に設定すると、ローカルセグメントのみのマルチキャスト配信となり、ルーターを越えて配信することはできません。

RTPストリーム1～5

RTPストリーム1～4 (映像ストリーム1～4) およびRTPストリーム5 (デジタルPTZ) の配信について、ストリームごとに設定します。

[映像種別]
[映像] > [映像]で設定された [映像圧縮方式] および [映像サイズ] が表示されます。

[マルチキャストアドレス]
RTPストリームのマルチキャストアドレスを、次のように入力します。
IPv4 : 224.0.0.0～239.255.255.255の範囲
IPv6 : ff00::/8 で始まるアドレス
マルチキャストを無効にする場合は、IPv4では [0.0.0.0] 、IPv6では [::0(::)] に入力します。

[マルチキャストポート番号]
RTPストリームのマルチキャストポート番号を入力します。
[0] にすると、マルチキャストは無効になります。

[マルチキャストTTL]
RTPストリームのマルチキャスト配信の有効範囲を入力します。
[0] にすると、マルチキャストは無効になります。
マルチキャスト配信の有効範囲を表すTTL (Time ToLive) は、ルーターを越えるごとに1ずつ減算され、0になるとルーターを越えて配信することはできません。
たとえば、TTLを [1] に設定すると、ローカルセグメントのみのマルチキャスト配信となり、ルーターを越えて配信することはできません。

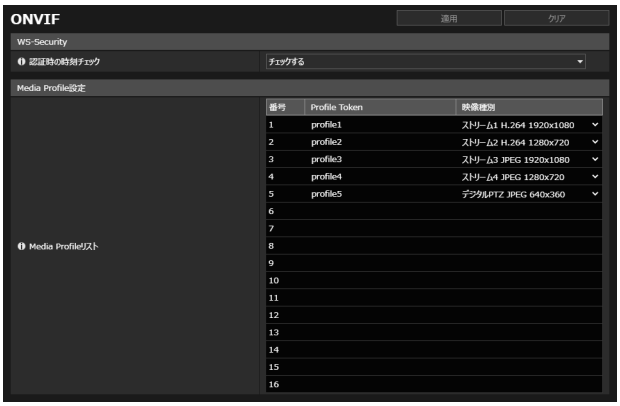
[音声送信]
RTPストリームの音声送信を使用するか選択します。
[音声] > [音声] > [音声全般] > [音声入力の使用] が [使用しない] に設定されている場合、[使用する] には設定できません。

メ モ

- RTPストリームのURL
  rtsp://IPアドレス:ポート番号/rtpstream/config1(～5)=m
  [=m] はmulticastの要求であり、省略ができます。
  注意: 実際の動作はRTPクライアントアプリケーションに依存するため、必ずしも指定の方式で送信されるわけではありません。
- H.264/H.265映像の場合、ビットレート制御、映像品質は、[映像] > [映像] の [ストリーム1] または [ストリーム2] (P. 59) での各設定が使用されます。
- [セキュリティ] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限] の [映像配信] および [音声配信] は、RTPには反映されません。
- プロキシサーバーやファイアウォールを使用している環境では、RTPストリームの映像が表示されないことがあります。この場合は、システム管理者にお問い合わせください。
- RTP over UDPでストリーム配信中のクライアントにホストアクセス制限が適用された場合は、配信停止まで数秒から数十秒時間がかかる場合があります。
- [音声] > [音声] > [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] の設定にかかわらず、音声のRTP配信は行われます。

[ONVIF] > [ONVIF]

ONVIFプロトコルでカメラを使用するときの設定を行います。



WS-Security

[認証時の時刻チェック]
クライアントから送信されたデータの時刻情報をチェックするかを選択します。

Media Profile設定

[Media Profileリスト]
Media Profileごとの映像種別を、[映像] > [映像] で設定した映像ストリームから選択します。

[セキュリティ] > [証明書管理]

証明書の作成、および管理について説明します。

サーバー /クライアント証明書の管理

サーバー /クライアント証明書を管理します。

[サーバー /クライアント証明書]
証明書をインポートします。
[ファイルを選択] をクリックしてインポートする証明書ファイルを指定し、[インポート] をクリックします。

[サーバー /クライアント証明書のパスワード]
証明書をインポートおよびエクスポートするときに使用するパスワードを設定します。

[サーバー /クライアント証明書リスト]
カメラにインストールされているサーバー /クライアント証明書の一覧です。証明書の有効期間はGMT (グリニッジ標準時) で表示されます。
証明書を選択してから、[表示]、[削除]、[エクスポート] をクリックするとそれぞれの操作を行えます。
– **[表示]** : 証明書の情報を表示
– **[削除]** : 証明書を一覧から削除
– **[エクスポート]** : 証明書の情報をエクスポート

証明書の作成

サーバー証明書を作成します。

重 要
- 自己署名証明書は、完全なセキュリティが確保されていなくても問題ない動作テストなどの場合に使用してください。本格的なシステム運用時には、CA局から発行されるサーバー証明書を取得し、インストールすることをお勧めします。

[証明書署名要求の生成]
[実行] をクリックすると、サーバー秘密鍵を作成し、証明書署名要求を生成します。
処理が終わると、別ウィンドウに証明書署名要求が表示されます。

[自己署名証明書の作成]
以降の各項目を入力し、[適用] をクリックした後、[実行] をクリックすると、自己署名証明書を作成します。
作成された証明書は、再起動後に有効になります。

メモ

- 証明書署名要求の生成や証明書の作成には時間がかかるため、映像配信やアップロードなどの処理は停止することをお勧めします。

[国名 (C)]
ISO3166-1 alpha-2の国名コードを入力します。

[都道府県名 (ST)]、[市区町村名 (L)]、[組織名 (O)]、[組織単位名 (OU)]、[一般名 (CN)]
都道府県名、市区町村名、組織名、組織単位名、一般名を半角英数字 (スペースまたは印字可能文字) で入力します。
一般名 (必須) には、FQDN形式のホスト名などを設定します。

[有効期間開始日]、[有効期間終了日]
作成する証明書の有効期間を設定します (自己署名証明書の作成時は必須)。

CA証明書の管理

CA証明書を管理します。

[CA証明書]
CA証明書をインポートします。
[ファイルを選択] をクリックしてインポートする証明書ファイルを指定し、[インポート] をクリックします。

[CA証明書リスト]
CA証明書の一覧です。証明書の有効期間はGMT (グリニッジ標準時) で表示されます。
証明書を選択してから、[表示] をクリックすると、証明書の情報が表示されます。[削除] をクリックすると、一覧から削除されます。

CRLの管理

CRL (Certificate Revocation List) を管理します。

[CRL]
CRLをインポートします。
[ファイルを選択] をクリックしてインポートするCRLファイルを指定し、[インポート] をクリックします。

[CRLリスト]
CRLの一覧です。[次回更新日] の有効期間はGMT (グリニッジ標準時) で表示されます。
CRLを選択してから、[表示] をクリックすると、CRLの情報が表示されます。[削除] をクリックすると、一覧から削除されます。

メモ

- CRLは、FTPまたはHTTPアップロード時のサーバー証明書の検証 (P. 98、P. 99) にのみ適用されます。

[セキュリティ] > [SSL/TLS]

暗号化通信およびサーバー証明書について説明します。

暗号化通信

暗号化通信の使用について設定します。

[HTTPS接続ポリシー]
HTTPS接続によるSSL/TLS通信の使用について設定します。
SSL/TLS通信を行わないときは [HTTP] を選択します。
SSL/TLS通信を行うときは [HTTPS] または [HTTP とHTTPS] を選択します。再起動後にSSL/TLSを使用した接続が可能となります。
[HTTPS] を選択したときは、HTTPアクセス時にもHTTPSにリダイレクトされ、SSL/TLS通信が行われます。

重 要

- SSL/TLS通信時は、映像配信性能が低下します。

サーバー証明書

使用するサーバー証明書を設定します。

[サーバー証明書]
[セキュリティ] > [証明書管理] > [サーバー /クライアント証明書の管理] で登録した証明書から使用するものを選択し、[選択] をクリックします。

[証明書の有効期間]
選択した証明書の有効期間が表示されます。

メ モ

- カメラで使用するサーバー証明書やカメラに接続するPCによっては、ルート証明書、中間CA証明書のインストールや、[サーバー /クライアント証明書リスト] で選択してエクスポートした証明書のインストールが必要になる場合があります。

[セキュリティ] > [802.1X]

802.1X認証の設定と認証状態の表示、証明書の管理を行います。

802.1X認証

802.1X認証の使用の有無と状態の表示を行います。

[802.1X認証の使用]
802.1X認証の使用の有無を選択します。

[認証の状態]
802.1X認証の状態を表示します。[認証済み]、[未認証]、[停止] の3つの状態があります。

認証方式

802.1X認証で使用する認証方式を設定します。

[認証方式]
802.1X認証で使用する認証方式を [EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] から選択します。

[ユーザー名]
認証に使用するユーザー名を入力します。

[パスワード]
認証に必要なパスワードを入力します。
[認証方式] が [EAP-TTLS] または [EAP-PEAP] の場合にのみ表示されます。

クライアント証明書

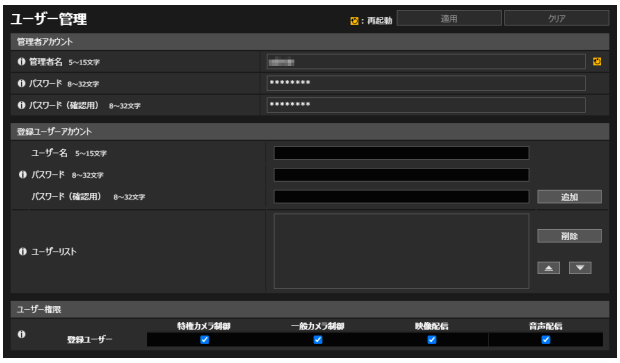
[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

[クライアント証明書]
使用するクライアント証明書を設定します。
[セキュリティ] > [証明書管理] > [サーバー/クライアント証明書の管理] で登録したクライアント証明書から使用するものを選択し、[選択] をクリックします。選択された証明書は、再起動後に有効になります。
使用中のクライアント証明書を選択して [解除] をクリックすると選択が解除されます。

[証明書の有効期間]
[クライアント証明書] で選択したクライアント証明書の有効期間が表示されます。

[セキュリティ] > [ユーザー管理]

管理者アカウントの変更、登録ユーザーの新規追加と、登録ユーザーおよび一般ユーザーの権限設定を行います。



管理者アカウント

管理者のアカウント情報を変更する場合に設定します。

重 要

- システムのセキュリティを確保するため、管理者パスワードは第三者に推測されにくいパスワードを設定してください。設定後は、パスワードを忘れないようにしてください。
- 管理者名や管理者パスワードを忘れてしまった場合は、工場出荷設定に戻してください (P. 182)。ただし、カメラの管理者アカウント・ネットワーク情報・時刻情報も含めたすべての設定が工場出荷設定に戻りますのでご注意ください。

[管理者名]
管理者名を半角英数字と “-”、“_” のみ入力できます。ただし、“-”、“_” は先頭には使用できません。

[パスワード]
管理者パスワードを入力します。
カメラビューワーなどが接続している場合は、接続を終了してからパスワードを変更してください。

[パスワード(確認用)]
上と同じパスワードを確認のため入力します。

登録ユーザーアカウント

登録ユーザーを追加します。

[ユーザー名] 、[パスワード]、[パスワード(確認用)]
ユーザー名とパスワードを入力して [追加] をクリックすると、登録ユーザーが追加されます。
ユーザー名には、半角英数字と“-”、“_” のみ入力できます。
最大50の登録ユーザーを追加できます。

[ユーザーリスト]
追加された登録ユーザーが一覧表示されます。
右側の▲▼ボタンでリストの並べ替えができます。
リストでユーザーを選択して、[削除] をクリックすると、登録ユーザーが削除されます。

ユーザー権限

カメラビューワーにアクセスするユーザーは次の3種類あります。

管理者：
すべての権限が与えられたユーザーです。
管理者アカウントで登録した管理者名とパスワードで、ビューワーにアクセスします。
管理者は、登録ユーザーおよび一般ユーザーのすべての権限を無効にすることで、登録ユーザーおよび一般ユーザーのカメラへのアクセスを完全に禁止できます。

登録ユーザー：
登録ユーザーは一般ユーザーよりも上位の権限となります。
ユーザー名とパスワードを登録する必要があります (P. 142)。

一般ユーザー：
使用できる機能が限定されたユーザーです。
ユーザー認証なしでビューワーにアクセスできます。

一般ユーザーに権限を付与するには、[システム] > [ビューワー] > [ビューワー設定] > [ユーザー認証] を [認証しない] に設定しておく必要があります。

[ユーザー権限] では、登録ユーザーと一般ユーザーの権限を設定します。
ビューワーを操作するための権限には、特権カメラ制御、一般カメラ制御、映像配信、音声配信の4つがあります。
各権限の内容と、ユーザーへの付与の可否は、次のとおりです。

権限	特権カメラ制御	一般カメラ制御	映像配信	音声配信
権限の内容	管理者に次ぐ権限で操作ができる	ビューワーの一部の操作ができる	ビューワーで映像を表示できる	ビューワーで音声を受信できる
登録ユーザーへの付与	可	可	可	可
一般ユーザーへの付与	不可	可	可	可

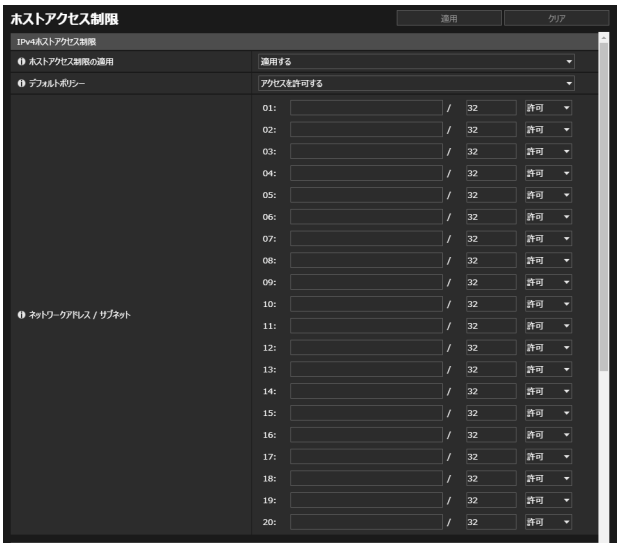
上表において、「特権カメラ制御」「一般カメラ制御」「映像配信」は、ある項目が「可」に設定された場合、その上および右側の権限付与もすべて「可」となります。同様に、ある項目が「不可」で設定された場合、その下および左側の権限付与もすべて「不可」となります。
横軸では、より強い左側の権限は、それより弱い右側の権限を伴います。ただし、音声配信は独立して設定できます。
縦軸では、登録ユーザー権限が、一般ユーザー権限以上の権限を持ちます。

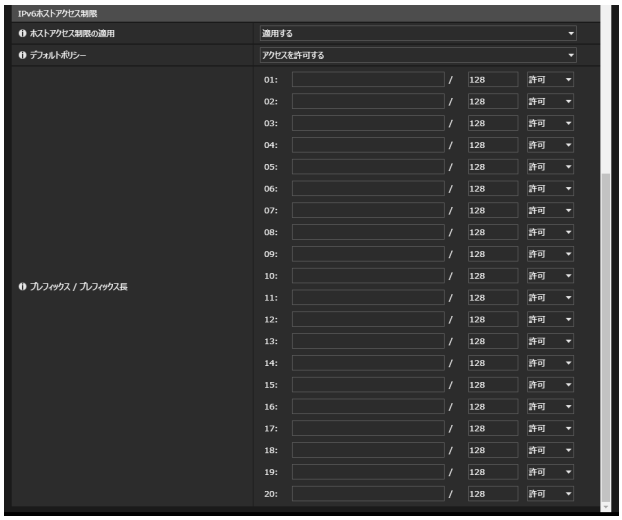
メモ

- 工場出荷設定では、登録ユーザーにすべての権限が与えられています。

[セキュリティ] > [ホストアクセス制限]

IPv4、IPv6のそれぞれのアドレスからのアクセスに対して、個別にアクセス制御を行うことができます。





重 要

- HTTP接続でプロキシサーバー経由のアクセスを禁止するには、プロキシサーバーのアドレスを設定する必要があります。
- 誤ったホスト制限設定を行うと、設定ページへのアクセス自体が禁止され、工場出荷設定に戻す以外に復旧する手段がなくなることがありますので、ご注意ください。

メ モ

- 同じアドレスが設定された場合、リスト上位の設定が適用されます。

IPv4ホストアクセス制限

IPv4のアクセスを許可するホストと禁止するホストを指定します。

[ホストアクセス制限の適用]
IPv4ホストアクセス制限を適用するかを選択します。

[デフォルトポリシー]
[ネットワークアドレス/サブネット] に指定していないIPv4アドレスからのアクセスを許可するか、禁止するかを選択します。

[ネットワークアドレス/サブネット]
IPv4のネットワークアドレスをリストに入力し、それぞれアドレスについて、アクセスの [許可] または [禁止] を選択します。
サブネットを指定することで、ネットワーク単位、またはホスト単位でのアクセス制限を設定できます。
[禁止] に設定すると、すべてのポートに対するアクセスが禁止されます。

IPv6ホストアクセス制限

IPv6のアクセスを許可するホストと禁止するホストを指定します。

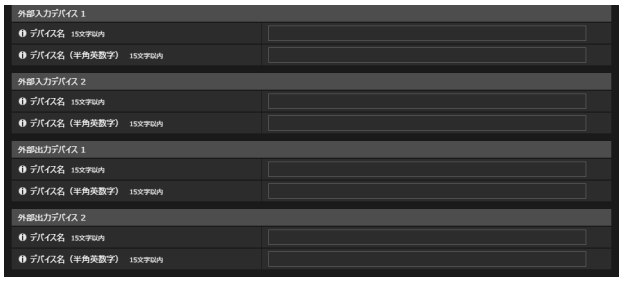
[ホストアクセス制限の適用]
IPv6ホストアクセス制限を適用するかを選択します。

[デフォルトポリシー]
[プレフィックス/プレフィックス長] に指定していないIPv6アドレスからのアクセスを許可するか、禁止するかを選択します。

[プレフィックス/プレフィックス長]
IPv6のネットワークアドレス (プレフィックス) をリストに入力し、それぞれアドレスについて、アクセスの [許可] または [禁止] を選択します。
プレフィックス長を指定することで、ネットワーク単位、またはホスト単位でのアクセス制限を設定できます。
[禁止] に設定すると、すべてのポートに対するアクセスが禁止されます。

[システム] > [システム]

カメラ名や外部入力/出力デバイス名の設定、およびカメラの動作、設置について設定します。



カメラ名

カメラ名を設定します。

[カメラ名]、[カメラ名 (半角英数字)]
任意のカメラ名を入力します。[カメラ名] は必ず入力してください。

設置条件

設置場所に合わせて、カメラの使用状態を設定します。

[ドーム] HM4x
ドームの使用を選択します。カメラ専用オプションの屋内ドームハウジングと組み合わせて使用する場合、[使用する] を選択してください。

[LEDの点灯]
カメラの動作状態を表すLEDの点灯の有無を選択します。
[点灯する] に設定した場合は、電源投入時、再起動時、通常使用時にLEDが点灯します。
[消灯する] に設定した場合は、起動時にLEDが数秒間点灯後、消灯します。
いずれの設定でも、設定値初期化中はLEDが点滅します。
カメラ専用オプションの屋内ドームハウジングをご利用の場合や、反射したLEDが撮影領域に入るなど、撮影の妨げになるときは [消灯する] に設定してください。HM4x

[映像反転]
映像表示を上下反転するかしないかを選択します。
天吊りで使用する場合や、机上に置いて使用する場合など、設置方法に応じて設定してください。

カメラ位置制御

ユーザーのカメラ制御制限や、制御権要求がない場合のカメラ動作について設定します。

[プリセットに限定] HM4x S32VE S32D
管理者以外がカメラビューワーなどでカメラ制御をする場合のカメラアングルを、ホームポジションを含むプリセット位置に限定できます。

[制御権を持たない時の動作]
カメラの制御権を誰も取得していない場合のカメラの動作を選択します。
[ホームポジションへ移動する] を選択する場合は、あらかじめ [映像] > [プリセット] > [プリセット登録] (P. 63)でカメラのホームポジションを設定しておく必要があります。

外部入力デバイス

接続した外部入力デバイスを識別するため、デバイス名を入力します。
カメラには2つの外部入力デバイス端子があります。HM4x

[デバイス名]、[デバイス名 (半角英数字)]
外部入力端子に接続したデバイス名を入力します。
[デバイス名] を入力した場合、カメラビューワーの [イベントと入出力メニュー] には [デバイス名] が優先して表示されます。

外部出力デバイス

接続した外部出力デバイスを識別するため、デバイス名を入力します。
カメラには2つの外部出力デバイス端子があります。HM4x

[デバイス名]、[デバイス名 (半角英数字)]
外部出力端子に接続したデバイス名を入力します。
[デバイス名] を入力した場合、カメラビューワーの [イベントと入出力メニュー] には [デバイス名] が優先して表示されます。

[システム] > [ビューワー]

ビューワーの起動、認証、表示に関する設定を行います。

全般

[デフォルトページ]
カメラに接続したときに、最初に表示させるページを設定ページまたはビューワーのどちらかに設定します。
管理者以外のユーザーがビューワーを使用する場合は、[デフォルトページ] を [ビューワーを表示] に設定してください。

ビューワー設定

[ユーザー認証]
ビューワーに接続するときに、ユーザー認証画面を表示させるための設定です (P. 27)。[認証する] を選択すると、管理者または登録ユーザー (P. 142) のみが接続可能になります。[認証しない] を選択すると、一般ユーザーも接続可能になるため、[セキュリティ] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限] で一般ユーザーに付与する権限を設定してください。

[映像表示の回転] S820D/S920F
[右へ90度] または [左へ90度] を選択すると、縦長の映像がカメラビューワーに表示されます。カメラを90度回転させて、縦長に撮影したい場合に使用します。

メ モ

- 映像表示の回転は、ビューワー上での回転です。設定ページの映像表示部の映像は、回転しません。また、アップロードやメモリーカード記録の映像も、回転しません。
- 映像表示を回転すると、オンスクリーン表示も一緒に回転します。

[ビューワーでのピクチャー調整]
ビューワーでフォーカス、露出およびデイナイトの調整を行うことを許可するかを選択します。

[システム] > [日付と時刻]

カメラの日付と時刻に関して設定します。

現在の日付と時刻

カメラに設定されている日付と時刻が表示されます。

設定

カメラの日付と時刻の設定方法、タイムゾーン、サマータイムを設定します。

[設定方法]
日付と時刻の設定方法を選択します。

[手動で設定する]
[日付] 、[時刻]で任意の日付と時刻を設定します。
時刻は24時間制で＜時:分:秒＞の順に入力します。

[NTPサーバーに合わせる]
表示される [NTPサーバーの自動設定] で指定したNTPサーバーの時刻に合わせます。

[NTPサーバーの自動設定]
次から設定方法を選択します。

[使用しない]
[NTPサーバー] に、NTPサーバーのIPアドレスまたはホスト名を入力します。

[DHCPを使用する]
DHCPサーバーでアドレスを取得したNTPサーバーの時刻に合わせます。[NTPサーバー (DHCP)] には、取得したNTPサーバーのアドレスが表示されます。
設定するには、[システム] > [ネットワーク] > [IPv4] > [IPv4アドレス設定方式] を [自動設定(DHCP)] にする必要があります(P. 152)。

[DHCPv6を使用する]
DHCPv6サーバーでアドレスを取得したNTPサーバーの時刻に合わせます。[NTPサーバー (DHCPv6)] には、取得したNTPサーバーのアドレスが表示されます。
設定するには、[システム] > [ネットワーク] > [IPv6] > [IPv6の使用] を [使用する] にして、[自動設定(DHCPv6)] を [有効] にする必要があります(P. 153)。

[DHCP/DHCPv6を使用する]
DHCPサーバーまたはDHCPv6サーバーでアドレスを取得したNTPサーバーの時刻に合わせます。
DHCPサーバー (IPv4) とDHCPv6サーバーの両方からNTPサーバーのアドレスが取得できる場合は、DHCPサーバー (IPv4) から取得したNTPサーバーのアドレスが使用されます。

[同期間隔 (分)]
設定したNTPサーバーへの問い合わせ間隔を入力します。

[最終同期時刻]
設定したNTPサーバーと最後に同期をした時刻が表示されます。

[このコンピューターに合わせる]
日付と時刻を、現在カメラにアクセスしているコンピューターに合わせます。[適用] をクリックした後は、[設定方法] が [手動で設定する] になります。
[タイムゾーン] は自動的に選択されませんので、必要に応じて別途設定を行ってください。

メ モ

- NTPサーバーのIPアドレスが正しくないなど、NTPサーバーに接続できない場合は、[最終同期時刻] が更新されない、または、空欄となります。

[タイムゾーン]
グリニッジ標準時との時差を選択します。
タイムゾーンを変更し [適用] をクリックすると、指定したタイムゾーンに合わせて、日付と時刻の表示が自動的に変更されます。

[サマータイム]
サマータイムを、タイムゾーンに合わせて自動調整するかしないかを選択します。

[システム] > [メモリーカード]

カメラにセットしたメモリーカードのフォーマットの実行、および記録映像の管理ファイルを再作成します。また、メモリーカードの状態を見ることもできます。
メモリーカードに映像を記録するための設定については、[映像記録] > [メモリーカード記録] (P. 101) を参照してください。

メモリーカードの操作

メモリーカードの状態 (アンマウント/マウント) によって、項目が変わります。

重 要

- カメラの電源を切る場合や、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアンマウント処理を行ってください。アンマウントしていない場合、管理ファイル異常となることや、メモリーカードへのアクセスができなくなることがあります。カメラマネジメントツールを使用すると、複数カメラのメモリーカードを一括してマウント/アンマウントの処理が行えます。

メモリーカードをカードスロットにセットすると、自動的にマウントされます。また、起動時にカメラにメモリーカードがセットされている場合も、自動的にマウントされます。

[マウント/アンマウント]
[アンマウント実行] をクリックすると、メモリーカードがアンマウント状態になります。
カメラの電源を切る場合や、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアンマウントしてください。
アンマウント状態で、[マウント実行] をクリックすると、メモリーカードがマウントされます。

[フォーマット]
[実行] をクリックすると、メモリーカードをフォーマットします。
フォーマットすると、メモリーカード内のすべてのファイルとディレクトリが削除されます。

メ モ

- フォーマットは、クイックフォーマットで行われます。

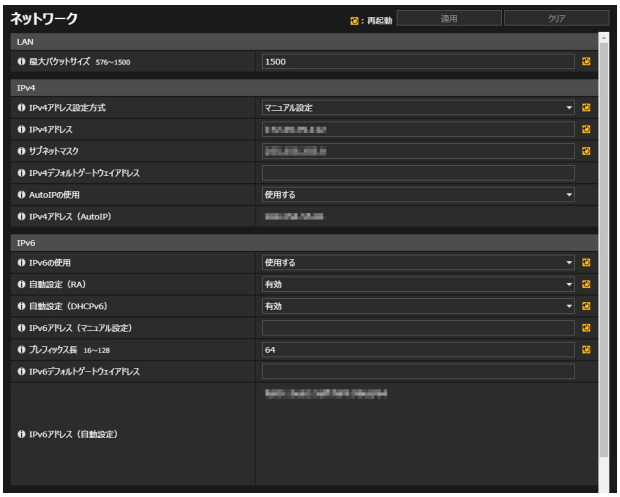
[映像管理情報の再作成]
[実行] をクリックすると、メモリーカード内に作成されている記録映像の管理ファイルを再作成します。
再作成中は、メモリーカードにアクセスできません。また、映像配信やアップロードなどの処理は、再作成中に実行しないことをお勧めします。
なお、映像管理情報の再作成は、該当するファイル数が多いほど時間がかかるため、場合によって数時間かかることがあります。

メモリーカードの情報

[映像記録] > [メモリーカード記録] > [メモリーカードの情報] (P. 103) と同じ情報が表示されます。

[システム] > [ネットワーク]

カメラを接続するネットワークについて設定します。



重 要

- ネットワークの接続に関わる設定を変更すると、起動中の Web ブラウザーからカメラに接続できなくなる可能性があります。この場合、[適用] または [適用して再起動] をクリックすると、確認のダイアログが表示されます。変更結果を適用する場合は、[OK] をクリックしてください。
  設定変更によるカメラの再起動後、Webブラウザーからカメラに再接続できない場合、カメラに再接続するためのURIの候補があれば、メッセージとともに表示されます。表示されたURIでカメラに接続できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

LAN

カメラからの送信データサイズを設定します。

[最大パケットサイズ]
カメラが送信するパケットの最大サイズを入力します。通常は1500から変更する必要はありません。
IPv6を使用する場合は、1280以上に設定する必要があります。
ADSLをご利用の場合、この数値を少し下げると、送信効率が上がる場合があります。

IPv4

カメラへの接続にIPv4を使用する場合に設定します。IPv4のアドレスは、DHCPサーバーから自動で取得するか、手動で設定できます。

重 要

- IPv4をマニュアル設定する場合の [IPv4アドレス] 、[サブネットマスク] 、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] は、システム管理者にお問い合わせください。
- [IPv4アドレス] 、[サブネットマスク] 、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] の設定のいずれかに誤りがある場合、ネットワーク経由でアクセスできなくなることがあります。この場合はカメラマネジメントツールを用いて、再度アドレスを設定してください。

[IPv4アドレス設定方式]
IPv4アドレスの設定方式を選択します。
[マニュアル設定] の場合は、[IPv4アドレス] に固定のIPv4アドレスを入力します。
[自動設定(DHCP)] の場合は、[IPv4アドレス] 、[サブネットマスク] 、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] にDHCPサーバーから取得した値が自動的に設定されます。

重 要

- IPv4アドレス設定を [自動設定(DHCP)] で使用する場合、DHCPサーバーとカメラの間にルーターがあるような環境では、IPv4アドレスが正しく割り振られない場合があります。その場合は、[マニュアル設定] を選択して固定のIPv4アドレスを設定してください。

[IPv4アドレス]
[IPv4アドレス設定方式] が [マニュアル設定] の場合、固定のIPv4アドレスを入力します。

[サブネットマスク]
[IPv4アドレス設定方式] が [マニュアル設定] の場合、ネットワークごとに指定されたサブネットマスク値を入力します。

[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス]
[IPv4アドレス設定方式] が [マニュアル設定] の場合に入力します。カメラをビューワーと異なるサブネットに接続する場合は、必ず設定してください。

[AutoIPの使用]
AutoIPの使用の有無を選択します。

[IPv4アドレス(AutoIP)]
[AutoIPの使用] が [使用する] の場合、自動的に設定されたIPアドレスが表示されます。

IPv6

カメラへの接続にIPv6を使用する場合に設定します。IPv6のアドレスは、RAまたはDHCPv6サーバーから自動で取得するか、手動で設定できます。

重 要

- IPv6を手動設定する場合の [IPv6アドレス(マニュアル設定)] 、[プレフィックス長] 、[IPv6デフォルトゲートウェイアドレス] は、システム管理者にお問い合わせください。

[IPv6の使用]
IPv6の使用の有無を選択します。

[自動設定(RA)]
RA (Router Advertisement、ルーターから自動的に送信されるネットワーク情報) を利用してアドレスを自動で設定する場合は、[有効] を選択します。

[自動設定(DHCPv6)]
DHCPv6を利用してアドレスを自動で設定する場合は、[有効] を選択します。

[IPv6アドレス(マニュアル設定)]
アドレスを手動で設定する場合、固定のIPv6アドレスを入力します。

[プレフィックス長]
アドレスを手動で設定する場合のプレフィックス長を入力します。

[IPv6デフォルトゲートウェイアドレス]
デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。カメラをビューワーと異なるサブネットに接続する場合は、必ず設定してください。

[IPv6アドレス(自動設定)]
[IPv6の使用] が [使用する] で、[自動設定(RA)] と [自動設定(DHCPv6)] が [有効] の場合、自動的に取得したアドレスが表示されます。

メ モ

- IPv6が使用できない環境では、IPv6を [使用する] 、自動設定を [有効] に設定した場合、[IPv6アドレス(自動設定)] 表示欄にはリンクローカルアドレスのみが表示されます。

DNS

DNSサーバーのアドレスを設定します。DNSサーバーのアドレスは手動設定するか、DHCP/DHCPv6サーバーから自動で取得します。

[ネームサーバーアドレス 1]、[ネームサーバーアドレス 2]
登録したいネームサーバーアドレスを入力します。1つしか登録しない場合は、[ネームサーバーアドレス 2] は空欄のままにしてください。

メ モ

- [ネームサーバーアドレス 1] が使用できない場合は、[ネームサーバーアドレス 2] にアクセスします。ただし、[ネームサーバーアドレス 2] が事前に設定されていることが前提です。

[ネームサーバーアドレスの自動設定]
ネームサーバーアドレスを自動で設定する場合、使用するサーバーを選択します。
[DHCPを使用する] に設定する場合、[IPv4アドレス設定方式] を [自動設定(DHCP)] (P. 152) にしてください。
[DHCPv6を使用する] に設定する場合、[IPv6の使用] を [使用する] にして、[自動設定(DHCPv6)] を [有効] (P. 153) にしてください。

[ネームサーバーアドレス(DHCP)]
[ネームサーバーアドレスの自動設定] が [DHCPを使用する] または [DHCP/DHCPv6を使用する] の場合、DHCPサーバーから取得したネームサーバーアドレスが表示されます。

[ネームサーバーアドレス(DHCPv6)]
[ネームサーバーアドレスの自動設定] が [DHCPv6を使用する] または [DHCP/DHCPv6を使用する] の場合、DHCPv6サーバーから取得したネームサーバーアドレスが表示されます。

[ホスト名]
カメラのホスト名を、ネームサーバーに半角英数字で登録できます。

[ホスト名のDDNS登録]
FQDN形式の [ホスト名] を入力して [登録する] を選択すると、ホスト名がネームサーバーに登録されます。
[IPv4アドレス設定方法] を [自動設定(DHCP)] (P. 152)にして運用する場合、ホスト名をDDNSへ登録すると便利です。あらかじめDNSサーバーに登録を行うための設定が必要です。DNSサーバーの設定についてはシステム管理者にお問い合わせください。

[サーチドメイン]
サーチドメインリストにドメイン名を追加する場合、ドメイン名を入力して [追加] をクリックします。
サーチドメインリストにドメイン名が指定されていると、アップロードなどのサーバー指定でドメイン名なしのホスト名を指定するだけで、ホスト名＋ドメイン名の形で扱われます。

[サーチドメインリスト]
[サーチドメイン] で追加されたドメイン名が一覧表示されます。
DNSサーバーに対して、このリストのドメイン名の上から順に問い合わせが行われます。
右側の▲▼ボタンでドメイン名の並び順を変更することができます。
ドメイン名を削除する場合は、ドメイン名を選択して [削除] をクリックします。

mDNS

マルチキャストDNSの使用について設定します。mDNSを使用すると、カメラのIPアドレスとホスト名の情報を、ネットワーク上の他のホストに通知します。

[mDNSの使用]
mDNSの使用の有無を選択します。

[メンテナンス] > [全般]

ファームウェアバージョンなどのカメラ情報の確認や、カメラのシステムのメンテナンスを行います。

機器情報

[機種名]、[ファームウェアバージョン]、[シリアル番号]、[ビルド番号]、[MACアドレス]
カメラの各情報が表示されます。

表示と実行

カメラの設定やライセンスの表示、およびカメラの再起動を行います。

[現在の設定を見る]
設定ページの現在の各設定を一覧表示します。

[ソフトウェア使用許諾契約書を見る]
ソフトウェア製品の使用許諾契約書を一覧表示します。

[第三者のソフトウェアライセンス条件を見る]
第三者ソフトウェアのライセンス情報を一覧表示します。

[再起動]
カメラを再起動します。

初期化

カメラを初期化します。

重 要

- [初期設定に戻す] の実行中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源を切ると、正常に起動しなくなる場合があります。
- 一度 [OK] をクリックすると、初期設定に戻す処理は中断できません。

[ネットワーク設定および管理情報]
[保持する] に設定した場合、次の設定を残して初期化します。

- HTTPサーバー
- 証明書
- SSL/TLS
- 管理者名
- 管理者パスワード
- ホストアクセス制限

- NTPサーバー
- タイムゾーン
- ネットワーク設定

[保持しない] に設定した場合、カメラの日付と時刻を除くすべての設定を初期化します。
ネットワーク設定が初期化されるため、カメラに接続できなくなります。カメラマネジメントツールを使って、初期設定を行ってください。

[初期設定に戻す]
再起動後、[ネットワーク設定および管理情報] の選択に従って、初期設定に戻します。

メ モ

- [初期設定に戻す] の [実行] をクリックする前に、現在の各設定値をバックアップすることをお勧めします。
- リセットスイッチを使用して工場出荷設定に戻すことができますが、カメラの日付と時刻を除くすべての設定が工場出荷設定に戻りますのでご注意ください (P. 182)。

[メンテナンス] > [バックアップ/リストア]

カメラのすべての設定値を保存/復元します。

バックアップ/リストア

バックアップとリストアに関する設定をします。

重 要

- [設定値のバックアップ] または [設定値のリストア] の実行中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源を切ると、正常に動作しなくなる場合があります。

[保存先]
バックアップ時のカメラの設定値の保存先を選択します。

[設定値のバックアップ]
日付と時刻以外のすべての設定値をバックアップします。管理者アカウント、SSL/TLS、802.1Xで使用する証明書、秘密鍵ファイルも含めてバックアップを行います。

[設定値のリストア]
日付と時刻以外のすべての設定値を、[設定値のバックアップ] で作成したバックアップファイルからリストアします。
[保存先] で [PC] を選択した場合は、[参照] をクリックしてバックアップファイルを指定します。
管理者アカウント、IPアドレス、SSL/TLSおよび802.1Xで使用する証明書、秘密鍵ファイルも含めてリストアします。
リストア後、カメラは再起動します。

重 要

- 別のカメラのバックアップファイルからリストアした場合、ネットワーク上でアドレスが衝突したり、異なる管理者パスワードに上書きされ、カメラに接続できなくなるなどの問題が発生する可能性がありますのでご注意ください。
- 設定値をリストアするときは、リストアするカメラより新しいファームウェアバージョンで作成したバックアップファイルを使用しないでください。

[暗号化パスワード]
バックアップおよびリストア時に使用するパスワードを設定します。バックアップデータそのものを暗号化するためのパスワードです。
暗号化されたバックアップデータからリストアするときは、バックアップ時に設定したパスワードを入力します。

メ モ

- バックアップ時に設定されたパスワードとリストア時に設定されたパスワードが一致しない場合は、リストア処理は行われません。

[メンテナンス] > [ファームウェア更新]

ファームウェアの更新を行います。

機器情報

[機種名]、[ファームウェアバージョン]
カメラの情報が表示されます。

ファームウェア更新

ファームウェア更新に関する設定をします。

重 要
- [ファームウェア更新] の実行中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源を切ると、正常に動作しなくなる場合があります。

[初期設定に戻す]
ファームウェアの更新時に初期設定に戻します。
[戻す] に設定した場合、次の設定を残して初期化します。
- HTTPサーバー
- 証明書
- SSL/TLS
- 管理者名
- 管理者パスワード
- ホストアクセス制限
- NTPサーバー
- タイムゾーン
- ネットワーク設定

[ファームウェア更新]
[ファイルを選択] をクリックして、更新用のファームウェアファイルを指定し、[実行] をクリックします。確認メッセージが表示されるので、[OK] をクリックするとファームウェア更新が始まります。
ファームウェアの更新後、カメラは再起動します。

[メンテナンス] > [環境]

システム周波数、WDR、インテリジェント機能の設定をしたり、フレームレートの最大値を表示します。

環境

初期設定で設定した [環境] の内容を変更できます。

[システム周波数 (Hz)]
システム周波数を変更します。

[WDR]
WDRの効果の強さを変更します。
WDRを使用すると、明暗差の大きいシーンでも、白飛びや黒つぶれを抑制して明るい部分と暗い部分のどちらも見えやすい映像を撮影できます。
[無効] 以外では、フレームレートが制限されることがあります。[最大フレームレート (fps)] で設定できるフレームレートを確認してください。HM4x S820D/S920F

[インテリジェント機能]
インテリジェント機能を使用するかを変更します。使用する場合、フレームレートが制限されることがあります。[最大フレームレート (fps)] で設定できるフレームレートを確認してください。

[最大フレームレート (fps)]
[システム周波数 (Hz)]、[WDR]、[インテリジェント機能] の設定に応じた、フレームレートの最大値を表示します。

重 要

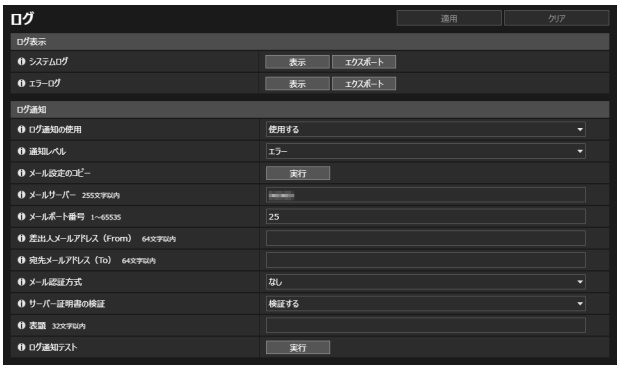
- [環境] の設定を変更したときは、[映像]、[映像記録]、[検知]、[イベント] の各項目を見直すことをお勧めします。

メ モ

- [環境] の設定に応じて、H.264またはH.265の映像ストリームに指定するフレームレートの選択肢が決まります。

[メンテナンス] > [ログ]

カメラの動作や接続の履歴を確認したり、ログメッセージのメール送信を設定します。



ログ表示

カメラの動作および接続の履歴を表示します。

[システムログ]、[エラーログ]
[表示] をクリックすると、カメラ起動時からのログメッセージが表示されます。
[ダウンロード] をクリックすると、メッセージ一覧をファイルでダウンロードできます。
ログメッセージについては、「ログメッセージ一覧」(P. 168) を参照してください。

ログ通知

ログ通知に使用するメールサーバーとメールアドレスを設定します。

[ログ通知の使用]
[使用する] を選択すると、ログ通知に関する以下の設定項目が表示されます。

[通知レベル]
ログの通知レベルを選択します。
ログメッセージのレベルは「カメラのログメッセージ」(P. 168) を参照してください。

[メール設定のコピー]
[映像記録] > [メール通報] (P. 104) で使用しているメール設定をコピーします。ただし、[パスワード] はコピーされません。

[メールサーバー]
SMTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[メールポート番号]
SMTPサーバーのポート番号を入力します (工場出荷設定は [25])。

[差出人メールアドレス (From)]
メール発信するアドレスを入力します。

[宛先メールアドレス (To)]
メール受信するアドレスを入力します。

[メール認証方式]
送信先SMTPサーバーに合わせて、認証方式を選択します。

[ユーザー名] 、[パスワード] 、[POPサーバー]
メール認証方式を [POP before SMTP] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワード、POPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

メール認証方式を [SMTP-AUTH] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

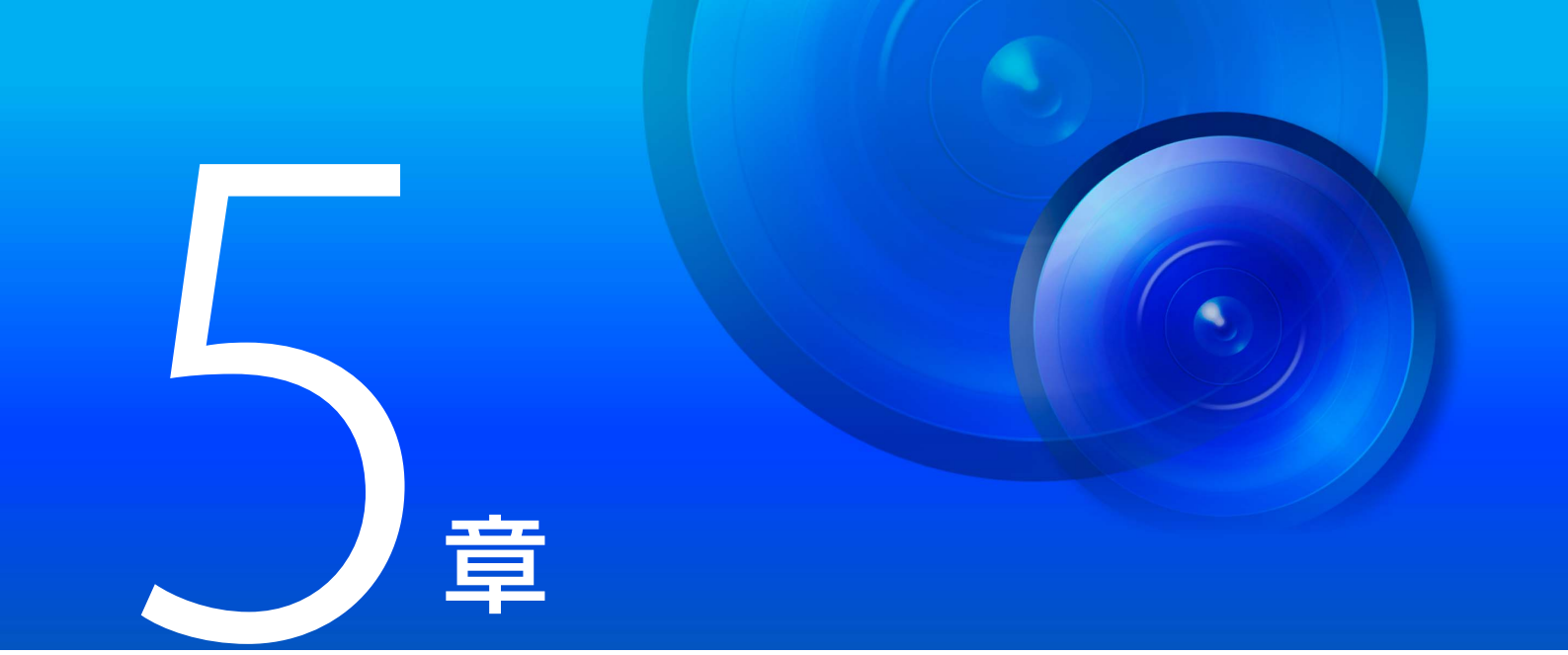
[サーバー証明書の検証]
サーバー証明書の検証をするかを設定します。

メ モ

- サーバー証明書の検証を行うためには、[セキュリティ] > [証明書管理] > [CA証明書の管理] で検証に必要なCA証明書をインポートしておく必要があります。

[表題]
メール送信時の表題を半角英数字で入力します。

[ログ通知テスト]
[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してログ通知テストを行います。
[メール認証方式] が [なし] 以外の場合、[パスワード] を入力後、[適用] をクリックする前に [実行] をクリックしてください。



付録

カメラの機能に関する補足事項と、カメラの使用時にトラブルが発生した場合やメッセージなどが表示された場合の対処方法を説明します。また、カメラを工場出荷時の設定にリセットする方法も説明します。

修飾子について

設定項目によっては、修飾子'% 文字'によるパラメーター記述が可能です。

修飾子	意味	記入される文字列の内容
%n	撮影理由 (番号)	0 (テスト)｜ HM4x 1 (外部デバイス入力1)｜2 (外部デバイス入力2)｜ S32VE S32D S820D/S920F 1 (外部デバイス入力)｜ 33 (タイマー 1)｜34 (タイマー 2)｜35 (タイマー 3)｜36 (タイマー 4)｜145 (音量検知)｜ 161 (インテリジェント機能検知設定1)｜ 162 (インテリジェント機能検知設定2)｜163 (インテリジェント機能検知設定3)｜ 164 (インテリジェント機能検知設定4)｜165 (インテリジェント機能検知設定5)｜ 166 (インテリジェント機能検知設定6)｜167 (インテリジェント機能検知設定7)｜ 168 (インテリジェント機能検知設定8)｜169 (インテリジェント機能検知設定9)｜ 201 (連結イベント1)｜202 (連結イベント2)｜203 (連結イベント3)｜204 (連結イベント4)
%N	撮影理由 (文字列)	<外部デバイス入力名 (半角英数字) >｜インテリジェント機能検知設定名 (半角英数字)｜NULL (空白文字/インターバルタイマー・テストの場合)
%O	撮影理由 (ON/OFF)	OFF｜ON
%X	画像の幅	横方向の画素数
%Y	画像の高さ	縦方向の画素数
%C	カメラ番号	1
%D	カメラ名	[カメラ名 (半角英数字)] の設定値
%P	パン位置	HM4x S32VE S32D -180.00 ～ 180.00 S820D/S920F 0
%T	チルト位置	HM4x S32VE S32D -90.00 ～ 90.00 S820D/S920F 0
%Z	ズーム位置	0.01 ～ 300.00
%R	ローテーション位置	0
%V	カメラサーバー	VB-H47/VB-M46/VB-S32VE/VB-S32D//VB-S820D/VB-S920F
%y	撮影時刻の年	2001 ～ 2031
%g	撮影時刻の年 (下二桁)	01 ～ 31
%m	撮影時刻の月	01 ～ 12
%d	撮影時刻の日	01 ～ 31
%w	撮影時刻の週日	0 ～ 6 (日曜～土曜に対応)
%H	撮影時刻の時	00 ～ 23
%M	撮影時刻の分	00 ～ 59
%S	撮影時刻の秒	00 ～ 59
%s	撮影時刻のミリ秒	000 ～ 999
%z	撮影時刻のタイムゾーン	-1200 ～ +1300
%a	撮影時刻の週日名	Sun ｜ Mon ｜ Tue ｜ Wed ｜ Thu ｜ Fri ｜ Sat
%b	撮影時刻の月名	Jan ｜ Feb ｜ Mar ｜ Apr ｜ May ｜ Jun ｜ Jul ｜ Aug ｜ Sep ｜ Oct ｜ Nov ｜ Dec
%h	ホスト名	

メ モ

- 未定義の文字については、'%'が削除されます。

■ 利用可能な修飾子について

各設定項目で利用可能な修飾子は、次のとおりです。

【FTPアップロード】(P. 98)
[作成サブディレクトリ名]
利用可能な修飾子は、%y、%m、%d、%w、%H、%h、%n のみです。
[作成ファイル名]
利用可能な修飾子は、%y、%m、%d、%w、%H、%M、%S、%s、%n のみです。

【HTTPアップロード】(P. 99)
[パラメーター (query string)]
すべての修飾子が利用可能です。

【メール通報】(P. 104)
[本文]
すべての修飾子が利用可能です。

トラブルシューティング

販売店や裏表紙に記載のお問い合わせ先に連絡する前に、次のことを確認してください。ログメッセージが表示されている場合は、ログメッセージ一覧の内容と対策を参考にしてください。

メ モ

- カメラマネジメントツール、録画映像ユーティリティ、モバイルカメラビューワーのトラブルシューティングについては、各使用説明書を参照してください。
- セキュリティソフトウェアが原因となって、問題が発生する場合があります。ご利用のセキュリティソフトウェアで、カメラや問題が発生したソフトウェアの除外設定を行ってください。

問題	対処方法
カメラが起動しない	• PoE対応ハブをご使用の場合、LANケーブルが正しく接続されているか確認してください。 • ACアダプター (オプション) をご使用の場合、ACアダプターが正しく接続されているか確認してください。HM4x • 電源を入れ直してください (『設置ガイド』参照) 。
カメラに接続できない	• LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 • カメラのネットワークが正しく設定されているか確認してください。特にIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスについては利用しているネットワークで使用可能な設定か確認してください。 • IP アドレスの変更を行った場合には、カメラが再起動するまで有効になりません。 • Web ブラウザーに入力しているURI (カメラのIP アドレス) が正しいか確認してください。 • 設定ページの [セキュリティ] > [ホストアクセス制限] (P. 144) で、アクセスが禁止されたPCから接続していないか確認してください。 • 設定ページの [セキュリティ] > [802.1X] (P. 141) で、使用する認証方式や、[ユーザー名]、[パスワード]、証明書の組み合わせが、接続するネットワークルールに合っているか、システム管理者に確認してください。 • ご利用のセキュリティソフトウェアで、カメラや問題が発生したソフトウェアの除外設定を行ってください。
カメラビューワーが起動できない	•「ご使用のWebブラウザーには対応していません。」と表示される場合は、Chrome の弊社動作確認済みバージョンをご使用ください。 •「JavaScriptが使用できないか無効化されています。」と表示される場合は、[コントロールパネル] の [ネットワークとインターネット] > [インターネット オプション] > [セキュリティ] > [レベルのカスタマイズ] をクリックし、[アクティブ スクリプト] を [有効にする] に設定してください。 • 登録ユーザーおよび一般ユーザーがカメラビューワーを使用するには、設定ページで次の設定をしてください。 – [セキュリティ] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限] で一般ユーザー /登録ユーザーに [一般カメラ制御] もしくは [映像配信] を付与する – [システム] > [ビューワー] > [全般] > [デフォルトページ] を [ビューワーを表示] に設定する – 一般ユーザーも使用できるようにするには、[システム] > [ビューワー] > [ビューワー設定] > [ユーザー認証] で [認証しない] に設定する • インターネット接続環境下でカメラビューワーを起動したときに、発行元不明によるファイルブロックのセキュリティ警告が表示された場合は、最新の状態にWindowsUpdate実施後、カメラビューワーを再度起動してください。
カメラビューワーで一部機能が使用できない	•「カメラのIP アドレスを信頼済みサイトとして追加する」(P. 21) の手順に従い、[セキュリティ] 設定で、このWebサイトを [信頼済みサイト] に追加し、信頼済みサイトの保護モードを無効にしてください (Windows Serverを使用していない場合も同様に行ってください)。

問題	対処方法
映像が表示されない	• カメラに同時にアクセスできるクライアント数 (最大30) やH.264/H.265映像を表示できるクライアント数には制限があります (P. 134)。 制限を超えた場合には映像が表示されずにメッセージが表示されます。 • 登録ユーザーや一般ユーザーで [映像配信] の権限が付与されていない場合は、映像を表示できません。管理者に問い合わせて、設定ページの [セキュリティ] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限] の [映像配信] を付与してもらうようにしてください。 •「この環境では設定した映像が表示できません。」と表示される場合は、「動作環境」(P. 17) を確認してください。またH.265映像を表示するにはHTTPSで接続する必要があります。 • ご利用のセキュリティソフトウェアで、カメラや問題が発生したソフトウェアの除外設定を行ってください。
音声が利用できない	• 音声が利用できない場合は、設定ページの [音声] > [音声] の設定を確認していただくとともに、PC のサウンドとオーディオデバイスの設定もご確認ください。 • 登録ユーザーや一般ユーザーで [音声配信] の権限が付与されていない場合は、音声を利用できません。管理者に問い合わせて、設定ページの [セキュリティ] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限] の [音声配信] を付与してもらうようにしてください。 • 次の状態のとき、カメラから無音が送信されるため、マイクからの入力音声は聞こえません。HM4x – 設定ページの [音声] > [音声] > [音声サーバー] で、[パン・チルト中のミュート] を [ミュートする] に設定時、カメラのパン・チルトが動作している間 S32VE – 設定ページの [音声] > [音声] > [音声全般] で、[音声通信方式] を [半二重]に設定時、ビューワーからカメラに音声を送信している、または音声ファイル再生中 • ご利用のセキュリティソフトウェアで、カメラや問題が発生したソフトウェアの除外設定を行ってください。
カメラ制御ができない	• カメラビューワーに管理者として接続すると、カメラ制御権を占有します。登録ユーザーまたは一般ユーザーとして接続すると、管理者がカメラ制御権を解放しない限り、カメラ制御ができません (P. 28)。管理者に相談してください。 • パン・チルト動作の耐久目安を超えると、パン、チルト、フォーカス、ズームが正常に動作しなくなる場合があります (P. 36)。S32VE S32D
ビューワーの接続が切れる	• ネットワークやPC に異常がないか確認してください。 • PC を再起動し、接続してください。 • パノラマ画像の作成中は、登録ユーザーまたは一般ユーザーからの接続は切断されます。HM4x S32VE S32D • ご利用のセキュリティソフトウェアで、カメラや問題が発生したソフトウェアの除外設定を行ってください。
管理者のアカウント情報を忘れてしまった	• リセットスイッチ (P. 182) を用いて、カメラの日付と時刻以外のすべての設定を初期化できます。初期化後は、カメラマネジメントツールを使って、管理者アカウントを再登録してください。また、ネットワーク設定も初期化されますので、IP アドレスやサブネットマスクなどの再設定も必要です。
アップロードできない	• 設定ページの [映像記録] > [アップロード] でのアップロード先の設定と、[イベント] メニューでのイベントに対するアップロード動作の両方の設定が、正しくされているか確認してください。 • 適用済みのアップロード先の設定は、設定ページの [映像記録] > [アップロード] にある、各サーバーのアップロードテスト (P. 97) を実行することで、動作確認できます。 • [メンテナンス] > [ログ] > [ログ表示] の [システムログ] および [エラーログ] やサーバー側のログを見て、詳細な動作環境を確認してください。ログ表示については、「ログメッセージ一覧」の「アップローダーエラー」(P. 171)、「アップローダー警告」(P. 174)、「アップローダー通知」(P. 178) を参照してください。また、P. 97 の「重要」も参照してください。 • サーバー側の設定については、システム管理者にお問い合わせください。

問題	対処方法
メモリーカードに映像を記録できない	• 設定ページの [映像記録] > [メモリーカード記録] または [システム] > [メモリーカード] の [メモリーカードの情報] (P. 103、P. 151) を確認してください。 • メモリーカードの空き容量が不足していて、かつ、設定ページの [映像記録] > [メモリーカード記録] > [メモリーカードの操作] > [映像の上書き] (P. 102) が [無効] になっている場合は、映像を記録できません。[映像の上書き] を [有効] にするか、不要になった映像を録画映像ユーティリティで削除してください。 • イベント発生時にメモリーカードに記録する場合は、設定ページの [映像記録] > [メモリーカード記録] > [映像記録設定] で、[映像記録動作] の設定を確認してください。 [映像記録動作] が [アップロード] になっている場合は、[メモリーカードに記録] に変更してください。 • ネットワーク異常のために配信できなかった録画ストリームの映像、またはFTP/HTTPアップロードに失敗した映像がメモリーカードに記録されていない場合は、設定ページの [映像記録] > [メモリーカード記録] > [メモリーカードの操作] で、[動作設定] の設定を確認してください。[動作設定] が [ログを保存する] になっている場合は、[ログと映像を保存する] に変更してください。 • 手動でメモリーカードに記録するときは、カメラ制御権を取得してください。
ファイルが保存できない	• OSが、一部のフォルダへの保存を禁止しているため、ファイルの保存に失敗する場合があります。[ドキュメント] や [ピクチャ] など、ほかのフォルダを指定してください。

ログメッセージ一覧

カメラのログメッセージ

設定ページの [メンテナンス] > [ログ] > [ログ表示] (P. 160)で表示されるログメッセージの一覧です。
ログメッセージは、次のように分類されています。

分類	レベル	コード	障害の程度
crit	エラー	4xx	ソフトレベルの異常 (タスク動作停止)
err	エラー	3xx	動作に支障のある異常 (動作継続)
warning	警告	2xx	動作に支障のない異常
notice	警告	1xx	システム外部の異常
info	情報	0xx	正常動作に関する情報

メ モ

- 約2時間ログに記録される内容がない場合は、メッセージエリアに "-- MARK --" と記録されます。

エラーログ

■ システムエラー

S302 設定値の保存エラー [err]

内容	Can't update system settings (S302)
意味	システムで設定値を保存する際にエラーがあった。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S303 設定値の保存エラー [err]

内容	Can't update files of system settings (S303)
意味	システムで設定値を保存する際にエラーがあった。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S307 設定値の保存エラー [err]

内容	(vbadmin.c XXX) Can't update system settings (S307)
意味	設定プロトコルで設定値を保存する際にエラーがあった。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S310 イベントサービスの動作エラー [err]

内容	cannot work event [%1][%2][%3] (S310)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	イベントサービス動作中のエラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S311 外部入出力サービスの動作エラー [err]

内容	cannot work extio [%1][%2][%3] (S311)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	外部入出力デバイスサービス動作中のエラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S312 タイマーサービスの動作エラー [err]

内容	cannot work timer [%1][%2][%3] (S312)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	タイマーサービスの内部エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S320 PAN/TILT動作エラー [err]

内容	%1 error occurred. [%2] (S320)
%1	PAN｜TILT
%2	警告詳細情報
意味	PAN/TILT動作中または停止時にエラーを検出した。
対策	カメラがドームなどに接触していないか確認する。 接触などの問題がない場合は故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S410 イベントサービスの初期化エラー [crit]

内容	event initialization error [%1][%2] (S410)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	イベントサービスの初期化エラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S411 外部入出力サービスの初期化エラー [crit]

内容	extio initialization error [%1][%2] (S411)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	外部入出力デバイスサービスの初期化エラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S412 タイマーサービスの初期化エラー [crit]

内容	timer initialization error [%1][%2] (S412)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	タイマーサービスの初期化エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S413 タイマーサービスのランタイムエラー [crit]

内容	timer working error [%1] (S413)
%1	エラー番号
意味	タイマーサービス動作中にエラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S420 外部接点制御デバイスの故障 [crit]

内容	external io controller is broken.(S420)
意味	外部接点制御デバイスの故障。
対策	外部接点制御デバイスのファームウェアアップデートが必要。ファームウェアアップデート後も検出される場合、故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ オーディオサーバーエラー

B301 オーディオデバイス異常 [err]

内容	cannot use audio device for %1[%2:%3] (B301)
%1	送受信種別 (rx｜tx)
%2	エラー処理 (open｜write｜flush)
%3	エラー番号
意味	オーディオデバイスの異常を検出した。
対策	自動的に復旧しなければ、販売店へ連絡が必要。

B402 オーディオサーバー初期化失敗 [err]

内容	wvaudio initialization error [%1] (B402)
%1	エラー番号
意味	オーディオサーバーの初期化に失敗した。オーディオサーバーは停止する。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

B403 設定変更失敗 [err]

内容	cannot set config [%1:%2] (B403)
%1	エラー通番
%2	エラー番号
意味	設定値の更新に失敗した。オーディオサーバーは停止する。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ カメラアプリエラー

C301 デイナイト変更時のエラー [err]

内容	Detect IRCF error %1 (C301)
%1	エラー番号
意味	デイナイト変更 (赤外線カットフィルター挿抜) 時に異常が発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ ビデオエラー

V300 ビデオ入力のエラー [err]

内容	video %1 warning - %2 (V300)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力がカメラの動作に支障のある異常を検出した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V320 インテリジェントサービスの内部エラー [err]

内容	cannot work intelligent [%1][%2][%3]. (V320)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	インテリジェントサービスの内部エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V321 インテリジェントサービス仮設定モードエラー [err]

内容	pseudo mode setting fail. (V321)
意味	インテリジェントサービスの仮設定モードの設定変更に失敗した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V400 ビデオ入力の初期化エラー [crit]

内容	video %1 initialization failure - %2(%3) (V400)
%1	ビデオ番号
%2	処理内容
%3	エラー詳細
意味	ビデオ入力の初期化に失敗したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V401 ビデオ入力のコマンドエラー [crit]

内容	video %1 command error - %2(%3) (V401)
%1	ビデオ番号
%2	処理内容
%3	エラー詳細
意味	ビデオ入力のコマンド処理に失敗したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V402 ビデオ入力停止 [crit]

内容	video %1 stalled (V402)
%1	ビデオ番号
意味	ビデオ入力からの映像が停止したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V403 ビデオ入力のエラー [crit]

内容	video %1 fatal error - %2 (V403)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力が復旧不可能なエラーを検出したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V420 インテリジェントサービスの起動失敗 [crit]

内容	intelligent initialization error [%1][%2]. (V420)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	インテリジェントサービスの初期化に失敗した
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V421 インテリジェントサービスのエラー [crit]

内容	intelligent working error [%1][%2]. (V421)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	インテリジェントサービスの動作中に復旧不可能なエラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ アップローダーエラー

A470 アップローダー初期化失敗 [crit]

内容	uploader initialization failure - %1 (A470)
%1	エラー番号
意味	アップローダーの初期化が失敗した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ メモリーカードエラー

M301 メモリーカード制御モジュールのエラー [err]

内容	%1 process failure (M301)
%1	マウント (mount) またはアンマウント (unmount)
意味	マウント、アンマウント処理に失敗した。

M302 不正ファイルを削除できない [err]

内容	Invalid file (%1) can not remove. (M302)
%1	削除ファイル名
意味	不正なファイルを削除できなかった。

M303 ディレクトリの処理ができない [err]

内容	Can not open directory(%1)(M303)
%1	ディレクトリ名
意味	処理すべきディレクトリを開くことができない

M304 管理情報再作成に失敗した [err]

内容	Fail updating management file(%1)(M304)
%1	管理情報識別番号
意味	管理情報再作成処理に失敗した。

M305 映像ファイルの書き込み時にエラーが発生 [err]

内容	write error %1 (%2) (M305)
%1	映像ファイルパス
%2	エラー理由
意味	映像ファイルの書き込み時にエラーが発生した。

M400 メモリーカードの初期化に失敗 [crit]

内容	Fail SD card initialization(%1).(M400)
%1	カード初期化NG (det)、電源制御NG (proc)
意味	メモリーカードの初期化に失敗した。

■ ONVIFエラー (RTP)

R301 配信間通信エラー [err]

内容	message queue open error. %1 (R301)
%1	エラー発生モジュール RTP_CTRL_QUEUE RTP_DATA_QUEUE VIDEO_CTRL_QUEUE VIDEO_DATA_QUEUE AUDIO_CTRL_QUEUE AUDIO_DATA_QUEUE EVENT_CTRL_QUEUE RECVQ_META SENDQ_MEDIA
意味	モジュール間通信のエラー。
対策	複数回連続で出力され、かつ再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

R302 設定値取得失敗 [err]

内容	cannot get parameter: %1 (R302)
%1	user_account : ユーザーアカウント IP_address : 本機のIPアドレス profile_media_configuration : MediaConfigurationの情報 RTSP_port_number : RTSPのポート番号
意味	設定値取得失敗。

R303 メタデータ配信初期化失敗 [err]

内容	metadata initialization error (R303)
意味	メタデータ配信初期化失敗。

R304 クライアント異常終了 [err]

内容	delete session from some kind of error: client_IP=%1, session_ID=%2 (R304)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	セッションID
意味	クライアント異常終了。

R304 クライアントからの切断 [err]

内容	connection reset by peer: client_IP=%1 (R304)
%1	クライアントのIPアドレス
意味	クライアントから切断された。

R304 クライアントからの切断 [err]

内容	RTP/HTTP connection closed by client (R304)
意味	クライアントから切断された。

R305 RTSP処理内で異常発生 [err]

内容	RTSP Error: error_code=500: Internal Server Error (R305)
意味	RTSP処理内で異常発生。

警告ログ

■ システム警告

S220 PAN/TILT動作警告 [warning]

内容	%1 warning detected. [%2] (S220)
%1	PAN｜TILT
%2	警告詳細情報
意味	PAN/TILT動作中または停止時に異常を検出した。
対策	カメラがドームなどに接触していないか確認する。

■ HTTPサーバー警告

H143 ユーザー名の指定異常 [notice]

内容	(http_auth.c.XXX) get_password failed, IP:%1 (H143)
%1	IPアドレス
意味	ユーザー認証で未知のユーザーが指定された。なお、Microsoft Edge以外のWebブラウザーを使用している場合は、通常操作においても本ログメッセージが表示されることがある。

H144 パスワードの指定異常 [notice]

内容	(http_auth.c.XXX) password doesn't match for %1 username%2, IP:%3 (H144)
%1	URL XSS脆弱性対策実施 (ftpd 同等の処理)
%2	ユーザー名
%3	IPアドレス
意味	ユーザー認証で誤ったパスワードが指定された。

H201 タイムアウトによる切断 [warning]

内容	a request for %1 timed out after writing %d seconds (H201)
%1	リクエストURI
%d	360 (タイムアウト時間)
意味	HTTPサーバーのタイムアウト(360秒)により切断された。

■ wvhttp警告

W101 不正ユーザー名 [notice]

内容	user <ユーザー名> not found (W101)
意味	登録されていないユーザーによるアクセス。

W102 不正パスワード [notice]

内容	user <ユーザー名> password mismatch (W102)
意味	パスワードが不正。

W130 バッファの回復 [notice]

内容	stream buffer recovered (W130)
意味	録画ストリームの映像バッファが回復した。

W201 不正なパノラマ画像[warning]

内容	corrupt panorama image - ignored (W201)
意味	パノラマ画像の情報取得に失敗した。

W230 バッファオーバーフロー [warning]

内容	stream buffer overflowed (W230)
意味	録画ストリームの映像バッファがオーバーフローし、映像が破棄された。

■ オーディオサーバー警告

B101 異常リクエストの受信 [notice]

内容	%1 unusual request[%2] (B101)
%1	クライアントホストのIPアドレス
%2	異常種別 (400｜404)
意味	コマンドエラー (400)、パラメータエラー (404) により、リクエストを拒否した。

B102 クライアントの接続拒否 [notice]

内容	%1 request denied[%2] (B102)
%1	クライアントホストのIPアドレス
%2	拒否種別 (41｜43｜…)
意味	認証エラー (41)、時間指定エラー (42)、リソース不足 (43)、非対応コーデック指定 (45)、非許容ユーザーレベル指定 (47)、クライアント数制限 (49)、動作モード (4a) により、クライアントの接続を拒否した。
対策	41 : 接続時のユーザー名、パスワード、もしくはユーザーリストを確認する。 42 : 接続時のplaytime、もしくは最大接続時間設定を確認する。 43 : 再接続または再起動する。 45 : 対応しているクライアントソフトを用いる。 47 : 接続時のuserlevelを確認する。 49 : クライアント数設定を確認する。 4a : オーディオサーバーを使用する設定になっているか確認する。

B103 クライアントの強制切断 [notice]

内容	%1 access denied[%2] (B103)
%1	クライアントホストのIPアドレス
%2	拒否種別 (41｜42｜4a)
意味	開始時は接続が許可されていたが、設定変更によってアクセス禁止となったため、強制的に切断された (拒否種別はB102と同じ)。

B201 イベント通知失敗 [warning]

内容	cannot notify %1 event [%2] (B201)
%1	イベント種別 (ald)
%2	エラー番号
意味	イベントの通知に失敗した。

B202 イベント受信失敗 [warning]

内容	cannot recv event [%1] (B202)
%1	エラー番号
意味	イベントの受信に失敗した。

B203 オーディオメッセージ送信失敗 [warning]

内容	audio message send error %1 [%2] (B203)
%1	メッセージ種別
%2	エラー番号
意味	オーディオメッセージの送信に失敗した。

B204 オーディオメッセージ受信失敗 [warning]

内容	audio message recv error [%1:%2] (B204)
%1	エラー通番
%2	エラー要因
意味	オーディオメッセージの受信に失敗した。

■ カメラアプリケーション警告

C201 デイナイト切り換えの警告 [warning]

内容	Can't switch Day/Night mode, because current mode is Auto.(C201)
意味	デイナイト切り換えができなかった。
対策	デイナイトモードをマニュアルにする。

C211 カメラ制御コマンドのオーバーフロー [warning]

内容	command queue overflowed (C211)
意味	カメラ制御コマンドのキューがオーバーフローし、コマンドの一部が破棄された。
対策	カメラ制御コマンドを送信する間隔を長めに(200msec) とってください。

■ ビデオ警告

V200 ビデオ入力の警告 [warning]

内容	video %1 warning - %2 (V200)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力が復旧可能な異常を検出した。
対策	画像サイズ、映像品質を変更し、JPEG画像1枚あたりのデータを小さくする。

■ アップローダー警告

A120 アップロード送信先の名前解決失敗 [notice]

内容	uploader cannot resolve the server name (A120)
意味	アップロード送信先の名前解決に失敗。

A121 アップロード送信先の接続失敗 [notice]

内容	uploader cannot connect to the server (A121)
意味	アップロード送信先への接続に失敗。

A122 アップロード送信先の接続失敗 [notice]

内容	uploader cannot connect to the server (A122)
意味	A120、A121以外の原因で、アップロード送信先への接続に失敗。

A134 アップロードの設定値不正 (FTP/HTTPモード) [notice]

内容	ftp/http mode invalid. uploader set <none> forcibly (A134)
意味	アップロード方式の設定値不正。アップロードしない、に強制的にセットした。

A135 アップロードの設定値不正 (FTPのPORT/PASVモード) [notice]

内容	ftp port/pasv mode invalid. uploader set <pasv> forcibly (A135)
意味	FTPアップロードにおけるPORT/PASVモードの設定値不正。PASVモード、に強制的にセットした。

A136 アップロードの設定値不正 (HTTPの通知のみ/画像付きモード) [notice]

内容	http notice/image mode invalid. uploader set <image> forcibly (A136)
意味	HTTPアップロードにおける通知のみ/画像付きモードの設定値不正。画像付きモード、に強制的にセットした。

A137 アップロードの設定値不正 (メール通知) [notice]

内容	mode invalid. uploader set <none> forcibly (A137)
意味	メール通知の設定値不正。メール通知しない、に強制的にセットした。

A138 アップロードの設定値不正 (メール通知の認証方式) [notice]

内容	authentication mode invalid. uploader set <smtp auth> forcibly (A138)
意味	メール通知の認証方式の設定値不正。SMTP_AUTH、に強制的にセットした。

A274 アップロード用イベントバッファあふれ [warning]

内容	event queue is full (A274)
意味	アップロード用イベントバッファがあふれた。
対策	イベント発生数を低減するように調整する。

A275 アップロード用映像バッファあふれ [warning]

内容	buffer queue is full (A275)
意味	アップロード用映像バッファがあふれた。
対策	イベント発生数を低減するように調整する。また、アップロード用の画質、映像サイズ、フレームレートを調整する。

■ メモリーカード警告

M201 メモリーカードの書き込み禁止 [warning]

内容	Readonly filesystem (M201)
意味	書き込み禁止のメモリーカードが挿入された。

M203 メモリーカード容量不足 [warning]

内容	There is not available space (M203)
意味	メモリーカードの使用可能容量が不足している。

M204 不正ファイルの削除 [warning]

内容	Invalid file (%1) was removed. (M204)
%1	削除ファイル名
意味	不正なファイルの削除を行った。

M205 管理情報ファイルのチェック [warning]

内容	%1 checking management file (M205)
%1	Start｜Finish
意味	アンマウントせずにメモリーカードを抜かれた可能性がある。管理情報ファイルのチェックを開始/終了する。

M206 不正な管理情報を削除した [warning]

内容	Invalid db information(%1)(%2) was removed(M206)
%1	不正情報のあった管理情報ファイル名
%2	不正情報のID
意味	不正な管理情報を削除した。

M207 アンマウント操作なしでのメモリーカード抜け [warning]

内容	Memory card was pulled before unmount. (M207)
意味	メモリーカードがマウント状態のときにカード抜けが発生した。

■ ONVIF警告 (RTP)

R101 RTPセッションタイムアウト [notice]

内容	session timeout: session ID=%1 (R101)
%1	セッションID
意味	RTPセッションタイムアウトが発生。

R102 情報取得失敗 (RTPペイロードサイズ) [notice]

内容	cannot get parameter: RTP_payload_size (R102)
意味	情報取得失敗(RTPペイロードサイズ)。

R102 情報取得失敗 (IPアドレス) [notice]

内容	cannot get parameter: IP_address (R102)
意味	情報取得失敗(IPアドレス)。

R103 RTSP認証失敗 [notice]

内容	RTSP authorization error (R103)
意味	RTSP認証失敗。

R107 RTSP接続の失敗 [notice]

内容	RTSP Error: error_code=%d: Service Unavailable (R107)
%d	400: RTSPオプションの指定が不正な値。 401: RTSP認証失敗または認証情報の不備。 457: RTSPの再生時間指定の値が不正。 501: 非対応のRTSPオプションが指定された。 503: リソースの不足でサービスの提供に失敗。RTPの最大接続数を超えた場合など。
意味	RTSP接続に失敗。

■ システム通知

S001 システムの起動 [info]

内容	starting paramd (S001)
意味	パラメーター管理モジュールの起動。

S002 システムの設定変更 [info]

内容	Updated system settings. (S002)
意味	再起動なしの設定変更があった。

S010 イベントサービスの起動 [info]

内容	starting event (S010)
意味	イベントサービスの起動

S011 イベントサービスの停止 [info]

内容	shutdown event (S011)
意味	イベントサービスの停止

S012 外部デバイスサービスの起動 [info]

内容	starting extio (S012)
意味	外部デバイス入出力サービスの起動

S013 外部デバイスサービスの停止 [info]

内容	shutdown extio (S013)
意味	外部デバイス入出力サービスの停止

S014 タイマーサービスの起動 [info]

内容	starting timer (S014)
意味	タイマーサービスの起動

S015 タイマーサービスの停止 [info]

内容	shutdown timer (S015)
意味	タイマーサービスの停止

S017 qtimerサービスの起動または停止 [info]

内容	%1 qtimer (S017)
%1	starting (起動) | stopping (停止)
意味	qtimerの起動と停止

S050 有線LANインターフェースにIPv4アドレスを付与 [info]

内容	IPv4 Address %1 %2 was assigned to the wired I/F (S050)
%1	設定したIPv4アドレス
%2	DHCPv4アドレスの場合“from router”
意味	有線LANにIPv4アドレスを設定した。

S051 有線LANインターフェースにIPv6アドレスを付与 [info]

内容	IPv6 Address %1 %2 was assigned to the wired I/F (S051)
%1	設定したIPv6アドレス
%2	DHCPv6/RAアドレスの場合“from router”
意味	有線LANにIPv6アドレスを設定した。

S054 有線LANインターフェースのIPv4アドレスを解放 [info]

内容	IPv4 Address %1 %2 was released from the wired I/F (S054)
%1	解放したIPv4アドレス
%2	DHCPv4アドレスの場合“from router”
意味	有線LANのIPv4アドレスを解放した。

S055 有線LANインターフェースのIPv6アドレスを解放 [info]

内容	IPv6 Address %1 %2 was released from the wired I/F (S055)
%1	解放したIPv6アドレス
%2	DHCPv6/RAアドレスの場合“from router”
意味	有線LANのIPv6アドレスを解放した。

S070 証明書の変更 [info]

内容	ssl: succeeded to %1 certificate (S070)
%1	作成 (generate) | インポート (import) | 削除 (delete) | エクスポート (export)
意味	証明書の作成/インポート/削除/エクスポートを行った。

■ wvhttp通知

W001 システムの起動と停止 [info]

内容	%1 webview (W001)
%1	starting (起動)	stopping (停止)
意味	wvhttpサーバー (webview)の起動と停止。

W030 WebView Livescopeクライアントの開始と終了 [info]

内容	%1%2 host=<ホスト>, user=<ユーザー >, prio=<優先度> (W030)
%1	W : WebViewセッション、V : セッションレスビデオクライアント、N : セッションレスイベントクライアント。
%2	+ : 接続、- : 切断
意味	カメラサーバクライアントの接続と切断。

W031 映像データ送信量 [info]

内容	%1= host=<ホスト>, user=<ユーザー >, video=<jpg|h264>:<フレーム数> (W031)
%1	W : WebViewセッション、V : セッションレスビデオクライアント
意味	クライアント切断時に、クライアントに送信した総データ量をフレーム数で表示。

W040 外部メモリへの退避 [info]

内容	%1 the image storing - %2 (W040)
%1	starting (起動) | stopping (停止)
%2	開始・終了原因
意味	録画ストリームの外部メモリへの退避が開始または終了した。

■ オーディオサーバー通知

B001 オーディオサーバーの起動と停止 [info]

内容	%1 audio. (B001)
%1	starting (起動) | stopping (停止)
意味	オーディオサーバーが起動/停止した。

B011 オーディオクライアントの開始 [info]

内容	[%1] %2 connected n=%3 (B011)
%1	クライアント種別(send | recv)
%2	クライアントホストのIPアドレス
%3	総クライアント数
意味	オーディオクライアントが接続した。

B012 オーディオクライアントの終了 [info]

内容	[%1] %2 closed n=%3 (B012)
%1	クライアント種別(send | recv)
%2	クライアントホストのIPアドレス
%3	総クライアント数
意味	オーディオクライアントとの接続が切れた。

■ カメラアプリケーション通知

C001 カメラ制御モジュールの起動と停止 [info]

内容	%1 camerad (C001)
%1	starting (起動) | stopping (停止)
意味	カメラ制御モジュールが起動/停止した。

C002 カメラアプリケーションの起動と停止 [info]

内容	starting cameraappl (C002)
意味	カメラアプリケーションが起動した。

■ ビデオ通知

V001 ビデオサーバーの起動と停止 [info]

内容	%1 video (V001)
%1	starting (起動) | stopping (停止)
意味	ビデオサーバーの起動と停止。

V020 インテリジェントサービスの起動 [info]

内容	starting intelligent. (V020)
意味	インテリジェントサービスの起動

V021 インテリジェントサービスの停止 [info]

内容	shutdown intelligent. (V021)
意味	インテリジェントサービスの停止

■ アップローダー通知

A004 アップローダーの起動と停止 [info]

内容	%1 uploader (A004)
%1	starting (起動) | stopping (停止)
意味	アップローダー (uploader)の起動と停止。

A040 アップロード回数 (MAIL) [info]

内容	uploader mail: normal=%1 test=%2 (A040)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

A041 アップロード回数 (FTP) [info]

内容	uploader ftp: normal=%1 test=%2 (A041)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

A042 アップロード回数 (HTTP) [info]

内容	uploader http: normal=%1 test=%2 (A042)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

■ メモリーカード通知

M001 メモリーカード制御モジュールの起動と停止 [info]

内容	%1 sdctrl (M001)
%1	starting (起動) | stopping (停止)
意味	メモリーカード制御モジュール (sdctrl) の起動と停止。

M002 有効な管理情報を追加した [info]

内容	Valid db information(%1)(%2)(%3) was inserted(M002)
%1	有効な情報を追加する管理情報ファイル名
%2	有効な情報のディレクトリ番号
%3	有効な情報のファイル番号
意味	有効な映像ファイルと思われるため管理情報に追加した。

M003 管理情報再作成を開始/終了した [info]

内容	%1 updating management file(%2)(M003)
%1	Start | Finish
%2	管理情報識別番号
意味	管理情報再作成処理が終了した。

■ ONVIF通知 (RTP)

R001 RTP配信モジュールの起動 [info]

内容	starting media_plane (R001)
意味	RTP配信モジュールの起動。

R002 RTP配信モジュールの停止 [info]

内容	stopping media_plane (R002)
意味	RTP配信モジュールの停止。

R003 RTSPのPLAY受信 [info]

内容	PLAY received: client_IP=%1, profile=%2, num_of_sessions=%3(V=%4, A=%5, M=%6,BC=%7) (R003)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	PLAYを要求されたProfile名
%3	クライアントの総セッション数
%4	Videoストリームの総配信数
%5	Audioストリームの総配信数
%6	Metadataストリームの総配信数
%7	AudioBackChannelの総配信数
意味	RTSPのPLAY受信。

R004 RTSPのTEARDOWN受信 [info]

内容	TEARDOWN received: client_IP=%1, profile=%2, num_of_sessions=%3(V=%4, A=%5, M=%6,BC=%7) (R004)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	TEARDOWNを要求されたProfile名
%3	クライアントの総セッション数
%4	Videoストリームの総配信数
%5	Audioストリームの総配信数
%6	Metadataストリームの総配信数
%7	AudioBackChannelの総配信数
意味	RTSPのTEARDOWN受信。

R005 マルチキャスト開始 [info]

内容	start multicast: profile=%1, num_of_sessions=%2(V=%3, A=%4, M=%5,BC=%6) (R005)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	MulticastStreamingのSTARTを要求されたProfile名
%3	Videoストリームの総配信数
%4	Audioストリームの総配信数
%5	Metadataストリームの総配信数
%6	AudioBackChannelの総配信数
意味	マルチキャスト開始。

R006 マルチキャスト停止 [info]

内容	stop multicast: profile=%1, num_of_sessions=%2(V=%3, A=%4, M=%5,BC=%6) (R006)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	MulticastStreamingのSTOPを要求されたProfile名
%3	Videoストリームの総配信数
%4	Audioストリームの総配信数
%5	Metadataストリームの総配信数
%6	AudioBackChannelの総配信数
意味	マルチキャスト停止。

ビューワーメッセージ一覧

インフォメーション表示に表示されるメッセージ

カメラビューワーのインフォメーション表示に表示されるメッセージには、次の3つの分類があります。

アイコン	分類	説明
	情報メッセージ	各種ボタン、プルダウンなどのヘルプ用メッセージ、フレームレート情報などを表示します。
	警告メッセージ	カメラの制御権が取得できない場合や音声セッションが切断された場合など、ユーザーへの注意を促すメッセージを表示します。
	エラーメッセージ	ビューワー上でシステムエラーが発生した場合に表示されます。

■ 警告メッセージ

メッセージ	説明
JavaScriptが使用できないか無効化されています。	WebブラウザーのJavaScriptが使用できなかった
映像管理情報を再作成中です。	メモリーカードの映像管理情報が再作成中の場合
映像受信権限がありません。	映像受信権限がないユーザーでカメラに接続しようとした
オーディオデバイスがありません。	PCのオーディオデバイスがない場合や無効化されていた場合に [音声受信] ボタン、または [音声送信] ボタンがクリックされた
音声受信が制限されています。	[音声] > [音声] > [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] が [送信しない] に設定されている状態で、[音声受信] ボタンをクリックした [音声通信方式] が [半二重] に設定されている状態で、音声受信が行われているときに [音声配信] ボタンをクリックした S32VE
音声送信が制限されています。HM4x S32VE	[音声] > [音声] > [音声サーバー] > [ビューワーからの音声受信] が [受信しない] に設定されている状態で、[音声送信] ボタンをクリックした [音声] > [音声] > [音声全般] > [音声通信方式] が [半二重] に設定されている状態で、音声受信が行われているときに [音声配信] ボタンをクリックした
音声送受信の開始または終了処理中です。	音声送受信開始、終了処理中に音声送受信開始、終了を行おうとした
カメラ制御権を取得してください。	カメラ制御権がないのにカメラ操作しようとした
カメラ制御権を取得できません。	管理者が占有しているなどの理由で制御権要求が拒否された
カメラに接続していません。	カメラに接続していないのにカメラ操作しようとした
この環境では設定した映像が表示できません。	H.264/H.265映像を表示できないWebブラウザーを使用しているHTTP接続でH.265映像を表示しようとした
ご使用のWebブラウザーには対応していません。	動作環境がサポート外のWebブラウザーでカメラビューワーを起動した
既に他のユーザーが管理者接続しています。	管理者が既に接続している
制御権取得待ち状態です。	一般ユーザーが制御権の取得待ち状態に入った場合
選択した映像はこの環境では表示できません。表示できる映像に変更しました。	選択した映像ストリームが表示できない使用環境だった場合
ただいま混雑しています。	設定した [最大クライアント数] を超えている

メッセージ	説明
ただいま混雑しています。表示できる映像に変更しました。	H.264/H.265映像を表示できるクライアント数を超えている
デジタルPTZまたはビューワー PTZを開始してください。S820D/S920F	デジタルPTZおよびビューワー PTZがOFFの状態で、パンチルトスライダーまたはズームスライダー、映像表示部をクリックした
デジタルPTZおよびビューワー PTZを終了しないとカメラを操作できません。HM4x S32VE S32D	デジタルPTZまたはビューワー PTZがONの状態で映像表示部をクリックした
ビューワー PTZを終了しないとカメラを操作できません。HM4x S32VE S32D	ビューワー PTZがON の状態で映像表示部をクリックした
マニュアルモードが設定されているため、操作できません。	[露出] が [マニュアル] のとき、[逆光補正] ボタン、もしくは露出補正を操作しようとした
無限遠固定モードが設定されているため、操作できません。HM4x S32VE S32D	[フォーカス] が [無限遠固定] のときに、フォーカスを操作しようとした
メモリーカードの容量が不足しています。	メモリーカードの空き容量が不足した状態で手動録画した
メモリーカードへの録画が許可されていません。	[メモリーカードの操作] の [動作設定] が [ログと映像を保存する] に設定されていないことが原因で、メモリーカードへの録画に失敗した
ユーザー認証に失敗しました。	ユーザー認証に失敗した、または、登録ユーザー接続時に、[ユーザー権限] で登録ユーザーの [音声配信] を外してから [音声送信] ボタンをクリックした

工場出荷設定に戻す

設定値を忘れてしまったなどで、カメラを一から設定し直したい場合は、いったん工場出荷設定に戻してください。
工場出荷設定に戻す前に、設定ページの [メンテナンス] > [バックアップ/リストア] を使用して、バックアップファイルを作成しておくことをお勧めします (P. 157)。

重 要

- 工場出荷設定に戻すと、管理者アカウントも初期化されるため、カメラに接続できなくなります。カメラマネジメントツールを使って、初期設定を行ってください。

メ モ

- 設定値のバックアップは、カメラマネジメントツールでもできます。カメラマネジメントツールの詳しい使いかたは、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。
- 工場出荷の設定値についてはP. 184を参照してください。

Web ブラウザーから初期設定に戻す

設定ページの [メンテナンス] > [全般] > [初期化] > [ネットワーク設定および管理情報] > [保持しない] で戻します (P. 155)。

本体リセットスイッチで工場出荷設定に戻す

カメラのIPアドレスや管理者のアカウント情報が不明であったり忘れてしまった場合は、ネットワーク経由での操作ができません。この場合は、カメラのリセットスイッチを押してカメラを初期化します。
前準備として、カメラをリセットできる状態にしてください。

1 トップカバーを外す S32VE

トップカバーの外しかたについては、『設置ガイド』を参照してください。

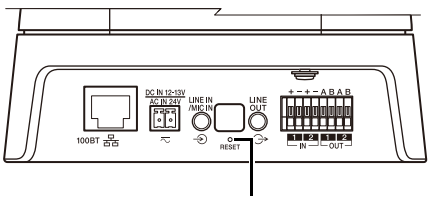
2 カメラの電源を切る

カメラには電源スイッチがありません。LANケーブル (PoE給電) や電源ケーブル HM4x を抜き差しすることで、電源の入/切をします。

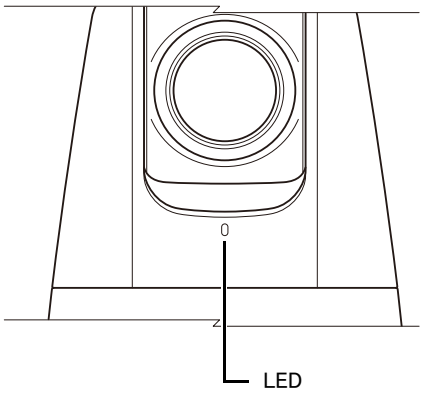
3 リセットスイッチを押したまま電源を入れ、LEDの点灯を確認後、約5秒後にリセットスイッチを離す

リセットスイッチは穴の奥にあります。クリップの先端など、細いもので押してください。
LEDの点滅が終わったら、リセット完了です。
カメラの日付と時刻以外の全設定が工場出荷設定に戻ります。

VB-H47、VB-M46

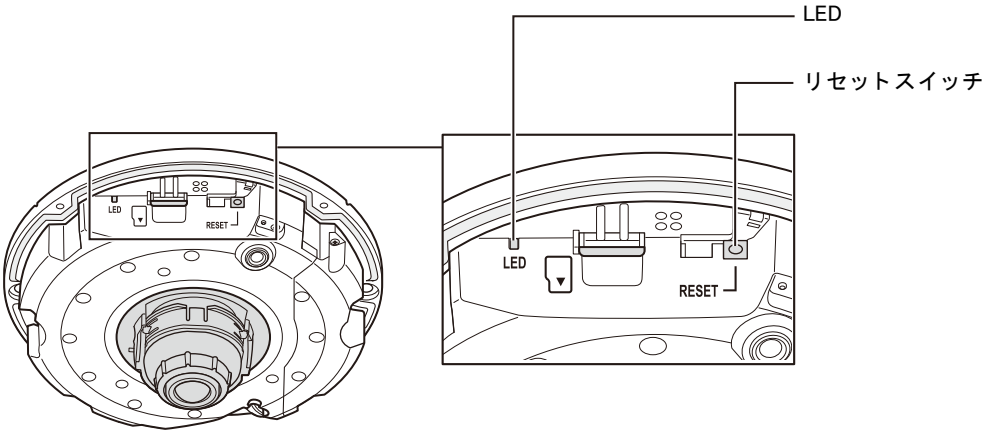


リセットスイッチ

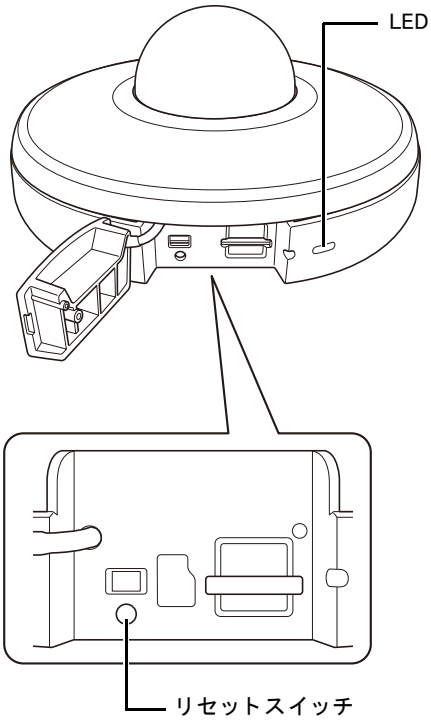


LED

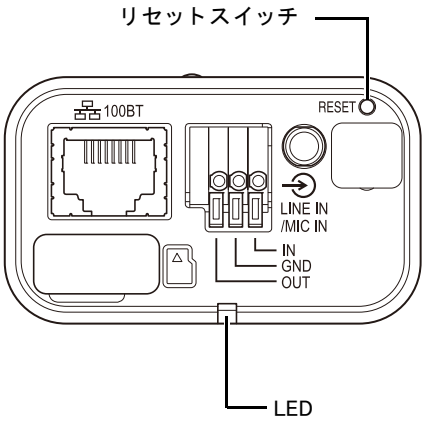
VB-S32VE



VB-S32D、VB-S820D



VB-S920F



4 トップカバーを取り付ける S32VE

トップカバーの取り付けかたについては、『設置ガイド』を参照してください。

工場出荷設定一覧

[映像] > [映像]

ストリーム1	
映像圧縮方式	H.264
映像サイズ	1920x1080
フレームレート (fps)	30
プロファイル	High
ビットレート制御	MBR
映像品質	6
最大ビットレート (kbps)	2048
目標ビットレート (kbps)	2048
Iフレーム間隔 (秒)	1
ストリーム2	
映像圧縮方式	H.264
映像サイズ	1280x720
フレームレート (fps)	30
プロファイル	High
ビットレート制御	MBR
映像品質	6
最大ビットレート (kbps)	2048
目標ビットレート (kbps)	2048
Iフレーム間隔 (秒)	1
ストリーム3	
映像圧縮方式	JPEG
映像サイズ	1920x1080
最大送信フレームレート (fps)	30.0
映像品質	6
ストリーム4	
映像圧縮方式	JPEG
映像サイズ	1280x720
最大送信フレームレート (fps)	30.0
映像品質	6
デジタルPTZ	
映像圧縮方式	JPEG
映像サイズ	640x360
フレームレート (fps)	30
プロファイル	High
ビットレート制御	MBR
最大送信フレームレート (fps)	30.0
映像品質	6
最大ビットレート (kbps)	128
目標ビットレート (kbps)	128
Iフレーム間隔 (秒)	1

[映像] > [プリセット巡回] HM4x S820D/S920F

ルート一覧 HM4x	
有効条件	使用しない
ルート名	
ルート名 (半角英数字)	
時間帯の指定	指定しない
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
ルートの反転	反転しない
移動速度 (PT)	1 (遅い)
移動速度 (Z)	1 (遅い)
静止時間 (秒)	1
ルート S820D/S920F	
有効条件	使用しない
時間帯の指定	指定しない
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
静止時間 (秒)	1

[映像] > [ピクチャー (オプション)]

カメラ制御	
デジタルズーム HM4x S32VE S32D	使用する
拡張デジタルズーム HM4x	使用しない
最大デジタルズーム倍率 HM4x	5
ブレ補正 HM4x	使用しない
スマートシェード補正強度 (オート)	中
かすみ補正強度 (オート)	中
動き適応ノイズリダクション	使用しない
パン・チルト速度制御 HM4x S32VE S32D	一定速度で制御
AFレスポンス HM4x S32VE S32D	ハイ
デイナイト	
デイナイトフォーカス制御 HM4x	ワンショットAF
切り換える明るさ	標準
応答性 (秒)	20

[映像] > [ADSR]

ADSR全般	
データ量低減レベル	中
ストリーム1で使用	使用しない
ストリーム2で使用	使用しない

[映像] > [オンスクリーン表示]

日付表示	
日付表示	表示しない
日付表示フォーマット	YYYY/MM/DD
時刻表示	
時刻表示	表示しない
テキスト表示	
テキスト表示	表示しない
テキスト文字列	
テキスト表示位置	上
共通設定	
文字の大きさ	中
文字の色	白
背景の色	黒
文字と背景の濃さ	文字と背景を塗りつぶす
文字の輪郭	無効
日付・時刻表示位置	上

[映像] > [プライバシーマスク]

プライバシーマスク全般	
色	黒

[映像] > [可視範囲] HM4x S32VE S32D

可視範囲制限	
可視範囲制限	適用しない

[音声] > [音声]

音声全般	
音声入力の使用	使用しない
入力音量	50
出力音量 HM4x S32VE	50
低域カット S32VE	無効
音声通信方式 HM4x S32VE	全二重
音声入力モード HM4x S32D S820D/S920F	ライン・イン
AAC-LC	
サンプリング周波数 (kHz)	48
ビットレート (kbps)	128
音声サーバー	
カメラからの音声送信	送信しない
無音検出	検出しない
ビューワーからの音声受信 HM4x S32VE	受信しない
パン・チルト中のミュート S32VE	ミュートしない

[映像記録] > [アップロード]

映像記録設定	
映像記録動作	アップロード
映像種別	ストリーム1 H.264 1920x1080
アップロード全般	
アップロードの動作	アップロード無効
フレームレート	1
イベント前バッファ (枚数)	0
イベント後バッファ (枚数)	0
イベント前バッファ (秒)	0
イベント後バッファ (秒)	0
FTPアップロード	
通報内容	映像
SSL通信	無効
サーバー証明書の検証	検証する
FTPサーバー	
ユーザー名	
PASVモード	使用する
ファイルアップロードパス	
ファイル名記録方式	年月日時分秒ms
作成サブディレクトリ名	
作成ファイル名	image.jpg
作成ファイル名	video.mp4
最大ループ数	0
HTTPアップロード	
通報内容	通知
SSL通信	無効
サーバー証明書の検証	検証する
URI	
ユーザー名	
プロキシサーバー	
プロキシポート番号	80
プロキシユーザー名	
パラメーター (query string)	

[映像記録] > [メモリーカード記録]

映像記録設定	
映像記録動作	アップロード
映像種別	ストリーム1 H.264 1920x1080
メモリーカードの操作	
動作設定	ログと映像を保存する
常時録画	無効
イベント前バッファ (枚数)	0
イベント後バッファ (枚数)	0
イベント前バッファ (秒)	0
イベント後バッファ (秒)	0
映像の上書き	有効
映像の自動削除	無効
保存日数	30
削除時刻	00:00

[映像記録] > [メール通報]

メール通報	
通報内容	テキストのみ
メールサーバー	
メールポート番号	25
差出人メールアドレス (From)	
宛先メールアドレス (To)	
メール認証方式	なし
ユーザー名	
サーバー証明書の検証	検証する
POPサーバー	
表題	
本文	

[検知] > [音声検知]

音量検知	
音量検知イベント	使用しない
検知条件	基準音量レベル以上
基準音量レベル	50
検知条件の継続時間 (秒)	0
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効

[イベント] > [外部デバイス]

外部デバイス出力 S32VE S32D S820D/S920F	
動作モード	ノーマルオープン
アクティブ出力の形式	連続
パルスの出力時間 (秒)	1
外部デバイス出力1、2 HM4x	
動作モード	ノーマルオープン
アクティブ出力の形式	連続
パルスの出力時間 (秒)	1
外部デバイス入力	
外部デバイス入力イベント	使用する
外部デバイス入力1 タイトル表示は HM4x のみ	
動作モード	ノーマルオープン
アクティブイベント時の動作	無効
インアクティブイベント時の動作	無効
アクティブイベント中の動作	無効
プリセット HM4x S32VE S32D	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
アクティブイベント時の外部デバイス出力	無効
インアクティブイベント時の外部デバイス出力	無効
アクティブイベント時の音声再生 HM4x S32VE	再生しない
インアクティブイベント時の音声再生 HM4x S32VE	再生しない
再生音 HM4x S32VE	
音量 HM4x S32VE	50
デイナイト切り換え	無効
外部デバイス入力2 HM4x	
動作モード	ノーマルオープン
アクティブイベント時の動作	無効
インアクティブイベント時の動作	無効
アクティブイベント中の動作	無効
プリセット	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
アクティブイベント時の外部デバイス出力	無効
インアクティブイベント時の外部デバイス出力	無効
アクティブイベント時の音声再生	再生しない

インアクティブイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
デイナイト切り換え	無効

[**イベント**] > [**タイマー**]

タイマー 1	
タイマーイベント	使用しない
24時間連続設定	無効
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
動作	
開始時刻のプリセット HM4x S32VE S32D	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力	無効
デイナイト切り換え	無効
タイマー 2～4	
タイマーイベント	使用しない
24時間連続設定	無効
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
動作	
開始時刻のプリセット HM4x S32VE S32D	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力	無効

[**イベント**] > [**デイナイト切り換え**]

デイナイト切り換え	
デイモード切り換え時のプリセット	指定しない
ナイトモード切り換え時のプリセット	指定しない

[**イベント**] > [**連結イベント**]

連結イベント 1～4	
連結イベント	使用しない
イベント連結方法	AND
イベント順序	指定しない
イベント間隔 (秒)	2

イベント 1、2	
イベント種別 (イベント1)	外部デバイス入力
イベント種別 (イベント2)	インテリジェント機能
音量検知状態	ON
外部デバイス入力 HM4x	入力1
外部デバイス入力状態	アクティブ
タイマー	タイマー 1
インテリジェント機能	設定1
インテリジェント機能状態	ON
動作	
ONイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
プリセット HM4x S32VE S32D	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
ONイベント時の音声再生 HM4x S32VE	再生しない
OFFイベント時の音声再生 HM4x S32VE	再生しない
再生音 HM4x S32VE	
音量 HM4x S32VE	50

[**サーバー**] > [**サーバー**]

HTTPサーバー	
認証方式	Digest認証
HTTPポート番号	80
HTTPSポート番号	443
SNMPサーバー	
SNMPv1, v2cの使用	使用しない
SNMPv3の使用	使用しない
管理者連絡先	
管理用の機器名称	(機種名)
設置場所	
SNMPv3サーバー	
ユーザー名	
セキュリティレベル	認証なし、暗号化なし
認証アルゴリズム	SHA1
暗号化アルゴリズム	AES

[サーバー] > [映像サーバー]

映像サーバー	
最大クライアント数	30
最大制御権待ち数	30
最大接続時間 (秒)	0
カメラ制御時間 (秒)	20

[サーバー] > [RTPサーバー]

RTPサーバー	
RTPの使用	使用する
RTSP認証方式	Digest認証
RTSPポート番号	554
音声設定 1	
音声圧縮方式	G.711
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声設定 2	
音声圧縮方式	AAC-LC
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
RTPストリーム 1〜5	
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声送信	使用しない

[ONVIF] > [ONVIF]

WS-Security	
認証時の時刻チェック	チェックする
Media Profile設定	
Media Profileリスト	profile1 - ストリーム1 H.264 1920x1080 profile2 - ストリーム2 H.264 1280x720 profile3 - ストリーム3 JPEG 1920x1080 profile4 - ストリーム4 JPEG 1280x720 profile5 - デジタル PTZ 640x360

[セキュリティ] > [SSL/TLS]

暗号化通信	
HTTPS接続ポリシー	HTTPとHTTPS
サーバー証明書	
証明書の有効期間	2001/1/1 - 2037/12/31

[セキュリティ] > [802.1X]

802.1X認証	
802.1X認証の使用	使用しない
認証の状態	停止
認証方式	
認証方式	EAP-TLS
ユーザー名	
クライアント証明書	
証明書の有効期間	選択されていません

[セキュリティ] > [ユーザー管理]

管理者アカウント	
管理者名	
登録ユーザーアカウント	
ユーザーリスト	
ユーザー権限	
登録ユーザーのカメラ権限	映像配信＋特権カメラ制御
一般ユーザーのカメラ権限	アクセス権限なし
登録ユーザーの音声配信	配信する
一般ユーザーの音声配信	配信しない

[セキュリティ] > [ホストアクセス制限]

IPv4ホストアクセス制限	
ホストアクセス制限の適用	適用しない
デフォルトポリシー	アクセスを許可する
IPv6ホストアクセス制限	
ホストアクセス制限の適用	適用しない
デフォルトポリシー	アクセスを許可する

[システム] > [システム]

カメラ名	
カメラ名	(機種名)
カメラ名 (半角英数字)	(機種名)
設置条件	
ドーム HM4x	使用しない
LEDの点灯	点灯する
映像反転	反転しない
カメラ位置制御	
プリセットに限定 HM4x S32VE S32D	限定しない

制御権を持たない時の動作	ホームポジションへ移動しない
外部デバイス入力 S32VE S32D S820D/S920F 外部入力デバイス1、2 HM4x	
デバイス名	
デバイス名 (半角英数字)	
外部デバイス出力 S32VE S32D S820D/S920F 外部出力デバイス1、2 HM4x	
デバイス名	
デバイス名 (半角英数字)	

[システム] > [ビューワー]

全般	
デフォルトページ	設定ページを表示
ビューワー設定	
ユーザー認証	認証する
映像表示の回転 S820D/S920F	回転しない
ビューワーでのピクチャー調整	許可しない

[システム] > [日付と時刻]

設定	
設定方法	手動で設定する
NTPサーバーの自動設定	使用しない
NTPサーバー	
NTPサーバー (DHCP)	
NTPサーバー (DHCPv6)	
同期間隔 (分)	5
最終同期時刻	
タイムゾーン	(GMT+9:00) 大阪、札幌、東京
サマータイム	自動調整しない

[システム] > [ネットワーク]

LAN	
最大パケットサイズ	1500
IPv4	
IPv4アドレス設定方式	自動設定 (DHCP)
IPv4アドレス	192.168.100.1
IPv4アドレス (DHCP)	
サブネットマスク	255.255.255.0
IPv4デフォルトゲートウェイアドレス	
IPv4デフォルトゲートウェイアドレス (DHCP)	
AutoIPの使用	使用する
IPv4アドレス (AutoIP)	
IPv6	
IPv6の使用	使用する
自動設定 (RA)	有効
自動設定 (DHCPv6)	有効
IPv6アドレス (マニュアル設定)	
プレフィックス長	64
IPv6デフォルトゲートウェイアドレス	
IPv6アドレス (自動設定)	
DNS	
ネームサーバーアドレス 1	
ネームサーバーアドレス 2	
ネームサーバーアドレスの自動設定	DHCP / DHCPv6を使用する
ネームサーバーアドレス (DHCP)	
ネームサーバーアドレス (DHCPv6)	
ホスト名	
ホスト名のDDNS登録	登録しない
サーチドメイン	
サーチドメインリスト	
mDNS	
mDNSの使用	使用する

[メンテナンス] > [環境]

環境	
システム周波数 (Hz)	60
WDR	弱
インテリジェント機能	無効

[メンテナンス] > [ログ]

ログ通知	
ログ通知の使用	使用しない
通知レベル	エラー
メールサーバー	
メールポート番号	25
差出人メールアドレス (From)	
宛先メールアドレス (To)	
メール認証方式	なし
ユーザー名	
サーバー証明書の検証	検証する
POPサーバー	
表題	

日常のお手入れ

映像の確認

定期的に、設定した撮影範囲からずれていないか、フォーカスが合っているかなどを確認します。
必要に応じて再調整してください。

清掃方法

作業を開始する前に、電源を切ってください。

■ ドームカバー、トップカバーおよび保護窓のお手入れ

1 ホコリや砂粒などの付着物を、きれいな水で湿らせたやわらかい布で拭き取る*

* 屋外専用のカメラ S32VE は、きれいな水 (水道水など) で流すこともできます。

2 指紋や油分など水だけで取れない汚れは、食器用中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかいスポンジや布に含ませ、やさしく拭き取る

3 水滴や洗剤が残らないように、きれいな水で湿らせたやわらかい布で拭く

⚠ 警告
アルコールやシンナー、ベンジンなど引火性溶剤は使用しないでください。 火災、感電の原因になります。

⚠ 注意
取付金具やネジのさびつき、ネジの緩みがないか定期的に点検を行ってください。点検は販売店にご依頼ください。 落下によるけがや機器の破損の原因になります。

重 要

- 誤った清掃方法により、ドームカバーやトップカバー、保護窓に傷がついた場合、有償による交換が必要となるため、次の点に注意してお手入れしてください。
  - ホコリ、砂粒、指紋などの汚れにより、オートフォーカスがうまく動作しなかったり、逆光や赤外照明が反射して映像が白く曇ることがあります。映像品質を維持するためには定期的な清掃が必要です。
  - 乾いた布では拭かないでください。特に付着した汚れを取り除かず、そのまま布などで拭くことは絶対にしないでください。ドームカバー、トップカバーおよび保護窓を傷つける原因になります。

■ レンズのお手入れ

市販のレンズクリーナーを使用し、レンズ表面の汚れを落とします。

- レンズ表面に傷を付けると、画像不良の原因になります。
- レンズ表面にほこりや汚れがついていると、オートフォーカスがうまく動作しないことがあります。
  HM4x S32VE S32D

カメラの廃棄

カメラを廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。
その際、カメラを初期化して、カメラの設定情報をすべて消去してください (P. 182)。また、メモリーカードの抜き忘れに十分ご注意ください。

索引

数字

802.1X認証 141

A

ADSR 80
AGCリミット 65
AutoIP 153

D

DHCP 152
DHCPv6 153
DNS 154

H

H.264/H.265映像 16
HTTPSポート番号 132
HTTPサーバー 132
HTTPポート番号 132

I

IPv4 152
IPv4アドレス 153
IPv6 153

J

JPEG 32

L

LAN 152
LED 146

M

mDNS 154

N

NTPサーバー 149

R

RTP 135
RTSP 135

S

SNMPサーバー 132

ア

アクセス制限 28
アップロード 97
アンマウント 102

イ

一般カメラ制御 143
一般ユーザー 143
イベント後バッファ 102
イベントと入出力
　映像検知 50
　音声検知 50
　外部デバイス出力 50
　外部デバイス入力 50
　連結イベント 51
イベント表示 50
イベント前バッファ 102
色の濃さ 70
インストール 20

エ

映像管理情報 151
映像記録 107, 123, 126, 129
映像記録動作 97, 102
映像検知 50
映像サーバー 134
映像サイズ 32, 136
映像ストリーム 59
映像と音声
　映像サイズ 32
　最大フレームレート 32
　表示サイズ設定 32
映像の上書き 102
映像の自動削除 102
映像配信 143
映像反転 146
映像表示の回転 148
映像表示部 29, 55
映像保存 103
エラーメッセージ 180
エリアズーム 37

オ

オンスクリーン表示 82
音声検知 50, 106

音声サーバー 95
音声受信 48, 96
音声送信 48, 95
音声通信方式 95
音声入力の使用 94
音声入力モード 95
音声配信 143
音声マルチキャスト 135
音量 48, 49, 124
音量検知 106

カ

外部出力デバイス 147
外部デバイス出力 122
外部デバイス入力 50, 122
外部入力デバイス 147
顔検知 111, 120
拡張デジタルズーム 37
可視範囲 87
かすみ補正 67
カメラ位置 63
カメラ制御権 35
カメラ制御時間 134
カメラ操作
　ズーム 39
　ズーム速度 39
　デイナイト 41
　パン/チルト 39
　パン/チルト速度 39
　フォーカス 40
　露出補正 41
カメラビューワー 26, 27
カメラマネジメントツール 15
カメラ名 146
簡単カメラ設定 64
管理者 143
管理者アカウント 142
管理者パスワード 142

キ

基準音量レベル 106
逆光補正 41

ケ

警告メッセージ 180
ゲイン 66, 70
権限 143
言語換り換えボタン 54
現在の音量レベル 106
検知条件 106

コ

工場出荷設定 182, 184

サ

再生音ファイル登録 96
再接続 56
最大クライアント数 134
最大制御権待ち数 134
最大接続時間 134
最大パケットサイズ 152
最大ビットレート 60
サブネットマスク 153
サマータイム 150

シ

時刻 149
絞り 66
シャープネス 70
シャッタースピード 66
シャッターリミット 65
修飾子 163
出力音量 95
手動録画 47
巡回ルートの設定 76
情報メッセージ 180
信頼済みサイト 21

ス

ズーム 36, 39
スナップショット 46, 56
スマートシェード補正 67

セ

制御権 35
静止画 46
赤外線カットフィルター 67
設置ガイド 11
設定値のバックアップ 157
設定値のリストア 157
設定ページ 52
設定メニュー 54
全画面表示 33

ソ

測光方式 66

タ

タイマー 125
タイムゾーン 150

チ

チルト 36, 39

ツ

通報内容 104

テ

低域カット 94
デイナイト 41, 67
デイナイト切り換え 124, 126, 127
デイモード 41, 67
デジタルPTZ 44
デジタルズーム 37
デバイス名 147
デフォルトゲートウェイアドレス 153
デフォルトページ 148

ト

ドーム 146
動作設定 102
動作モード 122, 123
登録ユーザー 142, 143
特権カメラ制御 143
ドラッグムーブ 38
トラブルシューティング 165

ナ

ナイトモード 41, 67

ニ

入力音量 94
認証方式 132, 141

ネ

ネームサーバーアドレス 154
ネットワーク 152
ネットワークアドレス/サブネット 144

ノ

ノイズリダクション 70

ハ

パスワード 142
バックアップ 157
パノラマ 91
パノラマ画面 56, 75
パノラマ表示パネル 39
パラメーター 163
パルス 122
パン 36, 39
パン・チルト中のミュート 96

ヒ

日付 149
ビューワー
　カメラビューワー 15, 26
　モバイルカメラビューワー 11, 15
ビューワー PTZ 42
ビューワーメッセージ 180
表示サイズ 32

フ

ファームウェア 158
ファイアウォール 21
フォーカス 40, 68
フォーカス調整 69
フォーマット 151
プライバシーマスク 84
プリセット 41, 45, 63, 71, 107, 123, 129
　タイマー開始時刻 125
　デイナイト切り換え時 127
プリセット巡回 74
プリセット選択ボックス 41
プリセット名 72
プレフィックス 145, 153

ホ

ホームポジション 41, 71
ホストアクセス制限 144
ホワイトバランス 69

マ

マウント 102
マルチキャストDNS 154

ム

無音検出 95

メ

メール通報 104, 107, 123, 126, 129
メイン
　言語切り替えボタン 30
　設定ページ 29
　モバイルカメラビューワー 30
　ユーザー切り替え 30

メッセージ
エラーメッセージ 180
警告メッセージ 180
情報メッセージ 180
ログメッセージ 168
メモリーカード 14, 151
メモリーカードの情報 151
メモリーカード容量 103
メモリーカード録画 47
メンテナンス 155

モ

モバイルカメラビューワー 11, 15, 17

ユ

ユーザーアカウント 142
ユーザー管理 142
ユーザー権限 143
ユーザー認証 148
ユーザー名 142
ユーザーリスト 142

リ

リストア 157
リセットスイッチ 182

レ

連結イベント 51, 128

ロ

ログ 160
録画映像ユーティリティ 11, 15, 47
ログメッセージ 168
露出 65
露出補正 41, 66

ワ

ワンショットAF 69
ワンショットWB 70

お問い合わせ先

製品に関するお問い合わせは、サポートページまたはお客様相談センターをご利用ください。

■ サポートページ

https://canon.jp/support

■ キヤノンお客様相談センター

0570-08-0074

受付時間<平日> 9:00 ～ 17:00 (土･日･祝日および年末年始弊社休業日は休ませていただきます)

- 上記番号をご利用いただけないかたは 03-6634-4532 をご利用ください。
- IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってはつながらない場合があります。
- 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理対応について

修理対応に必要な補修用性能部品の保有期間は、製品の製造打ち切り後7年間です。
(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です)
弊社の判断により、同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。

BIJ-7321-000
© CANON INC. 2022